
刈谷市
男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

平成 27 年 3 月

刈谷市

目次

調査の概要	1
1. 調査の概要	2
総括	5
1. 市民意識調査の総括	6
市民意識調査 調査結果	11
I. 回答者の属性	12
II. 調査結果	21
1. 男女の地位に関する意識について	21
2. 職業・職場環境について	33
3. 家庭・地域生活について	44
4. セクハラ・DVについて	71
5. 男女共同参画全般について	83
III. 自由回答	97
資料編（調査票）	115

調査の概要

1. 調査の概要

(1) 調査目的

本計画は、刈谷市民の男女共同参画の意識や実態を把握し、「第2次刈谷市男女共同参画プラン」見直しのための資料とすることを目的として実施しました。

(2) 調査項目

- ①回答者の属性について
- ②男女の地位に関する意識について
- ③職業・職場環境について
- ④家庭・地域生活について
- ⑤セクハラ・DVについて
- ⑥男女共同参画全般について

(3) 調査方法

- ①調査対象者 : 平成26年11月現在、刈谷市に居住している20歳以上の市民2,000人
(男女各1,000人)
- ②抽出法 : 年齢、性別を考慮し、住民基本台帳から対象者を無作為に抽出
- ③調査期間 : 平成26年11月10日～11月25日まで
- ④調査方法 : 調査票による本人記入方式
郵送配布・郵送回収による郵送調査方法 (ハガキによる督促1回)

(4) 回収結果

	配布数	有効回収数	回収率
合計	2,000	867	43.4%
男性	1,000	356	35.6%
女性	1,000	501	50.1%

※合計には性別不詳の10を含む。

(5) 報告書の見方

●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果を記載しています。

●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表しています。したがって、各選択肢の%に「N」を乗じることで、その選択肢の回答者数が計算できます。

●「%」について

グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。

●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しています。

●表について

不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

●比較分析について

比較分析において使用した調査名は次のとおりです。

- ・刈谷市平成21年度実施「男女共同参画に関する市民意識調査」
- ・愛知県平成20年度実施「男女共同参画意識に関する調査」
- ・内閣府平成24年度実施「男女共同参画社会に関する世論調査」

有効回収数

対象調査	全体	男性	女性
刈谷市平成21年度実施	1,094	473	605
愛知県平成20年度実施	2,124	971	1,153
内閣府平成24年度実施	3,033	1,432	1,601

※刈谷市平成21年度実施の全体には、性別不詳の16を含む

総括

1. 市民意識調査の総括

(1) 回答者の属性について

回答者の男女比では女性がやや上回っています。年齢層をみると、40歳代、50歳代がともに20%を超えています。

家族構成は「2世代世帯」が41.4%、「単身世帯」が24.0%、「1世代世帯(夫婦のみ)」が21.1%と、大部分が核家族世帯となっています。

職業では、男性は62.4%が「会社員」、女性は「専業主婦」が25.5%、「パート・アルバイト」が25.3%となっています。

年間収入額では、男性は「300万円以上～500万円未満」が32.3%、女性は「0～100万円未満」が46.1%となっています。

結婚の状況では、20歳代の57.9%が「結婚していない」、30歳代～50歳代では70%程度が「結婚している」となっています。

男性の配偶者・パートナーの職業では「専業主婦」が27.8%、「パート・アルバイト」が24.1%、女性の配偶者・パートナーの職業では70.5%が「会社員」となっています。

(2) 男女の地位の平等感について

「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体」「職場」で『男性優遇感』が強く、比較的平等だと感じているのは「学校教育の場」。

男女の平等感については、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの）が「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体」「職場」で高くなっており、特に性別による差がある分野だとわかります。

また「学校教育の場」で「平等である」が48.1%となっており、比較的、性別による平等・不平等の感じ方の差が少ない分野だとわかります。

また、男女別にみるとすべての分野で男性よりも女性で『男性優遇』の割合が高く、多くの女性はあらゆる分野で性差による不平等を感じていることがわかります。

(3) 職業・職場環境について

女性の望ましい働き方は『就労継続』と『子どもができたなら辞め、再就職』で回答が二分している。

進路や職業選択の際の性別への意識は女性の方が『性別を意識した』が高い。

女性が働くことへの障害は「育児の問題」。

職場での性別による不平等な扱いは、男性では「性別によって配置に偏りがある」、女性では「昇進・昇格が遅い、望めない」が多い。

女性が職業を持つことに対する考えでは、男性では、「子どもができれば勤めをやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が、女性では、「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が最も高くなっていますが、この2つの選択肢がほぼ同じ割合であり、回答が二分しています。

進路や職業を選択する際の性別への意識は、男性、女性ともに、「性別をほとんど（全く）意識せずに選択した」と回答した割合が高くなっていますが、女性では「性別をかなり意識して選択した」「どちらかといえば性別を意識して選択した」を合わせた割合が男性より高くなっています。

女性が職業生活を続ける上で障害となっていることでは、男女ともに「育児の問題」が最も高くなっています。

職場で性別によって不平等な扱いを受けているかでは、「特に男女に不平等はない」が最も高いものの、性別によって割合に差があるものとして、男性では「性別によって配置に偏りがある」、女性では「昇進・昇格が遅い、または望めない」「お茶くみなどの雑用を行う社員の性別に偏りがある」が高くなっています。

(4) 仕事と家庭生活の両立について

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」には、男性の41.0%が『賛成』、女性の44.5%が『反対』。

家事、育児、介護に携わる時間は、平日、休日ともに女性のほうが長い。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方については、男性の41.0%が『賛成』、女性の44.5%が『反対』と回答しています。

家事、育児、介護に携わる時間では、平日の男性は「まったく関わっていない」が、女性は「～3時間未満」が最も高くなっています。休日の男性は「～1時間未満」が、女性は「5時間以上」が最も高くなっており、平日、休日ともに、女性のほうが家事、育児、介護時間が長くなっています。

(5) 介護について

現在介護をしている女性は男性より多い。

介護の対象は「自分の親」が多い。

男女ともに「介護施設などで」の介護を望む。

現在の介護の状況については、女性では「している」が男性より高くなっています。また、50歳代では11.4%が「している」と回答しています。

介護している対象については、男性、女性ともに「自分の親」が最も高くなっています。

介護の理想については、男性、女性ともに、「介護施設などで」が最も高くなっています。

(6)生活のバランスについて

男女ともに「仕事」「家庭」や「地域・個人生活」を優先する生活を希望しているが、実際は男性は「仕事優先」、女性は「家庭優先」の生活となっている。

実際と理想の生活のバランスについてみると、理想は男性、女性ともに「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」する生活が最も高くなっていますが、実際の生活は、男性では「「仕事」を優先」する生活、女性では「「家庭生活」を優先」する生活となっています。多くの市民が、希望するバランスで生活を送れていない状況にあります。

(7)地域・個人の生活について

地域の活動に参加している割合は男性よりも女性で高くなっている。

地域活動での「役職」「催物の企画・決定」「会議等の運営」などは男性が担当することが多く、「お茶くみ・調理」などは女性が担当することが多い。

地域活動については、男女ともに「自治会、公民館の活動」「趣味（スポーツ、娯楽等）のサークル活動」で活動している割合が高くなっています。

現在活動している割合は、多くの項目で男性よりも女性で高くなっています。

地域活動の中での役割分担については、「会長などの役職」「催物の企画・決定」「会議・集会などの運営・取仕切り」で主に男性が担当する割合が高く、「集会などでのお茶くみ・調理」のみ、主に女性が担当する割合が高くなっています。

(8)地域の防災活動について

「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てる取り組みが必要」だと男女ともに考える人が多い。

地域の防災活動の推進については、男性、女性ともに「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」が最も高くなっています。

(9)男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加について

男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加には「コミュニケーションをはかること」が必要と考える人が多い。

男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なことは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高くなっています。

(10)セクシュアル・ハラスメントについて

男性の4.6%、女性の30.1%がセクシュアル・ハラスメントを「経験したことがある」。

内容は、「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかける」が最も高い。

職場におけるセクシュアル・ハラスメントについては、男性の4.6%、女性の30.1%で「経験したことがある」と回答しています。

セクシュアル・ハラスメントの内容は、「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかける」が最も高くなっています。

(11)ドメスティック・バイオレンス(DV)について

女性のDV被害者は14.2%であり、その内容は「身体的な暴力」が多い。

DVを経験した際の相談は、男性は「相談しようとは思わなかった」、女性は「家族・友人・先生などに相談した」が多い。

防止のために必要な施策は、男性が「法律・制度の見直し」、女性が「被害者のケア」。

DVについては、「配偶者・パートナーまたは恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス(DV)」と呼ぶこと」「DVには、なぐる、けるなどの身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」の認知度が高く、男女ともに80%前後で認知されています。

DVの被害経験は、男性で2.0%、女性で14.2%となっています。DVの内容は、男性、女性ともに被害者では「身体的な暴力(なぐる、ける等)」が、加害者では「精神的な暴力(おどす、ののしる、無視する等)」が最も高くなっています。

DVを経験した際(被害または加害)の相談についての状況は、男性は「相談しようとは思わなかった」、女性は「家族・友人・先生などに相談した」が最も高くなっています。「相談しようとは思わなかった」は、男性で81.8%、女性で21.1%、「相談したかったが、相談しなかった」は、男性で13.6%、女性で26.3%となっています。

DVの相談窓口の認知度をみると、「知っている」と「知らない」がほぼ同じ割合で回答が二分しています。また、最も認知されている相談窓口は「警察署」であり、次いで「刈谷市の相談窓口(市民安全課など)」となっています。

DV防止のために必要な取り組みでは、男性では「法律・制度の面で見直しを行う(罰則の強化など)」、女性では「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が最も高くなっています。

(12) 男女共同参画全般について

男女雇用機会均等法の認知度は72.8%。

市の施策は「取り組み自体を知らない」ことが多い。

男女共同参画の推進のために必要な取り組みは、男性の市民では、「家事・育児への積極的な参加」、女性の市民では、「子どもに対し男女平等を基本とする教育を行う」、企業は「両立できる職場環境」、市は「子育て支援の充実」。

男女共同参画に関する用語の認知については、「男女雇用機会均等法」が最も高く、72.8%となっています。

刈谷市の男女共同参画の施策については、すべての項目で「取り組み自体を知らない」が最も高くなっています。その他ではいずれの施策も「ふつう」が最も高くなっていますが、総じて『不十分』（「やや不十分」と「不十分」を合わせたもの）が『十分』（「十分」と「まあ十分」を合わせたもの）を上回っています。

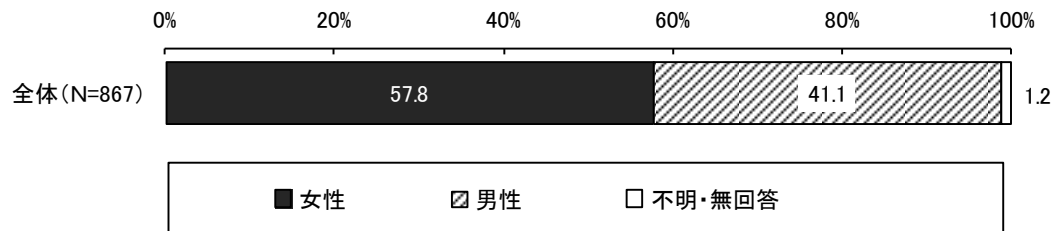
男女共同参画を実現するためにすべき市民の取り組みとしては、男性は「家事や育児に積極的に関わる」、女性は「家庭において、子どもに対し男女平等を基本とする教育を行う」が最も高くなっています。企業の取り組みとしては男女ともに「仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる」が最も高くなっています。市の取り組みとしては、男女ともに「保育施設や保育サービスなどの子育て支援を充実する」が最も高く、特に女性では54.1%となっています。

市民意識調査 調査結果

I. 回答者の属性

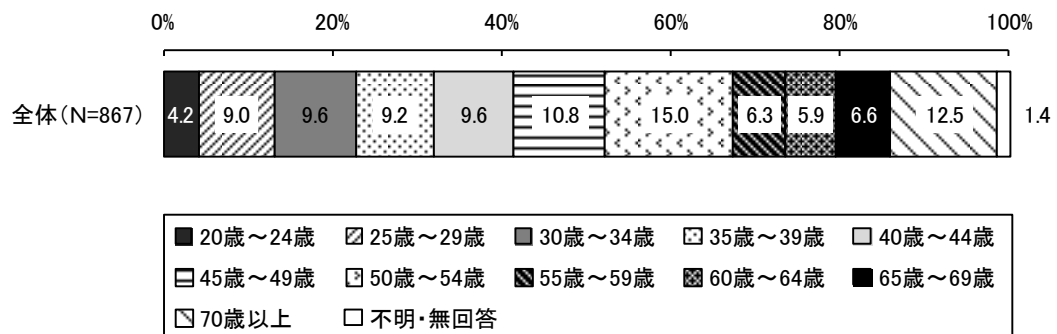
性別

性別は、「女性」が57.8%、「男性」が41.1%となっており、女性は男性より16.7ポイント高くなっています。



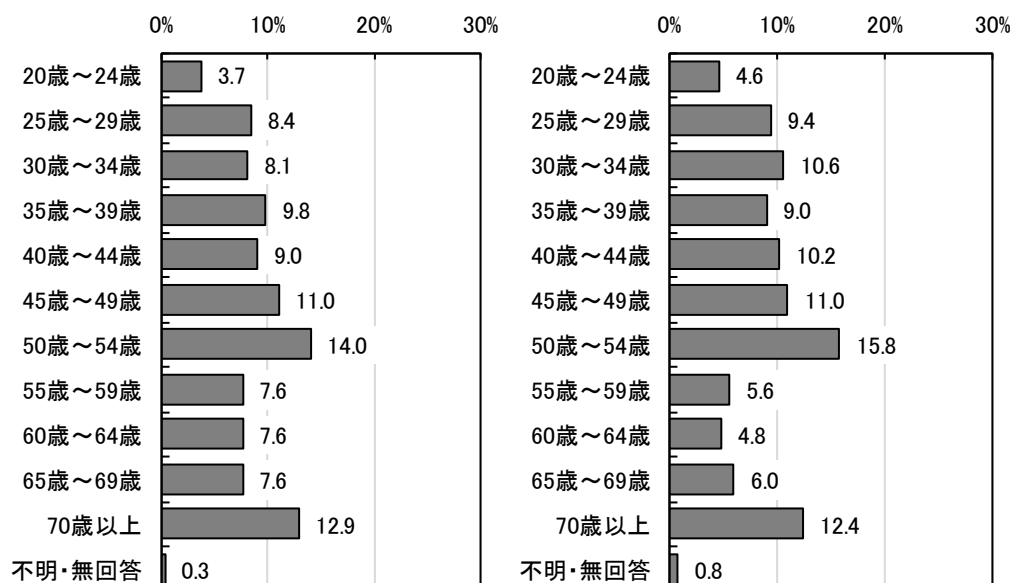
年齢

年齢は、「50歳～54歳」が15.0%と最も高く、次いで「70歳以上」が12.5%、「45歳～49歳」が10.8%となっています。



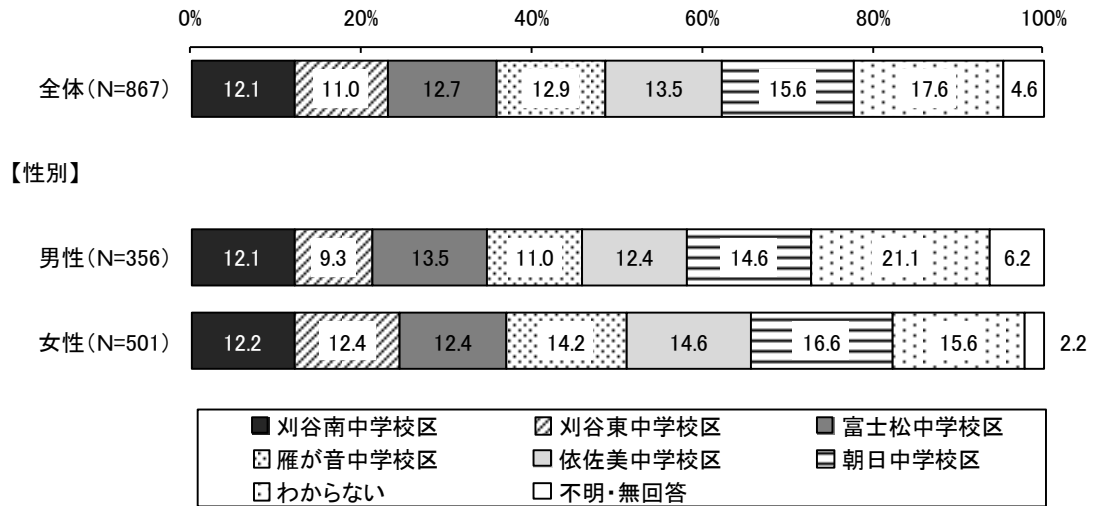
男性 (N=356)

女性 (N=501)



居住地(中学校区別)

居住地（中学校区別）は、「朝日中学校区」が 15.6%と最も高く、次いで「依佐美中学校区」が 13.5%、「雁が音中学校区」が 12.9%となっています。

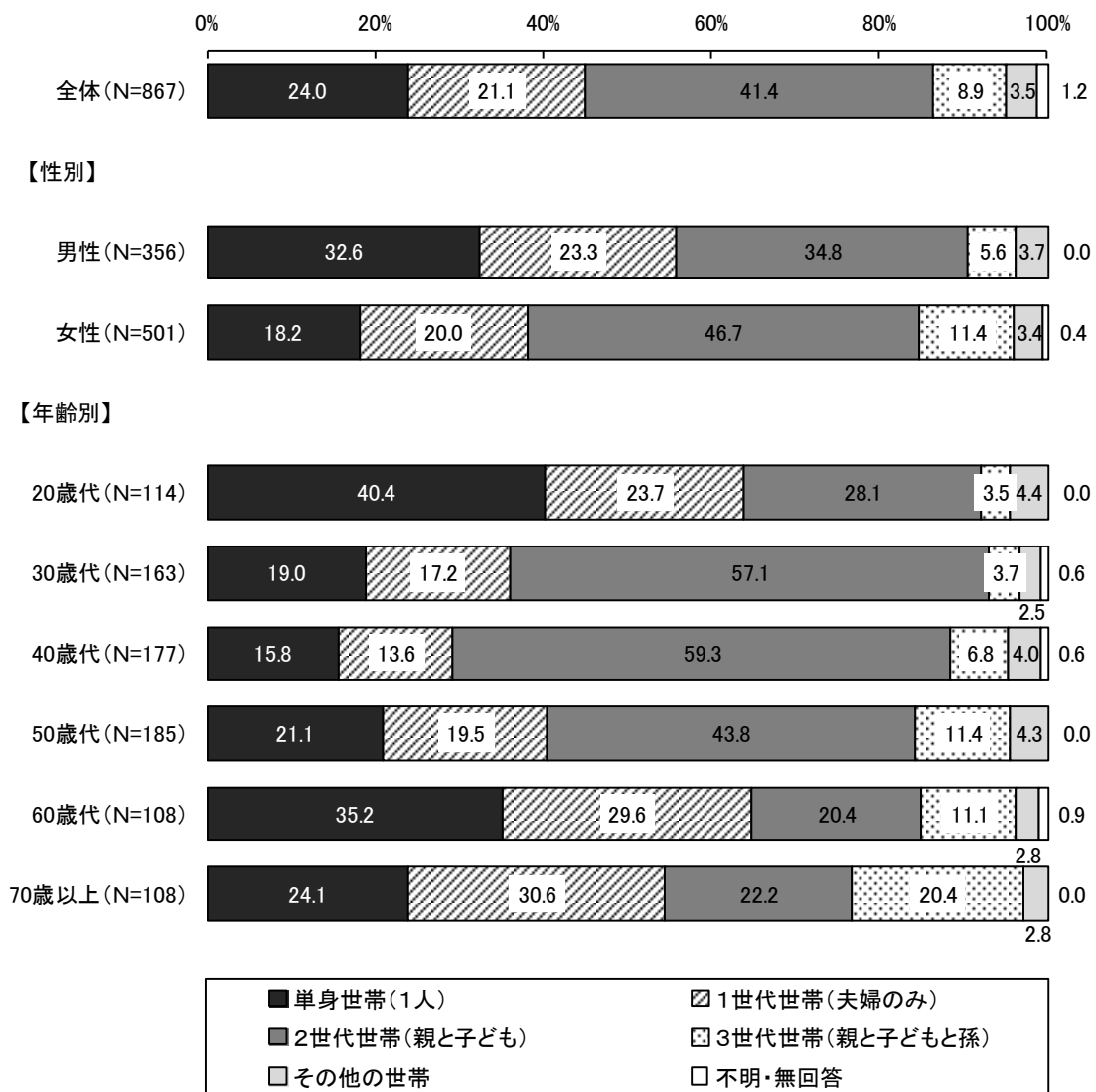


家族構成

家族構成は、全体では「2世代世帯（親と子ども）」が41.4%と最も高く、次いで「単身世帯（1人）」が24.0%となっています。

男女別にみると、男性、女性ともに「2世代世帯（親と子ども）」が最も高く、次いで男性では「単身世帯（1人）」が、女性では「1世代世帯（夫婦のみ）」が高くなっています。

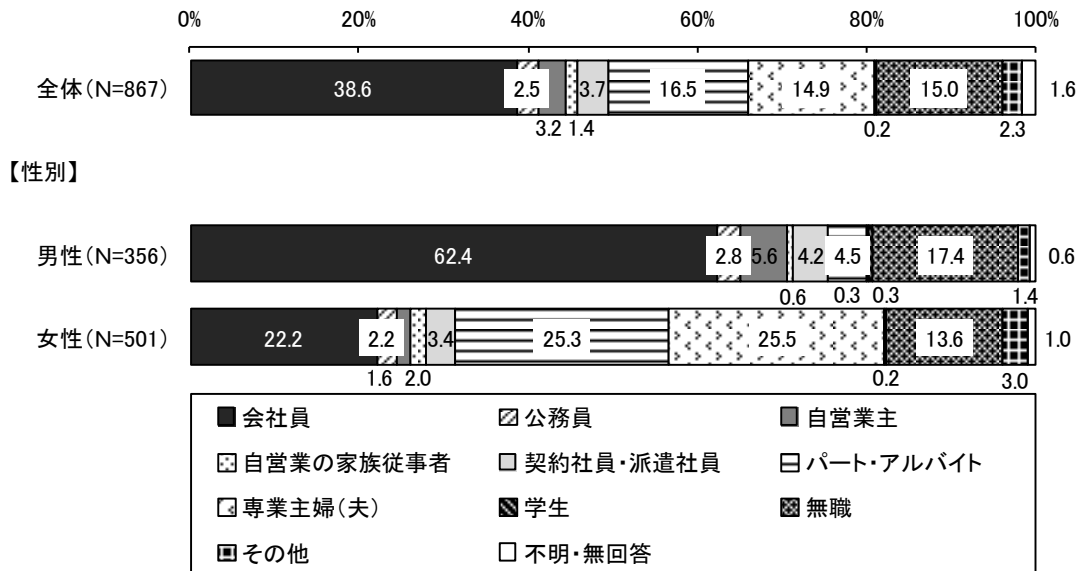
年齢別にみると、30歳代から50歳代の年代において「2世代世帯（親と子ども）」が最も高くなっていますが、20歳代、60歳代では「単身世帯（1人）」が、70歳代では「1世代世帯（夫婦のみ）」が最も高くなっています。



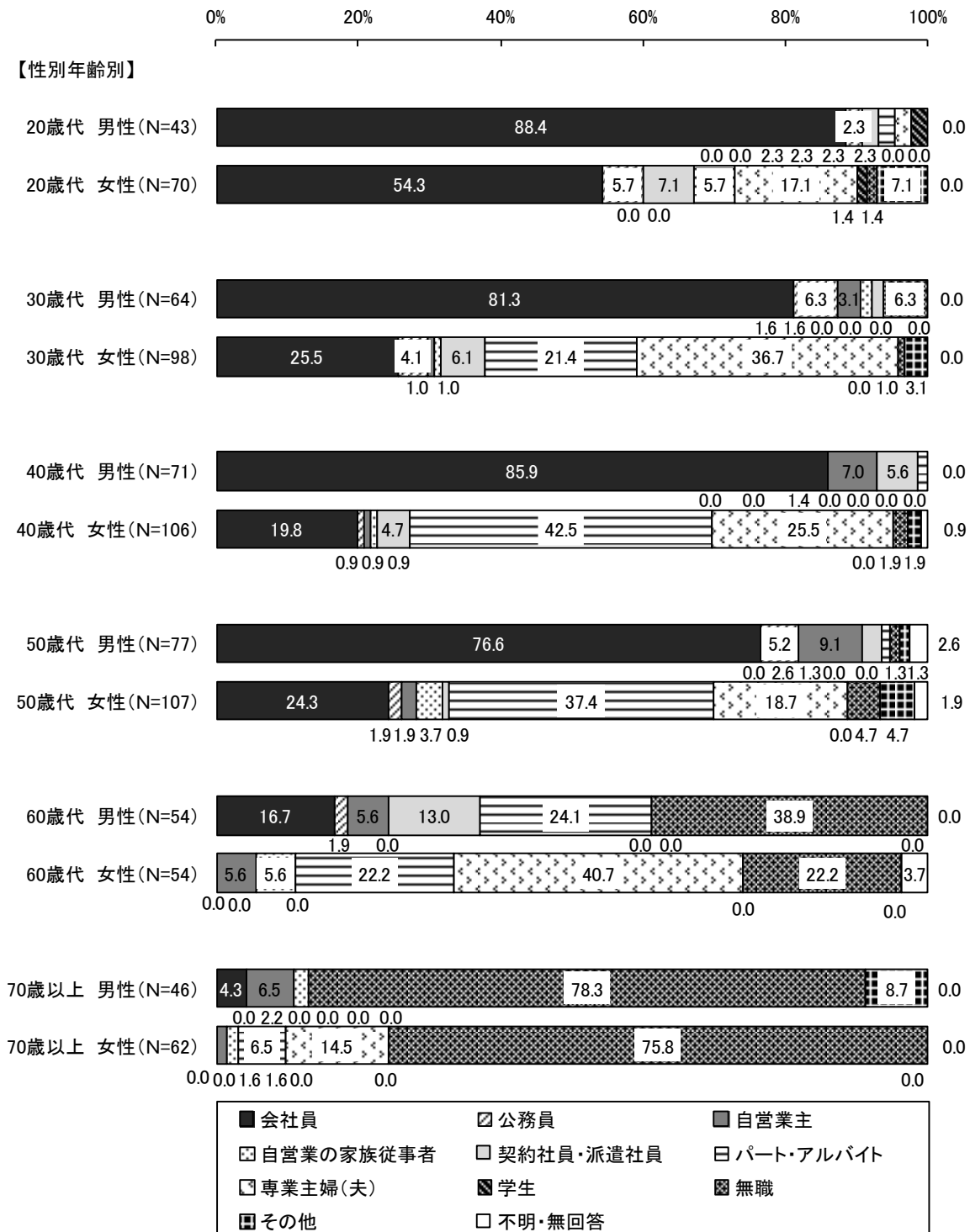
職業

職業は、全体では「会社員」が38.6%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が16.5%、「無職」が15.0%、「専業主婦（夫）」が14.9%となっています。

男女別にみると、男性では「会社員」が62.4%と最も高くなっていますが、女性では「専業主婦」が25.5%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が25.3%となっています。



性別年齢別でみると、男性では20歳代から50歳代で「会社員」が最も高くなっていますが、女性では20歳代で「会社員」、30歳代、60歳代では「専業主婦」、40歳代、50歳代では「パート・アルバイト」が最も高くなっています。

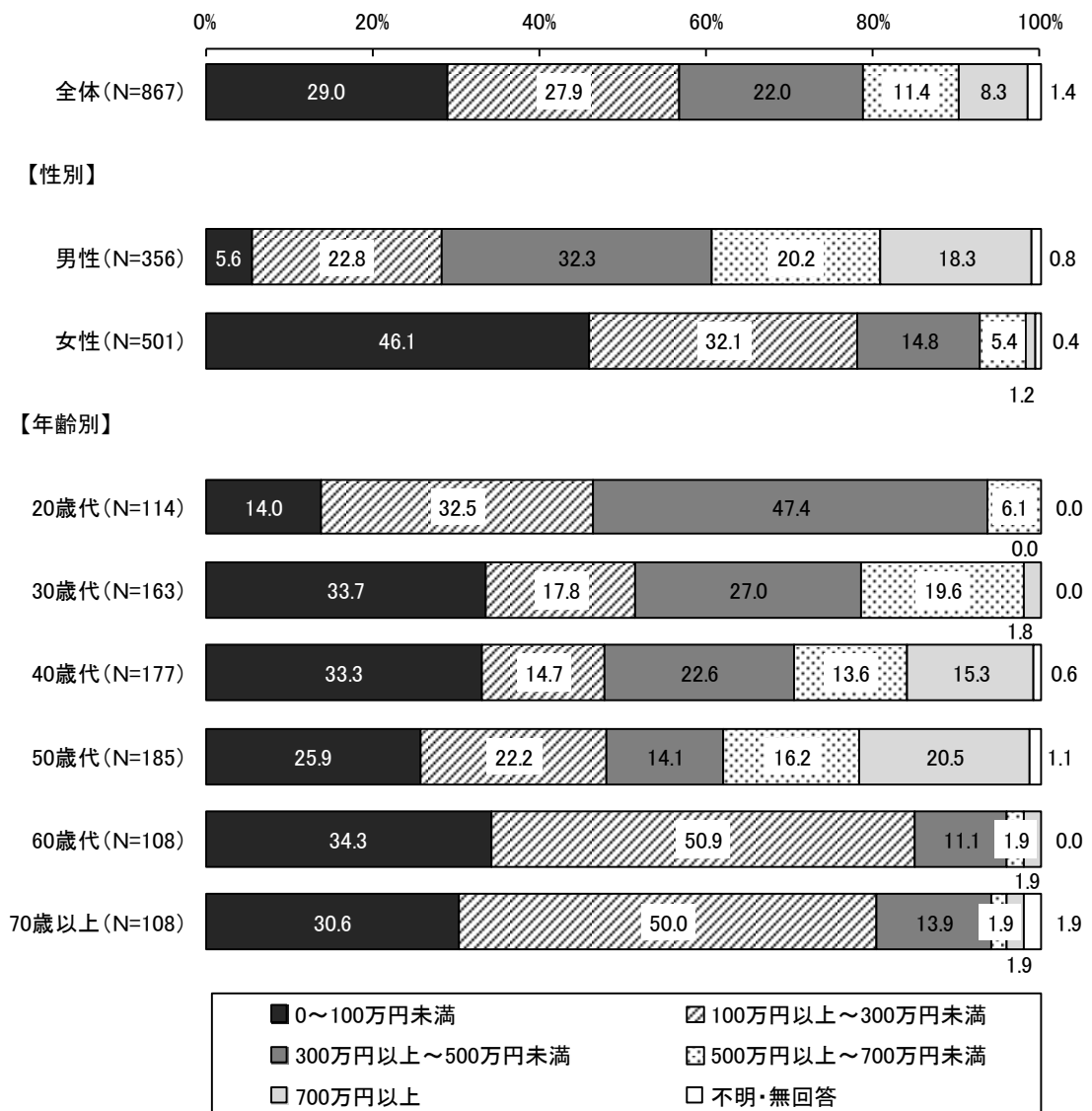


年間収入額(年金収入含む)

年間収入額は、全体では「0～100万円未満」が29.0%と最も高く、次いで「100万円以上～300万円未満」が27.9%、「300万円以上～500万円未満」が22.0%となっています。

男女別にみると、男性では「300万円以上～500万円未満」が32.3%と最も高くなっていますが、女性では「0～100万円未満」が46.1%と最も高くなっています。

年齢別でみると、20歳代は「300万円以上～500万円未満」が、60歳代、70歳以上は「100万円以上～300万円未満」が最も高く、それ以外の年代では「0～100万円未満」が最も高くなっています。

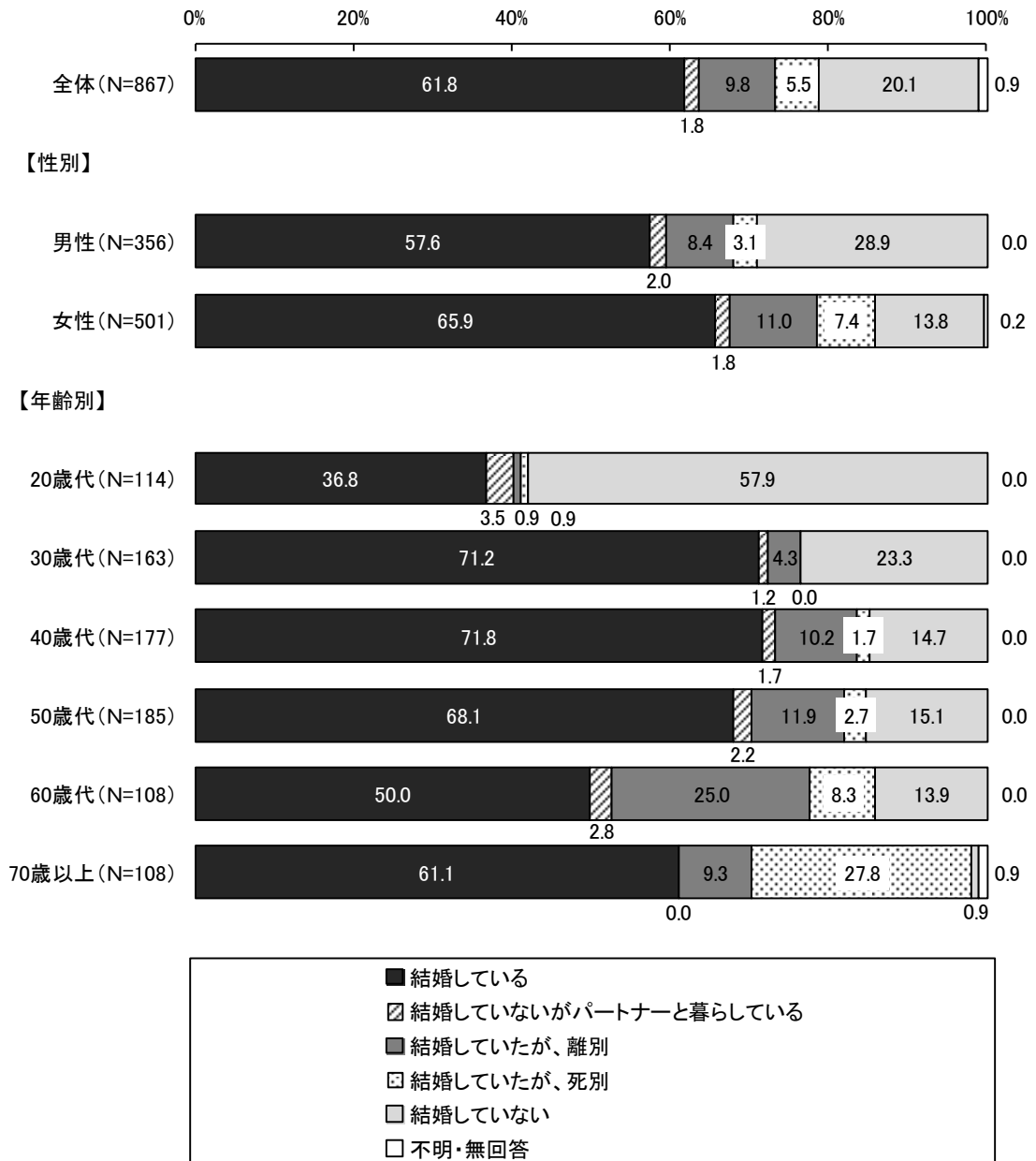


結婚の状況

結婚の状況は、全体では「結婚している」が61.8%と最も高く、次いで「結婚していない」が20.1%となっています。

男女別にみると、男性、女性ともに「結婚している」が最も高くなっています。

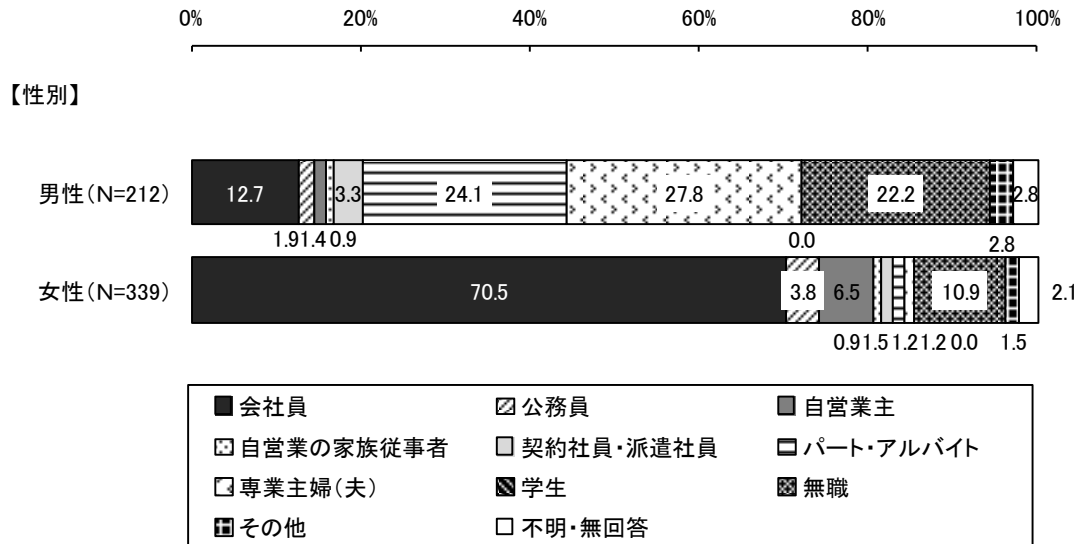
年齢別でみると、30歳代から70歳以上では「結婚している」が最も高く、20歳代では「結婚していない」が57.9%と最も高くなっています。



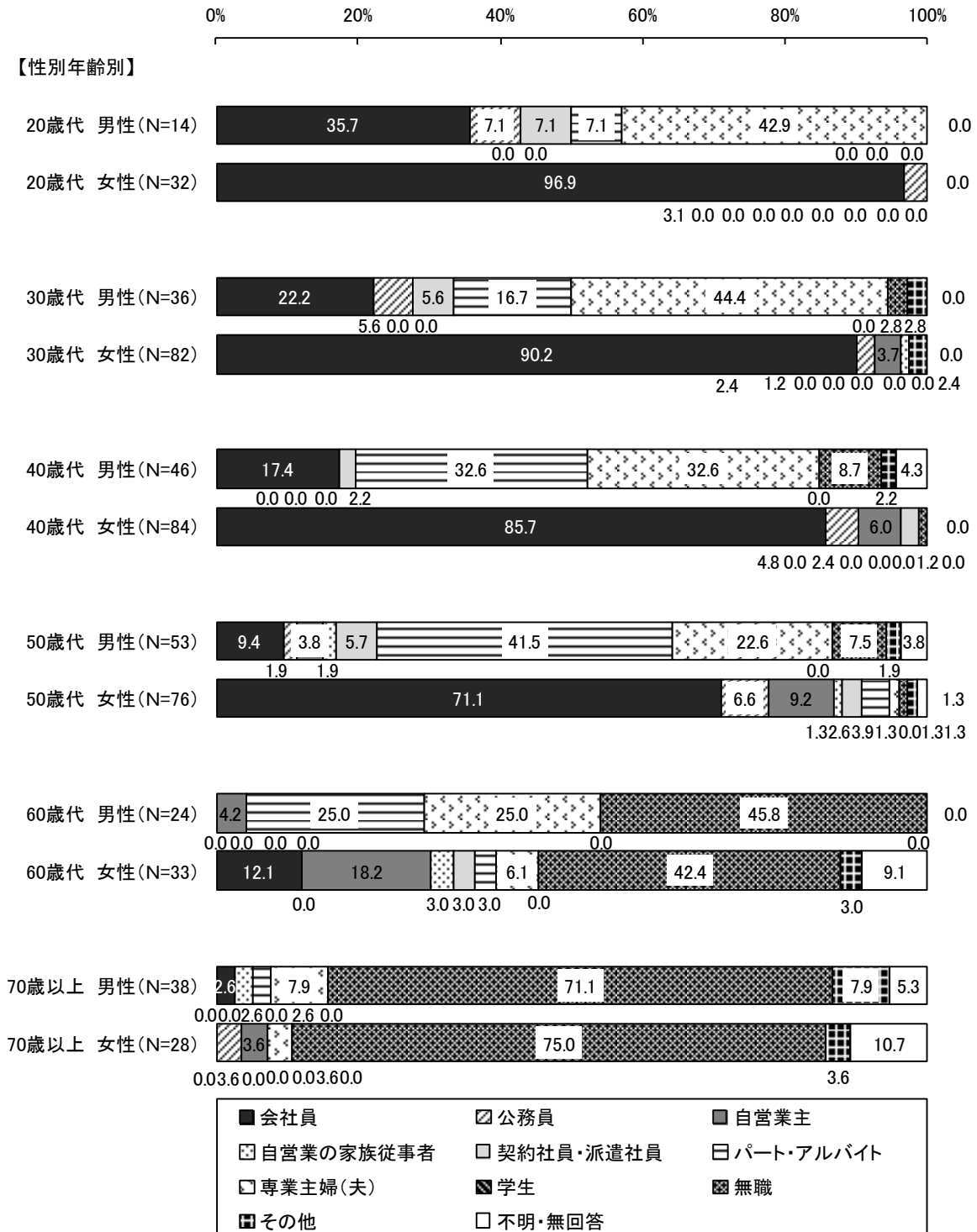
<結婚の状況で「結婚している」「結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方>

配偶者・パートナーの職業

男女別にみると、男性では「専業主婦」が27.8%と最も高くなっていますが、女性では「会社員」が70.5%と最も高くなっています。



性別年齢別でみると、男性では20歳代、30歳代、40歳代では「専業主婦」、40歳代、50歳代では「パート・アルバイト」、60歳代以上では「無職」が最も高くなっていますが、女性では20歳代から50歳代では「会社員」、60歳代以上で「無職」が最も高くなっています。



Ⅱ. 調査結果

1. 男女の地位に関する意識について

問9 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(単数回答)

**男性の優遇感が強い分野は
「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体」「職場」**

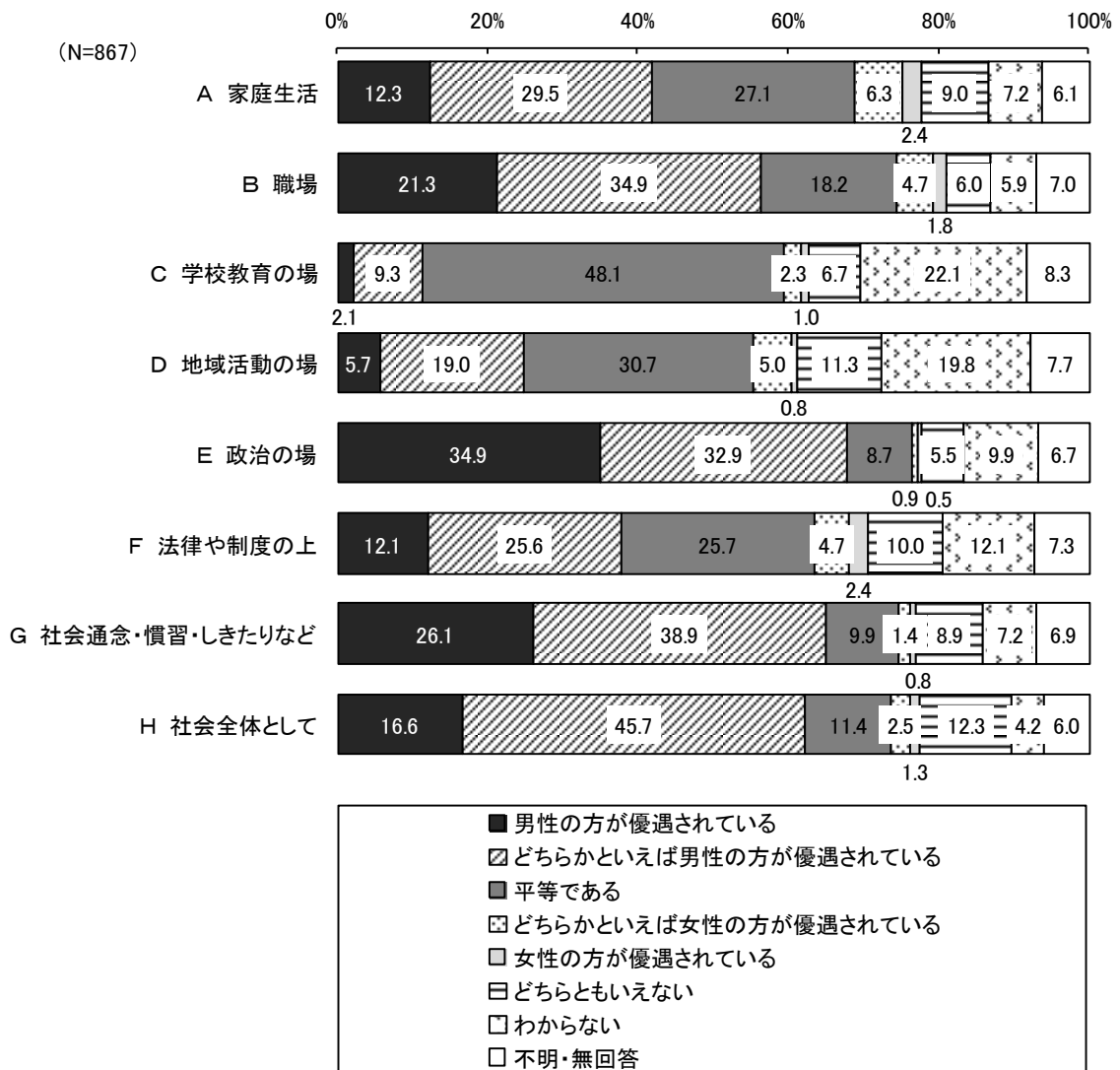
問9の選択肢にかかる表現は以下のように区分しており、このページ以降の文中においても反映されています。

- 『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの
- 『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせたもの

『男性優遇』の割合をみると、「政治の場」が67.8%と最も高く、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」が65.0%、「社会全体として」が62.3%となっています。また、「男性の方が優遇されている」が最も高いのは「政治の場」であり、34.9%となっています。

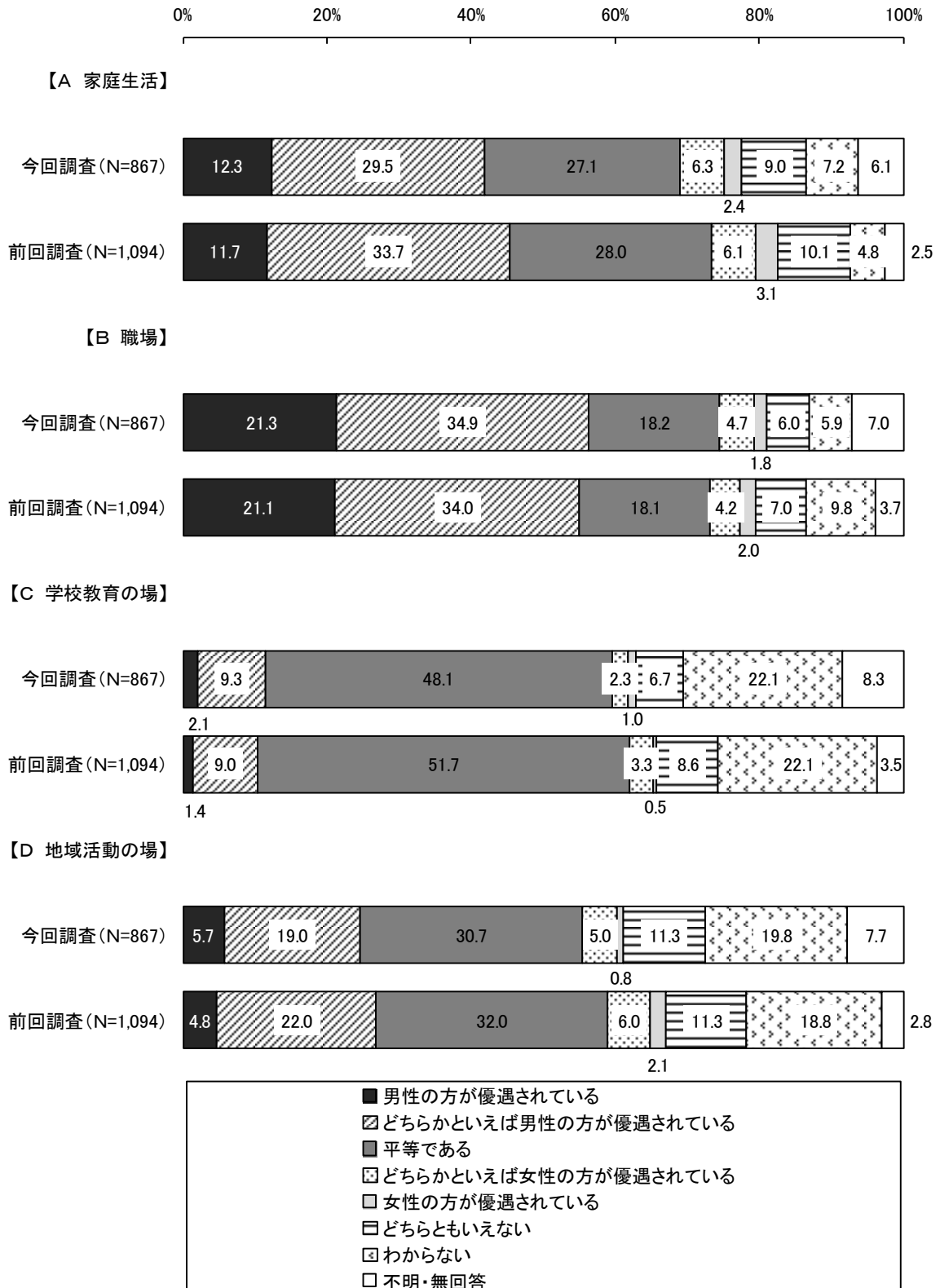
一方で「平等である」の割合が最も高いのは「学校教育の場」が48.1%、「地域活動の場」が30.7%となっています。

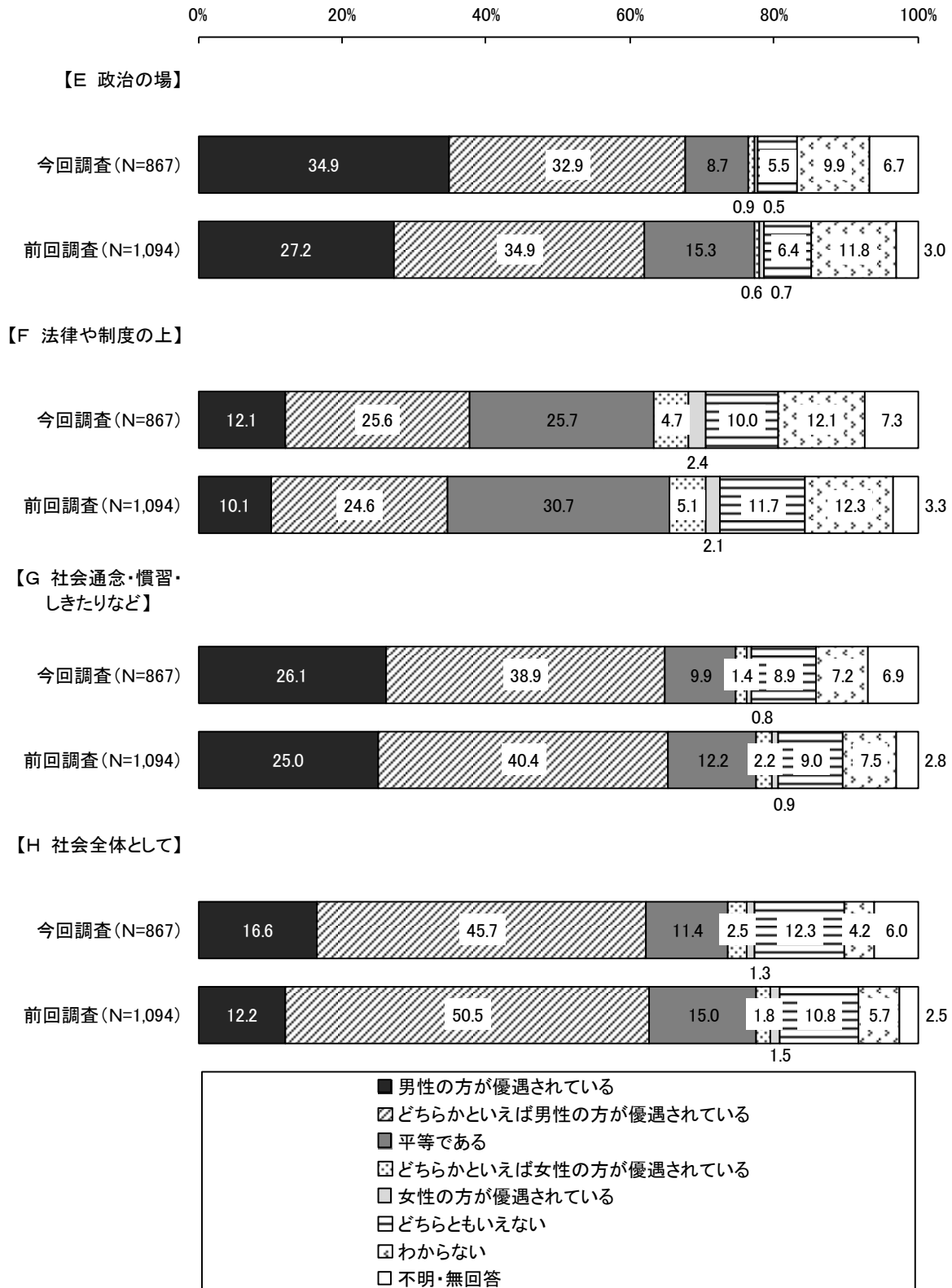
また『女性優遇』は、すべての項目において10%未満となっています。



前回調査との比較

刈谷市で平成 21 年度に実施した意識調査（以下、「前回調査」という。）結果と比較すると、「職場」を除いたすべての分野で「平等である」が、今回調査で割合が低くなっています。また、「家庭生活」で『男性優遇』が 3.6 ポイント減少し、「政治の場」「法律や制度の上」で『男性優遇』がそれぞれ 5.7 ポイント、3.0 ポイント増加しています。





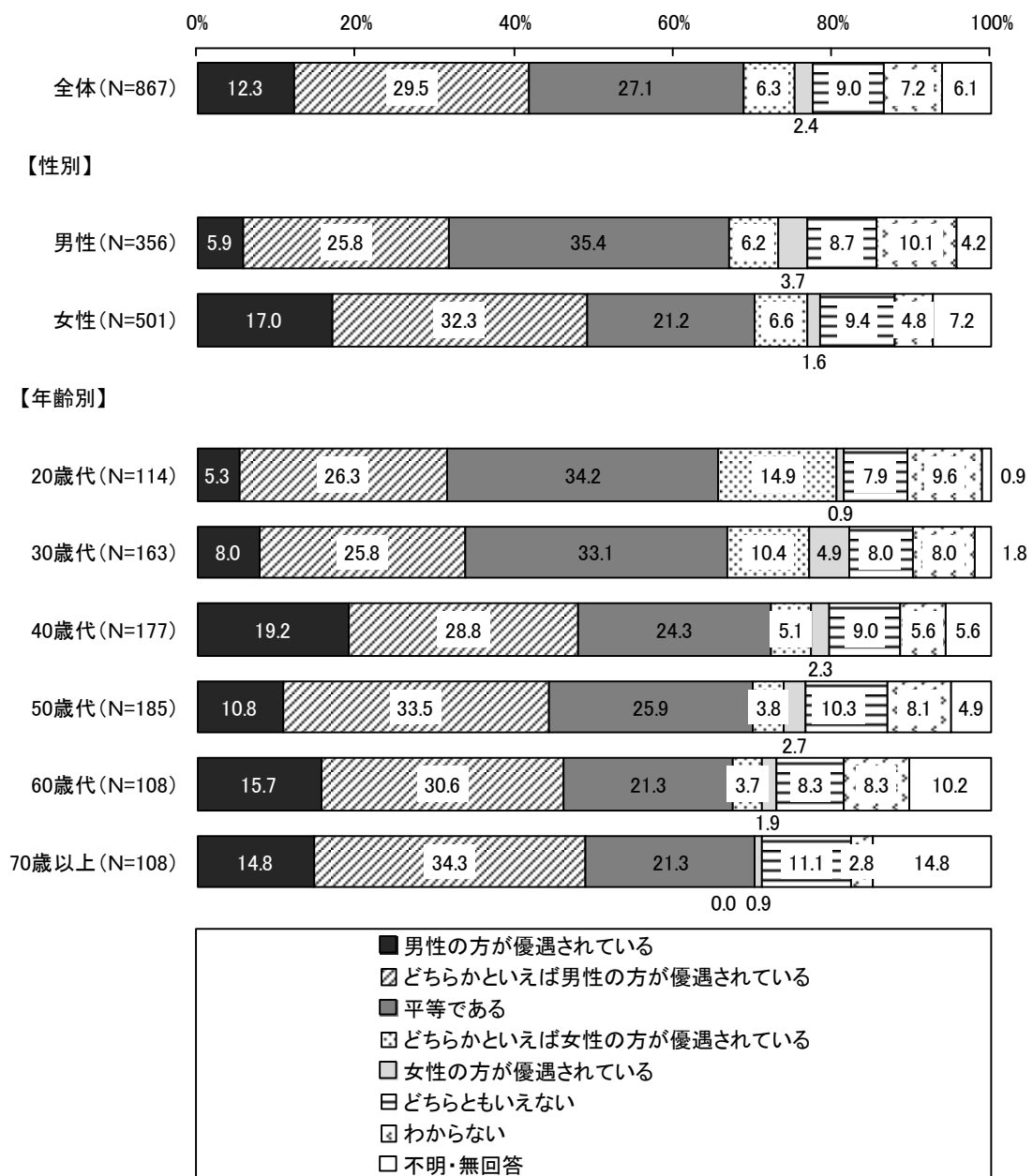
A 家庭生活

『男性優遇』41.8% > 「平等である」27.1% > 『女性優遇』8.7%

家庭生活についてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が29.5%と最も高く、次いで「平等である」が27.1%となっています。『男性優遇』(41.8%)が、「平等である」(27.1%)、『女性優遇』(8.7%)を大きく上回っています。

男女別にみると、男性では「平等である」が35.4%と最も高くなっていますが、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が32.3%と最も高くなっています。

年齢別にみると、20歳代、30歳代では「平等である」が最も高く、それ以外の年代では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。



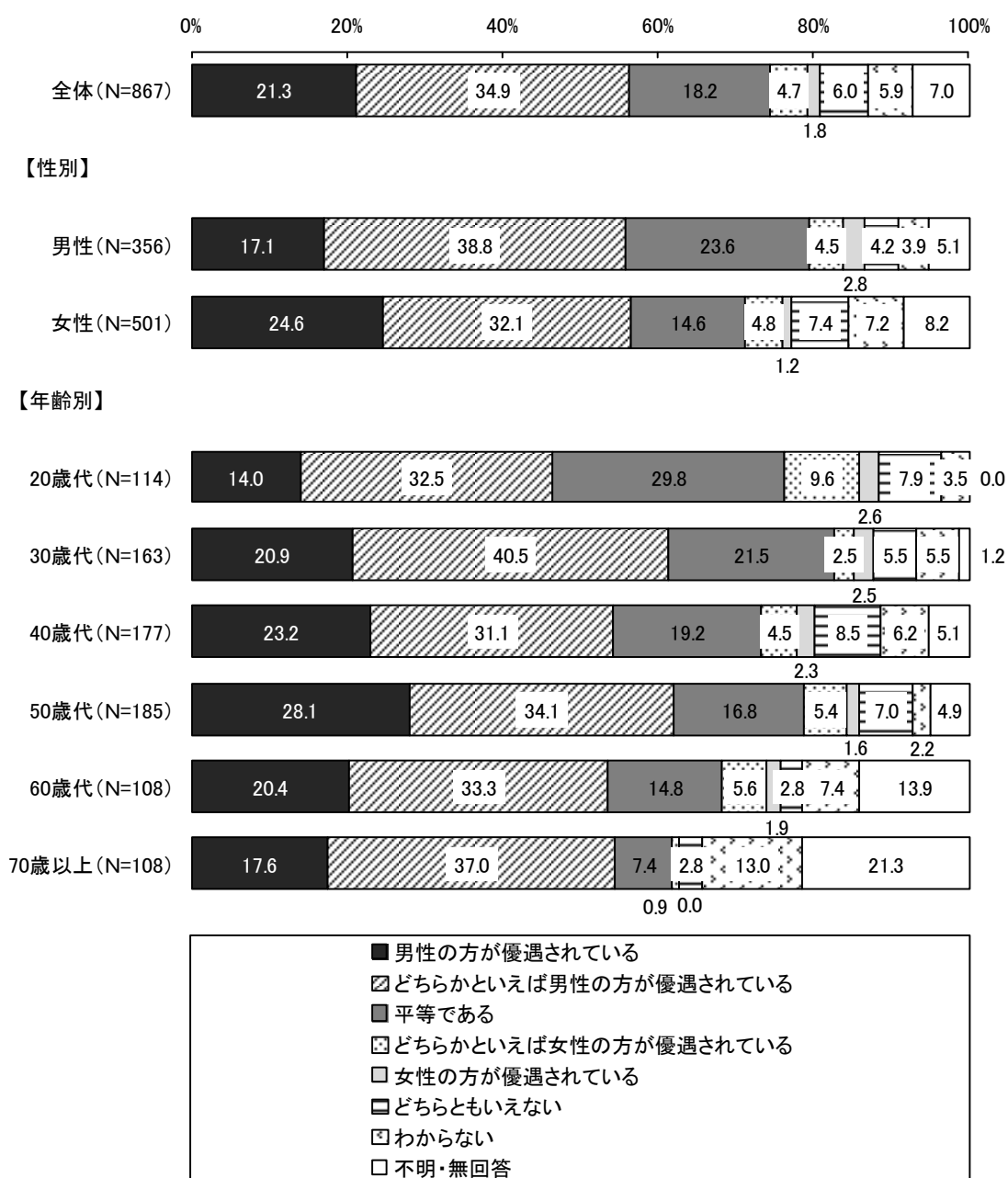
B 職場

『男性優遇』 56.2% > 「平等である」 18.2% > 『女性優遇』 6.5%

職場についてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が34.9%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」が21.3%となっています。『男性優遇』(56.2%)が、「平等である」(18.2%)、『女性優遇』(6.5%)を大きく上回っています。

男女別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、『男性優遇』がそれぞれ50%を超えています。

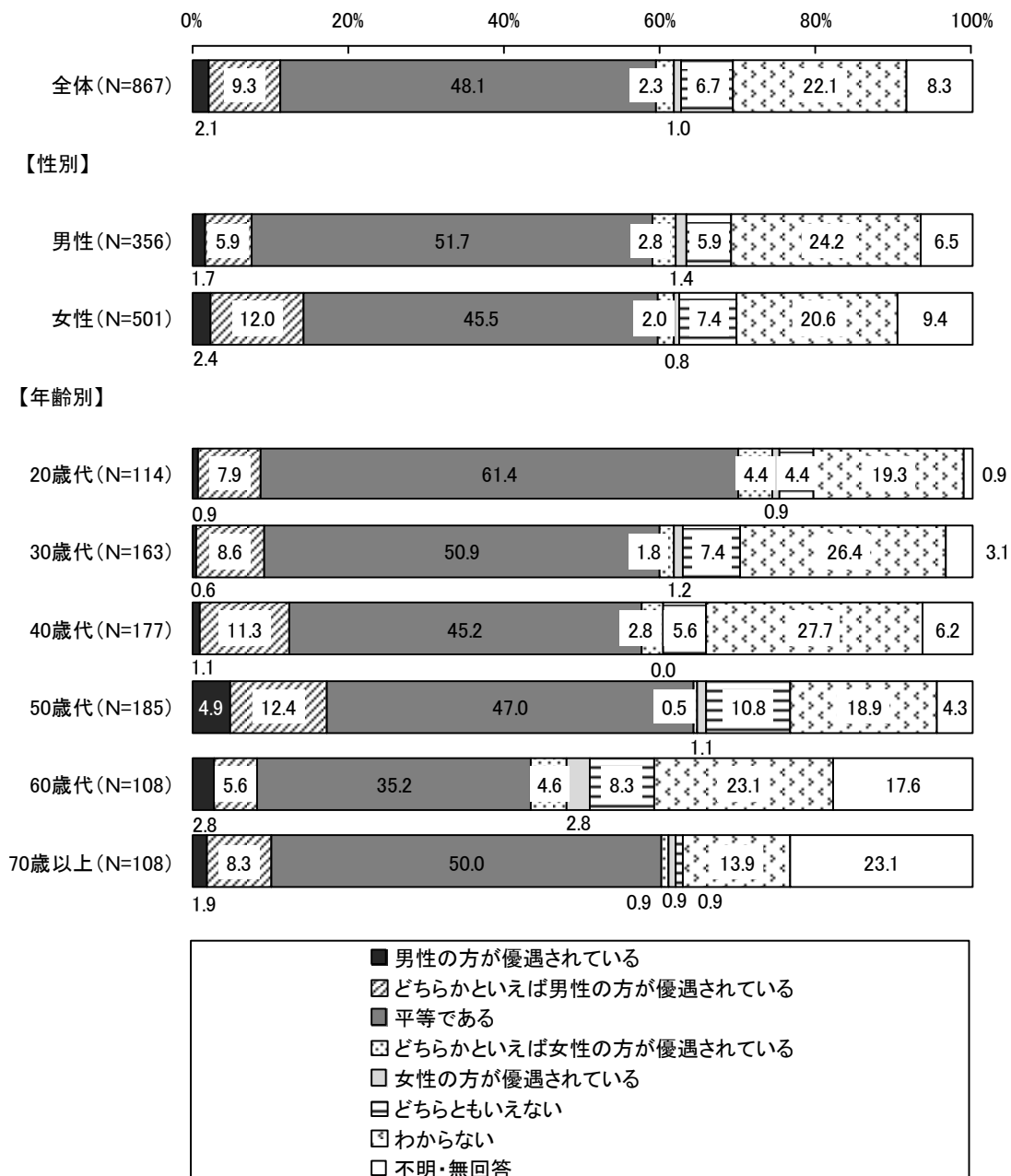
年齢別にみると、すべての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、30歳代では40.5%と特に高くなっています。



C 学校教育の場

「平等である」48.1% > 『男性優遇』11.4% > 『女性優遇』3.3%

学校教育の場についてみると、全体では「平等である」が48.1%と最も高くなっています。「平等である」(48.1%)が『男性優遇』(11.4%)、『女性優遇』(3.3%)を大きく上回っています。男女別にみると、男性、女性ともに「平等である」が最も高くなっています。年齢別も同様に、すべての年代において「平等である」が最も高くなっています。



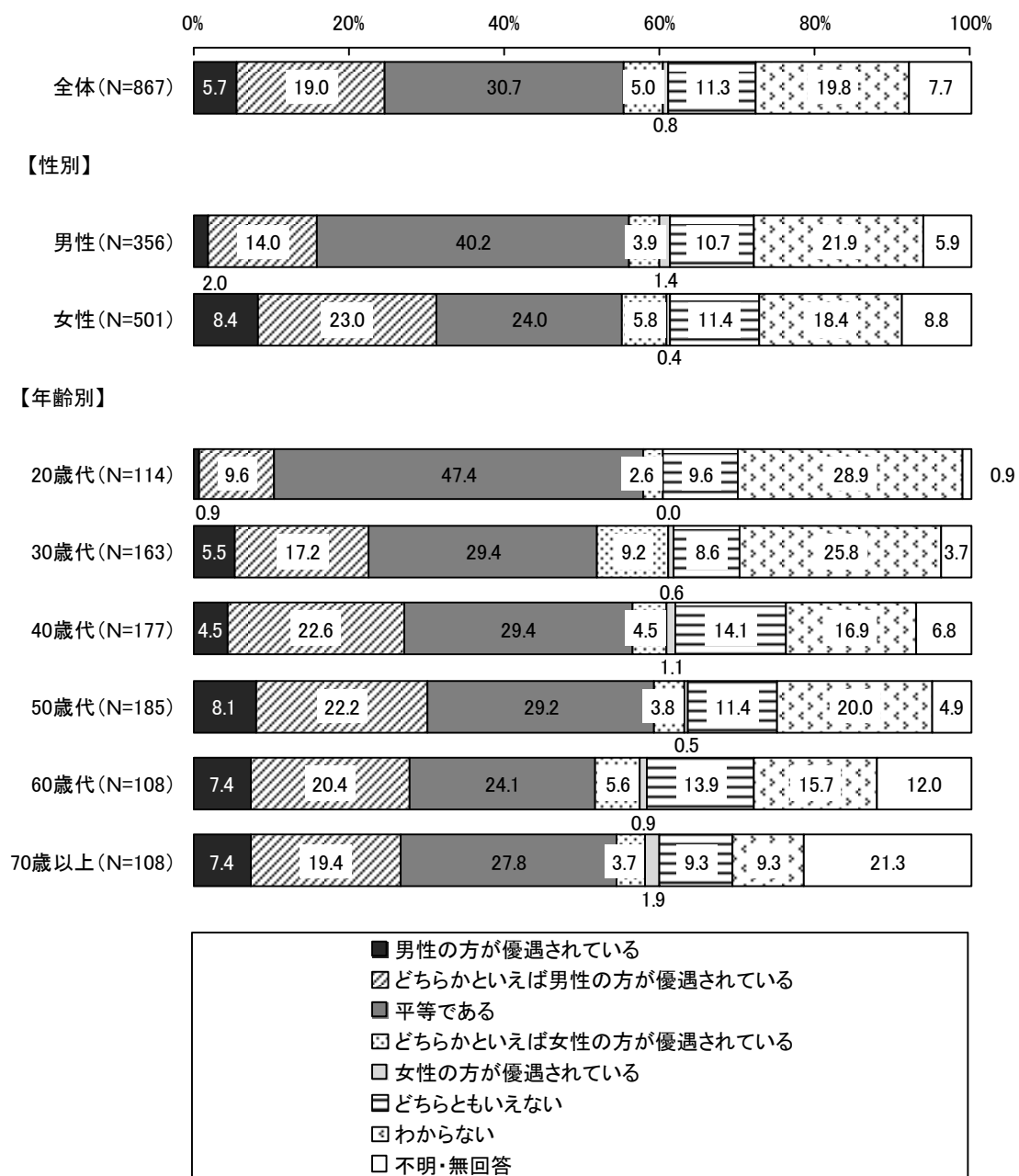
D 地域活動の場

「平等」 30.7% > 『男性優遇』 24.7% > 『女性優遇』 5.8%

地域活動の場についてみると、全体では「平等である」が30.7%と最も高くなっています。「平等である」(30.7%)が『男性優遇』(24.7%)、『女性優遇』(5.8%)を上回っています。

男女別にみると、男性、女性ともに「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代において「平等である」が最も高くなっていますが、50歳代、60歳代では、『男性優遇』が「平等である」を上回っています。



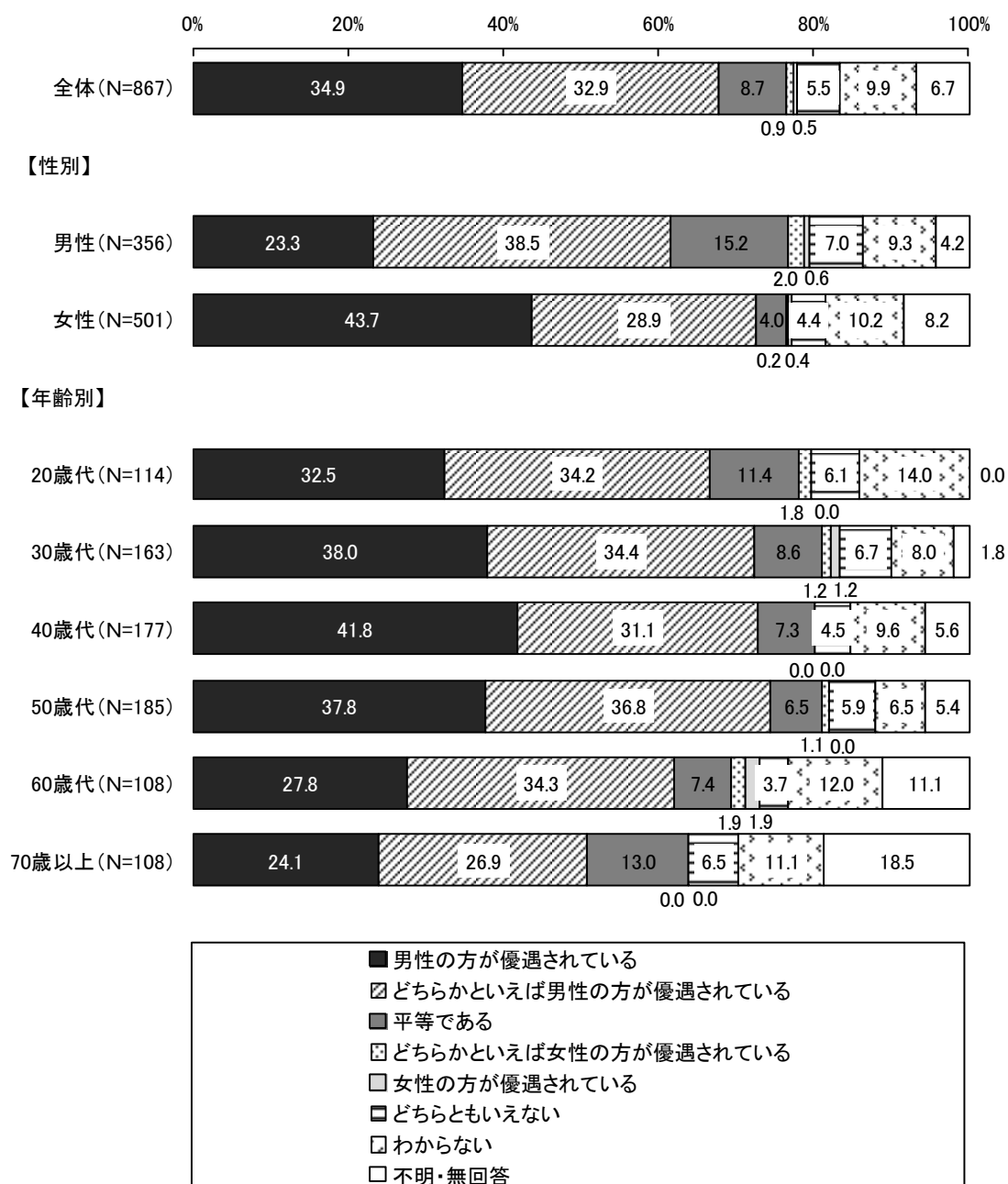
E 政治の場

『男性優遇』67.8% > 「平等」8.7% > 『女性優遇』1.4%

政治の場についてみると、全体では「男性の方が優遇されている」が34.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が32.9%となっています。『男性優遇』(67.8%)が「平等である」(8.7%)、『女性優遇』(1.4%)を大きく上回っています。

男女別にみると、男性、女性ともに『男性優遇』が『女性優遇』を上回っていますが、女性が男性より10.8ポイント高くなっています。

年齢別でみると、すべての年代において『男性優遇』と感じる割合が高くなっています。



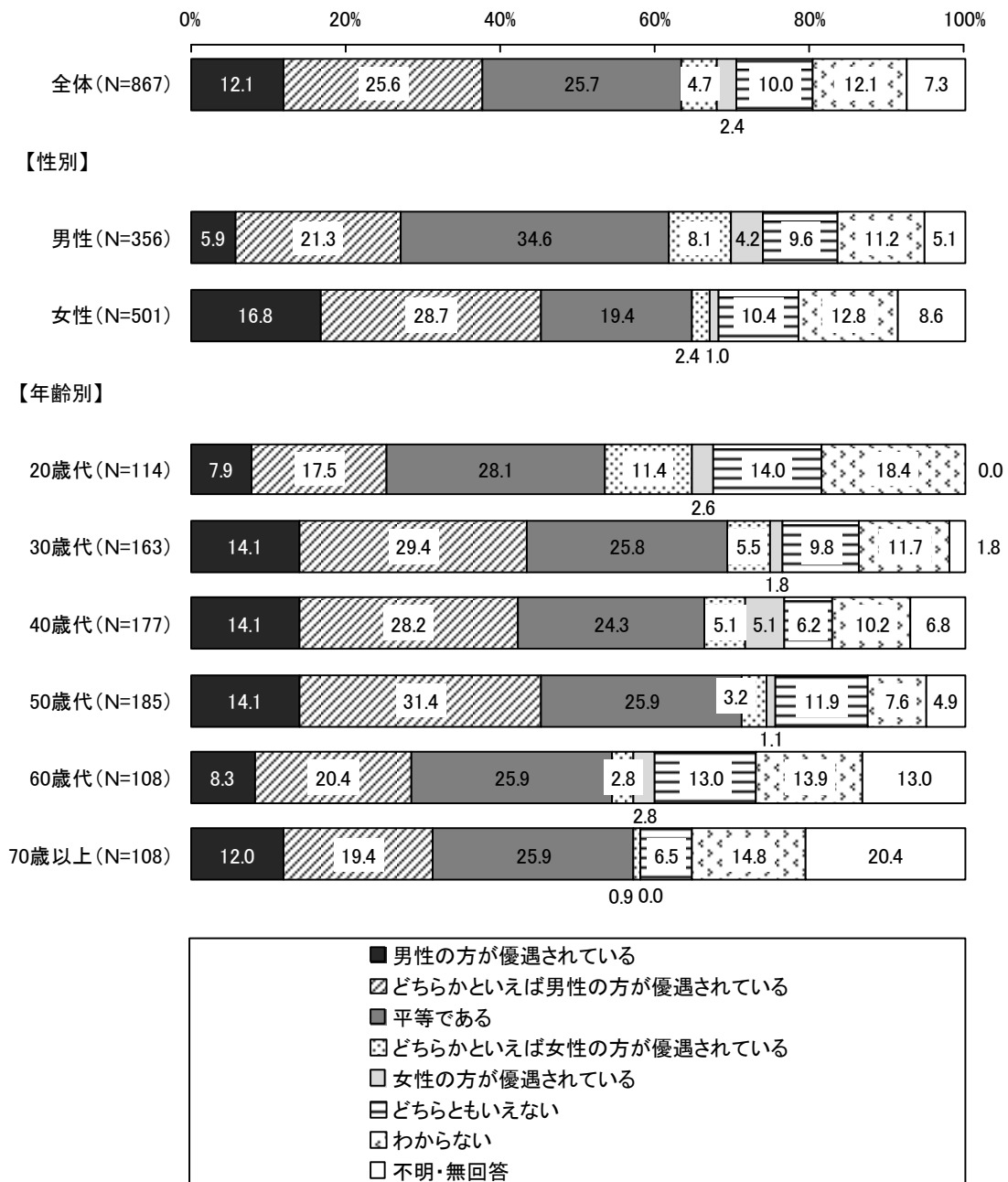
F 法律や制度の上

『男性優遇』37.7% > 「平等」25.7% > 『女性優遇』7.1%

法律や制度の上についてみると、全体では「平等である」が25.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が25.6%となっています。『男性優遇』(37.7%)が、「平等である」(25.7%)と『女性優遇』(7.1%)を大きく上回っています。

男女別にみると、男性では「平等である」が34.6%と最も高くなっていますが、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が28.7%と最も高くなっています。

年齢別でみると、30歳代から50歳代において「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、『男性優遇』がそれぞれ40%を超えています。



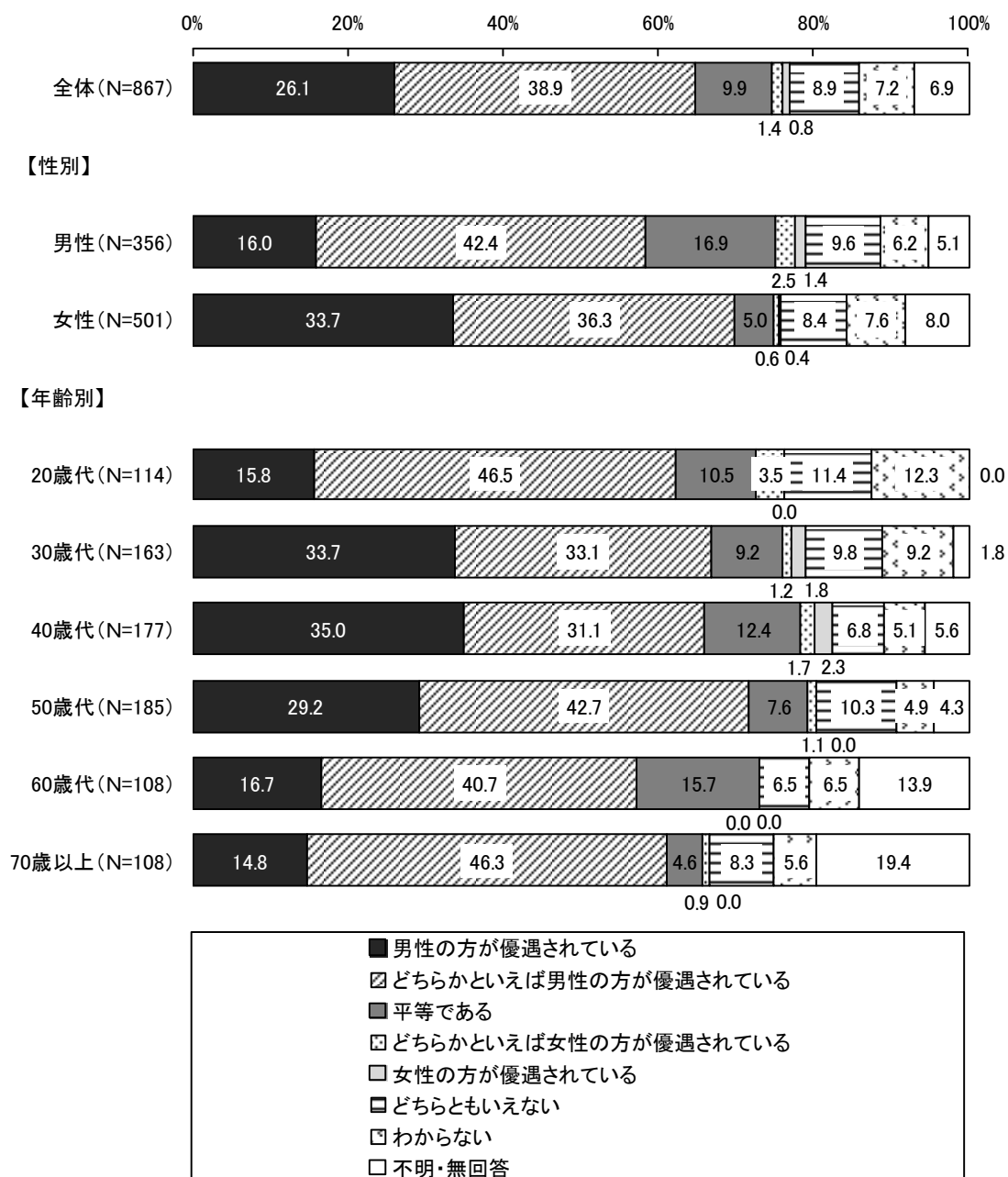
G 社会通念・慣習・しきたりなど

『男性優遇』65.0% > 「平等」9.9% > 『女性優遇』2.2%

社会通念・慣習・しきたりなどについてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が38.9%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」が26.1%となっています。『男性優遇』(65.0%)が「平等である」(9.9%)、『女性優遇』(2.2%)を大きく上回っています。

男女別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。

年齢別にみると、30歳代、40歳代では「男性の方が優遇されている」が最も高く、それ以外の年代では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。



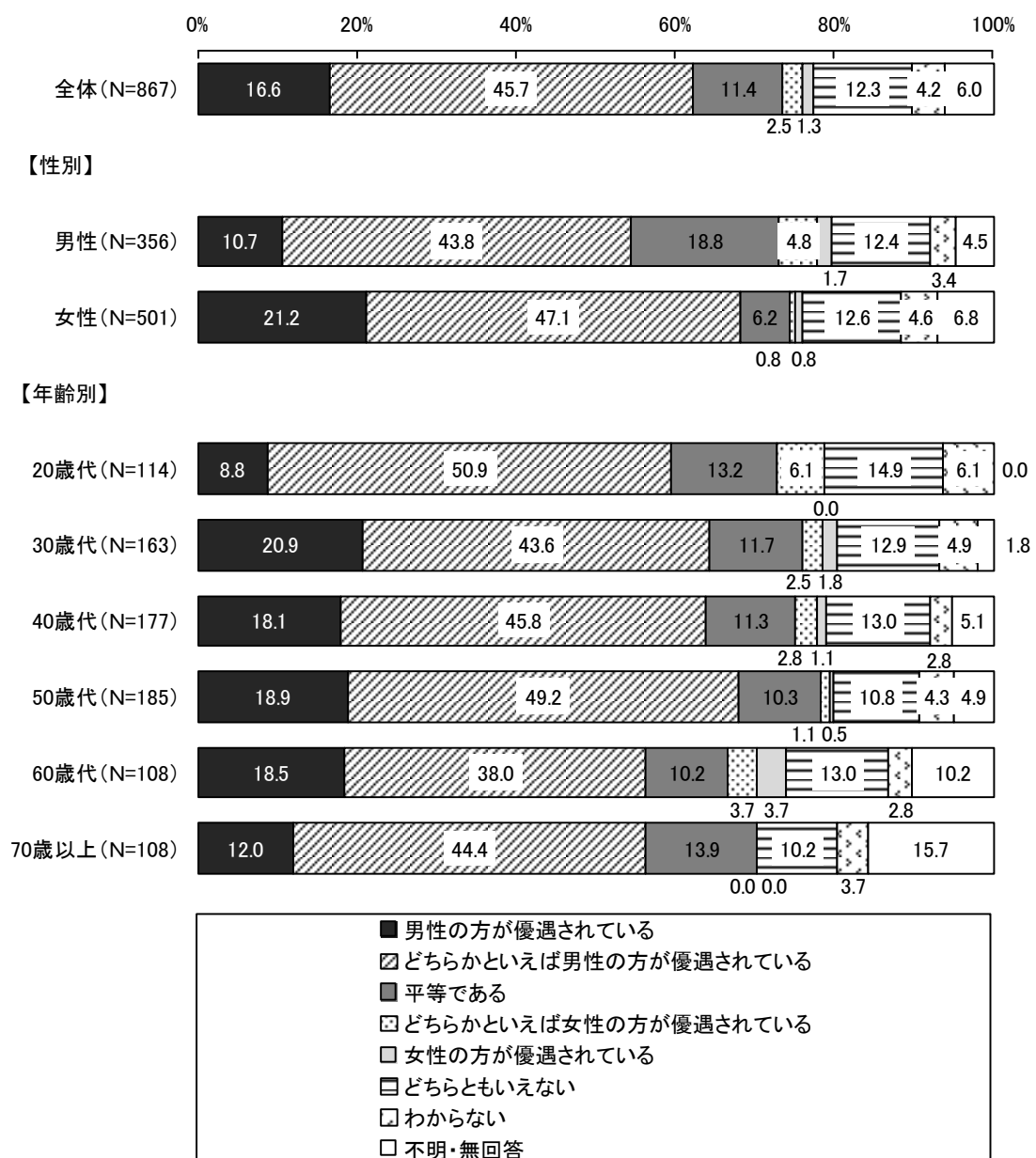
H 社会全体として

『男性優遇』62.3% > 「平等」11.4% > 『女性優遇』3.8%

社会全体についてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が45.7%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」が16.6%となっています。『男性優遇』(62.3%)が、「平等である」(11.4%)『女性優遇』(3.8%)を大きく上回っています。

男女別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。

年齢別も同様に、すべての年代において「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。



2. 職業・職場環境について

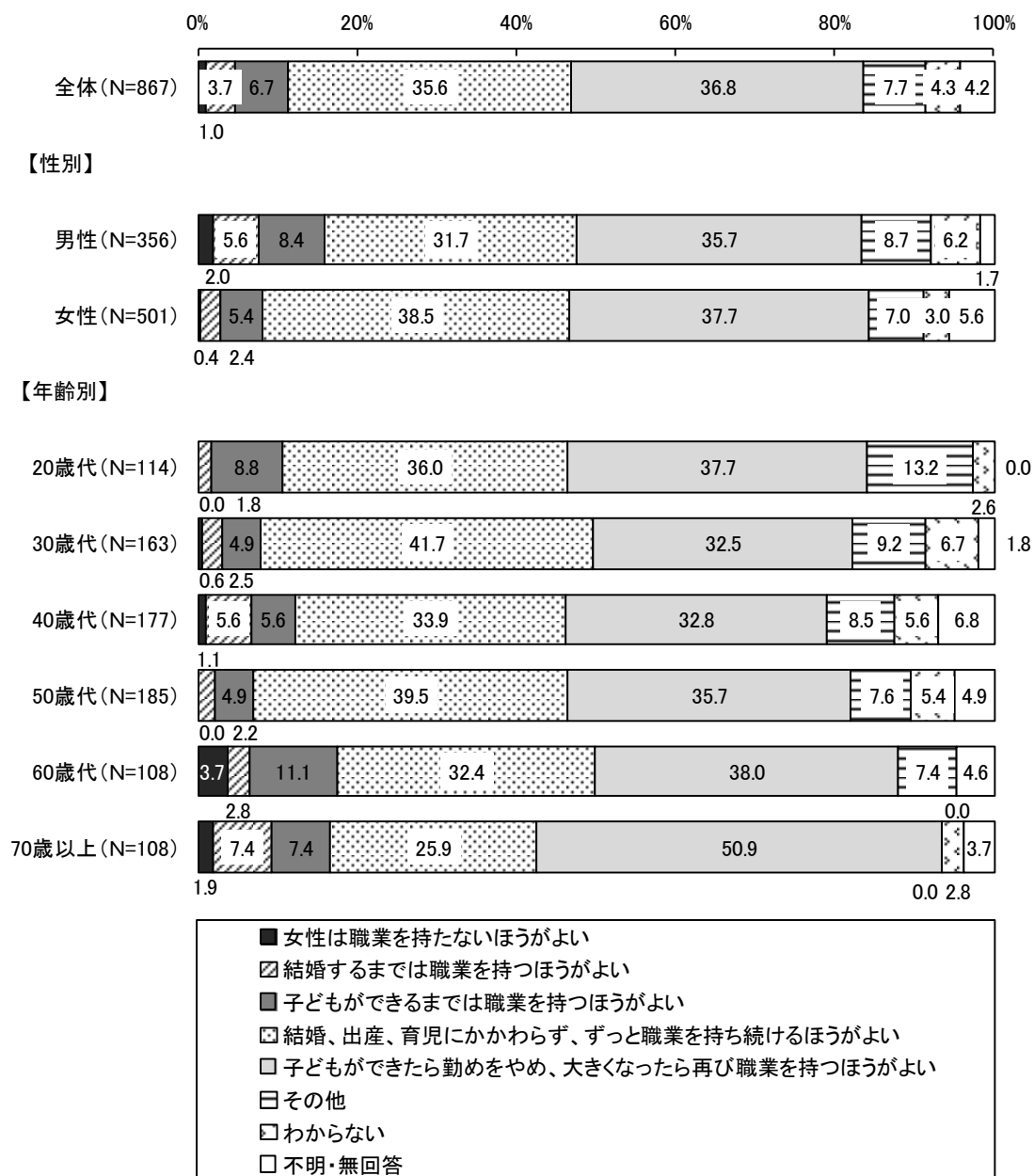
問 10 あなたは女性が職業を持つことについて、どう思いますか。(単数回答)

**「子どもができたら勤めをやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と
「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」
がほぼ同じ割合で高い**

女性が職業を持つことについてみると、全体では「子どもができたら勤めをやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が 36.8%と最も高く、次いで「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が 35.6%となっています。

男女別にみると、男性では、「子どもができたら勤めをやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が、女性では、「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が最も高くなっています。

年齢別にみると、30歳代から50歳代では「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が最も高く、それ以外の年代では「子どもができたら勤めをやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が最も高くなっています。



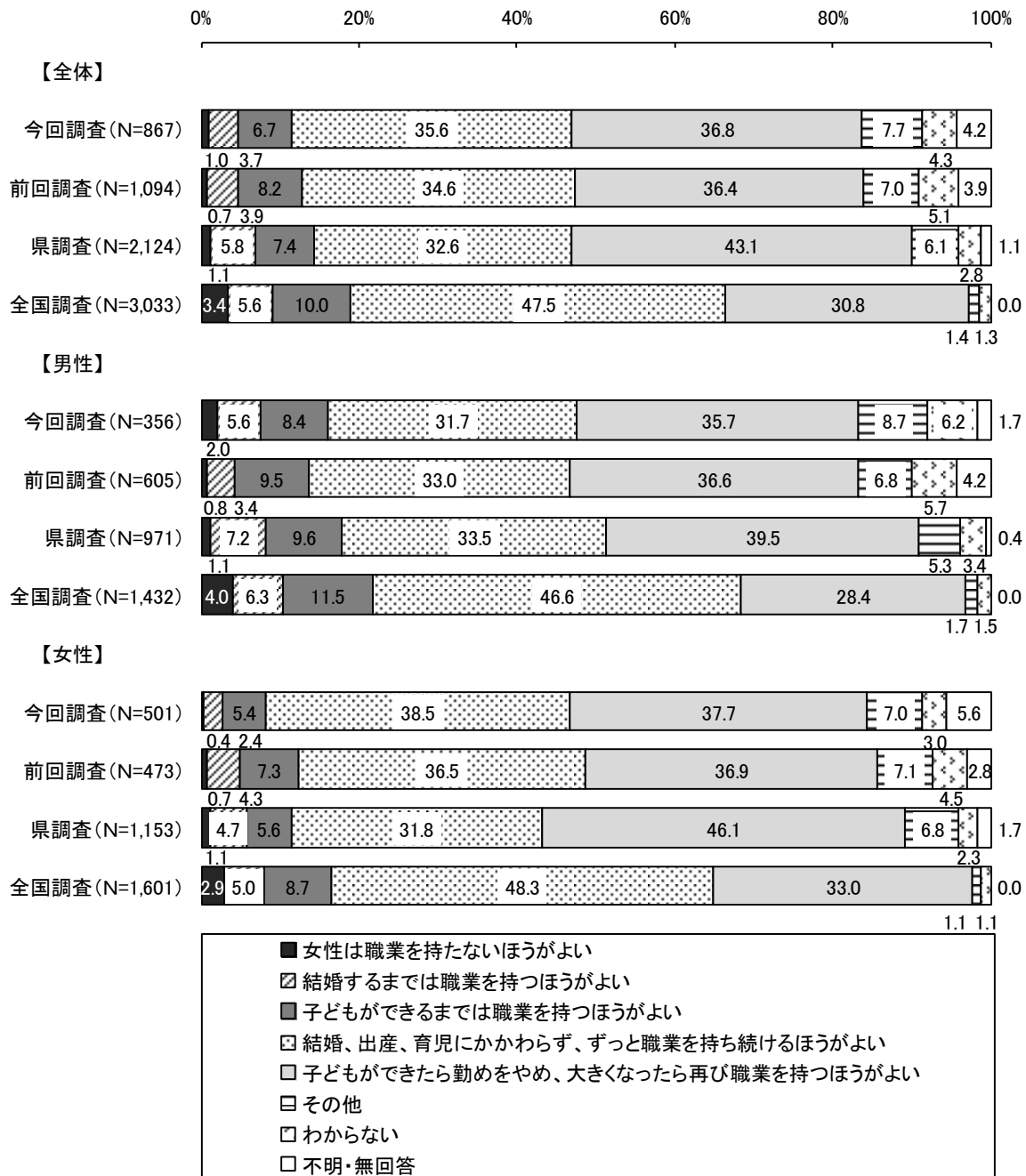
その他回答意見	件数
本人の自由（個人の事情による、各々が考えてやればよい など）	34
各家庭単位で考えればよいと思う（自分自身及び周囲の状況に応じて自分が選んだものが良い など）	9
時と場合による（職業を持てる環境にあれば持てばよい など）	7

前回調査・県調査・全国調査との比較

前回調査と比較すると、男性では「子どもができるまでは職業を持つほうがよい」「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」「子どもができたら勤めをやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が、今回調査で割合が低くなっています。全体、女性では「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」「子どもができたら勤めをやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が、今回調査で割合が高くなっています。また、前回調査の女性では「子どもができたら勤めをやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」を上回っていましたが、今回調査では逆転しています。

平成 20 年度の愛知県調査（以下、「県調査」という）と比較すると、男性では「子どもができたら勤めをやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」、女性では「子どもができたら勤めをやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が、今回調査の割合が低く、また、女性では「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が、今回調査の割合が高くなっています。

平成 24 年度の内閣府調査（以下、「全国調査」という）と比較すると、男性、女性いずれも「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が、今回調査の割合が低く、「子どもができたら勤めをやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が、今回調査の割合が高くなっています。



※全国調査には、「不明・無回答」がない

※県調査、全国調査は、「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が「子どもができてもずっと職業を続けるほうがよい」という選択肢になっている

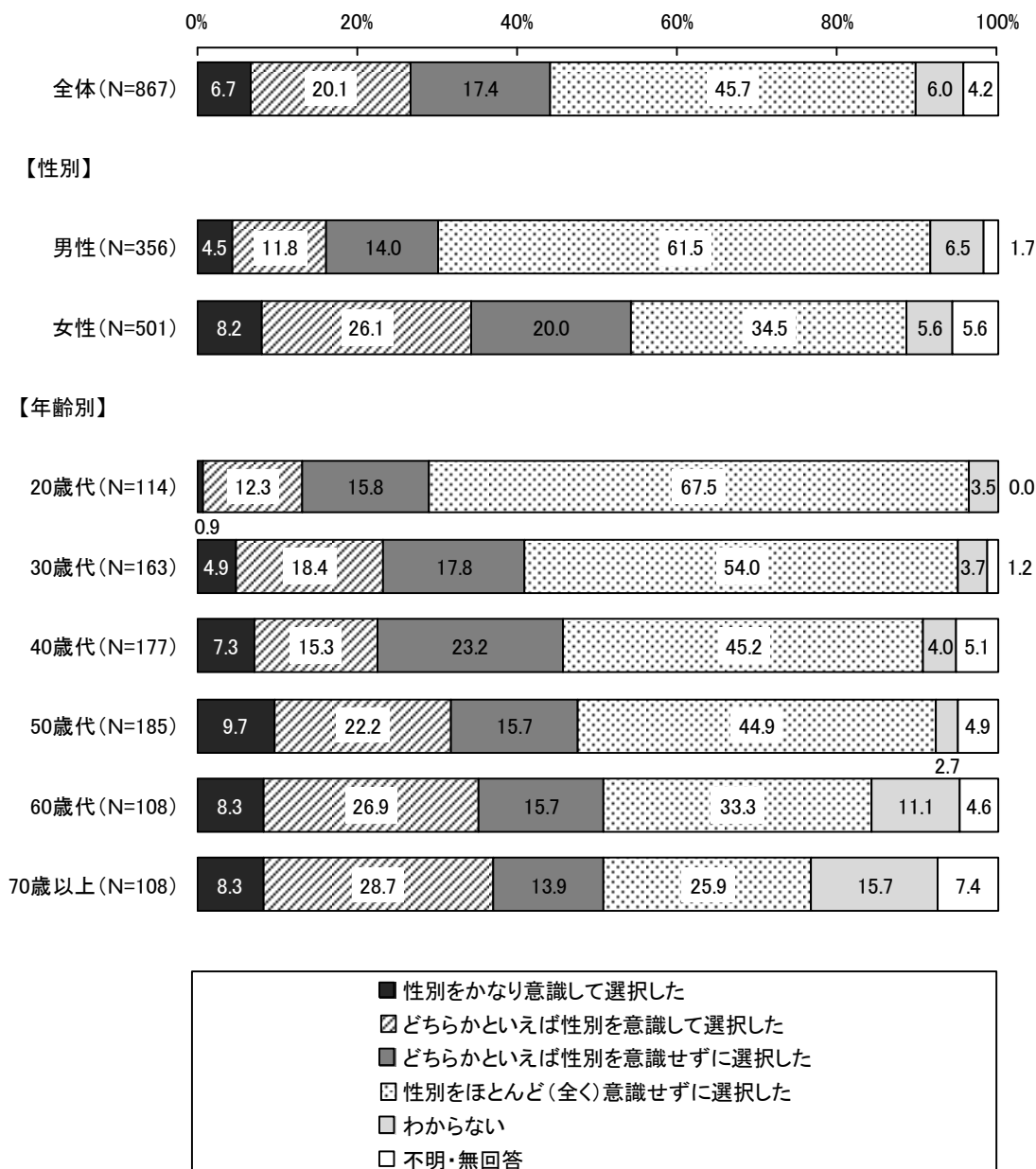
問 11 あなたは進路や職業を選択する際に性別を意識しましたか。(単数回答)

**「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」が高いが、
女性のほうが性別を意識している**

性別を意識したかについてみると、全体では「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」が45.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば性別を意識して選択した」が20.1%となっています。

男女別にみると全体同様、男性、女性ともに、「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」が最も高くなっていますが、女性では「性別をかなり意識して選択した」「どちらかといえば性別を意識して選択した」を合わせた割合が18.0ポイント男性より高くなっています。

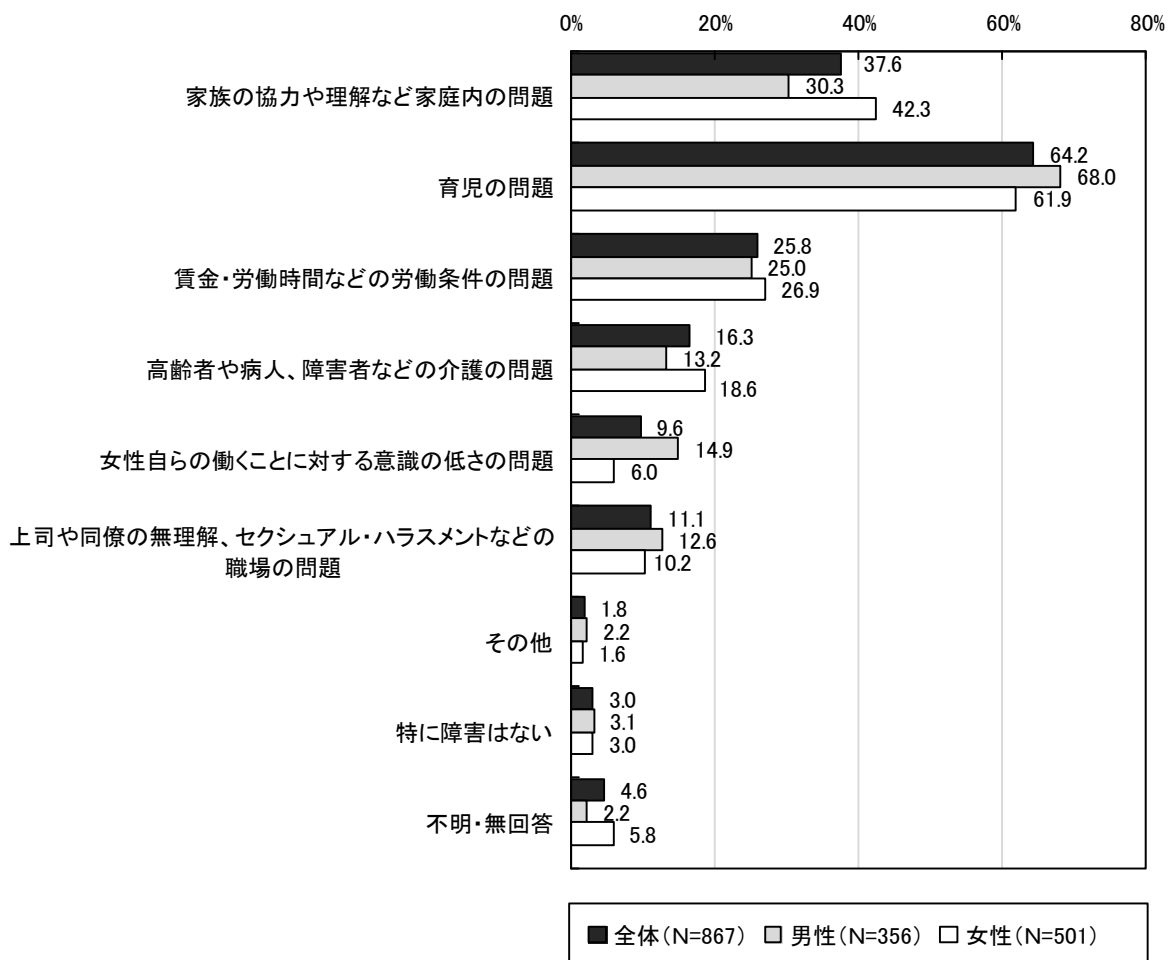
年齢別にみると、60歳代までのすべての年代で「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」が最も高くなっていますが、年代が上がるにつれ減少しています。



問 12 女性が職業についたり、職業生活を続ける上で、障害となっているのは何だと思えますか。
 (複数回答)

「育児の問題」が最も高い

女性が職業についたり、職業生活を続ける上での障害についてみると、全体では、「育児の問題」が64.2%と最も高く、次いで「家族の協力や理解など家庭内の問題」が37.6%となっています。男女別でみると全体同様、男性、女性ともに「育児の問題」が最も高くなっています。



その他回答意見	件数
社会の風土、日本独特の風習、歴史、国、行政の習慣（古い考えをもっている人間が昔のままている）	2

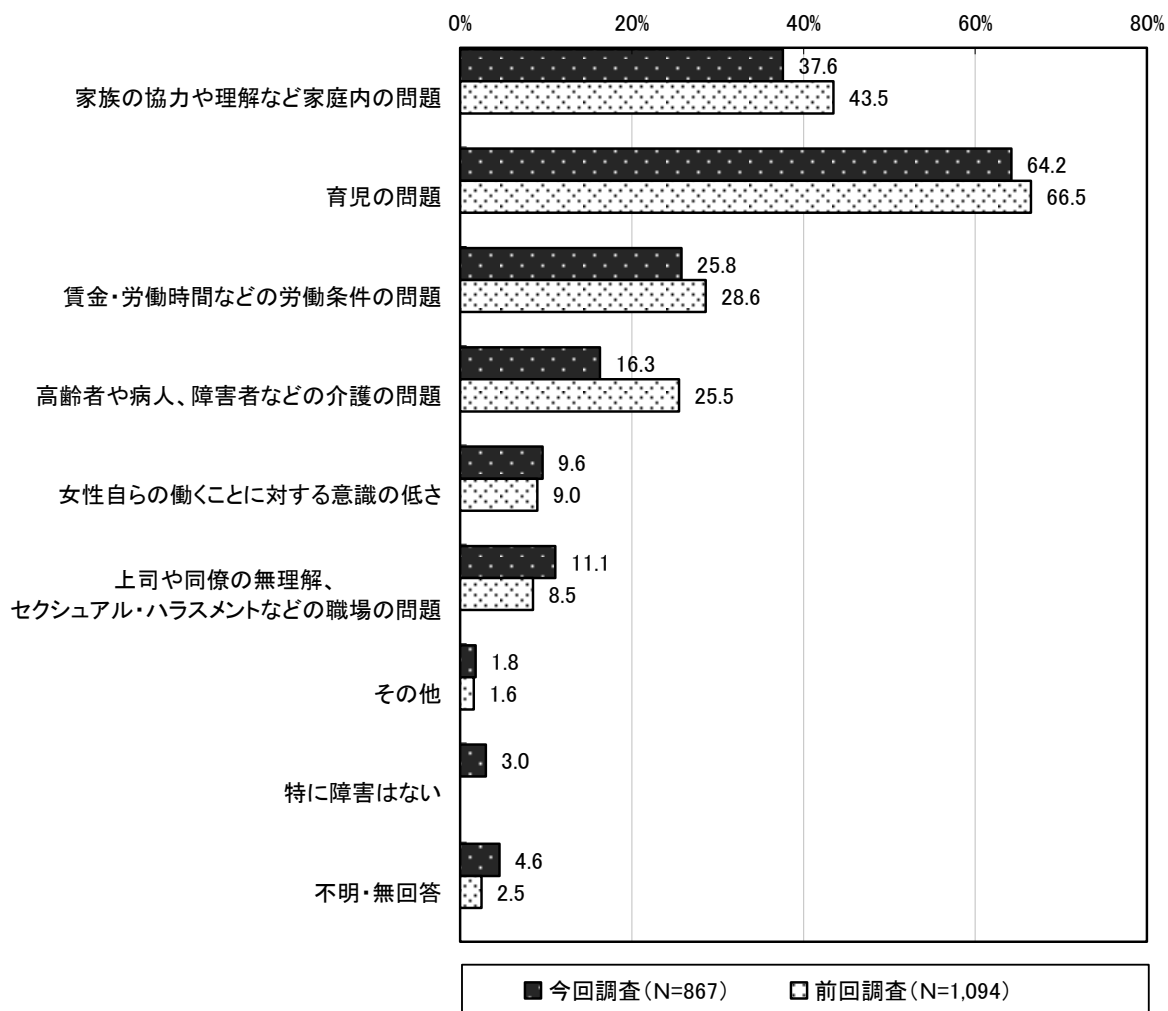
年齢別にみると、すべての年代において「育児の問題」が最も高くなっています。また「高齢者や病人、障害者等の介護の問題」は年齢が上がるにつれ、回答の割合が高くなる傾向にあります。

	家族の協力や理解など家庭内の問題	育児の問題	賃金・労働時間などの労働条件の問題	高齢者や病人、障害者などの介護の問題	女性自らの働くことに対する意識の低さの問題	上司や同僚の無理解、セクシュアル・ハラスメントなどの職場の問題	その他	特に障害はない	不明・無回答
20 歳代 (N=114)	24.6	77.2	36.8	5.3	7.9	21.1	0.9	2.6	0.0
30 歳代 (N=163)	39.3	77.3	30.1	6.1	9.2	9.8	1.8	2.5	1.8
40 歳代 (N=177)	41.2	65.5	26.6	10.7	12.4	14.1	1.7	4.0	3.4
50 歳代 (N=185)	36.8	62.2	24.3	23.8	7.6	10.8	2.2	2.2	5.9
60 歳代 (N=108)	44.4	49.1	23.1	20.4	14.8	6.5	2.8	3.7	5.6
70 歳以上 (N=108)	37.0	50.0	14.8	37.0	5.6	0.9	1.9	3.7	9.3

単位：%

前回調査との比較

前回調査と比較すると、「女性自らの働くことに対する意識の低さの問題」「上司や同僚の無理解、セクシュアル・ハラスメントなどの職場の問題」が、今回調査で割合が高くなっています。



※前回調査には、「特に障害はない」という選択肢はなかった

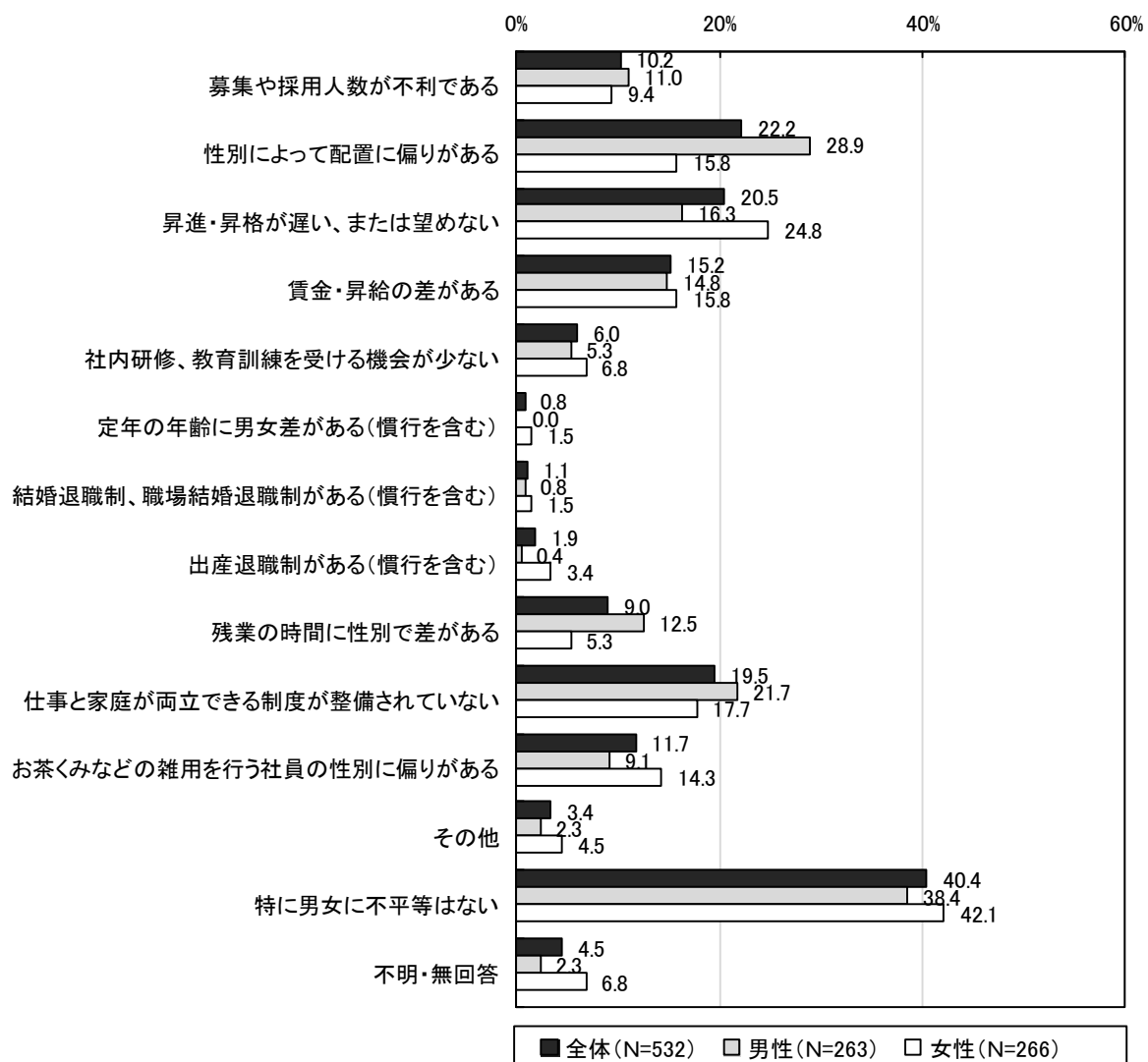
<問 13 については、問5で「1. 会社員」「2. 公務員」「5. 契約社員・派遣社員」「6. パート・アルバイト」と答えた方におたずねします>

問 13 あなたの職場では、性別によって不平等な扱いを受けていることがありますか。(複数回答)

**男性では「性別によって配置に偏りがある」「残業の時間に性別で差がある」
女性では「昇進・昇格が遅い、または望めない」が高い**

職場で性別によって不平等な扱いを受けているかについてみると、全体では「特に男女に不平等はない」が40.4%と最も高く、次いで「性別によって配置に偏りがある」が22.2%、「昇進・昇格が遅い、または望めない」が20.5%となっています。

男女別にみると全体同様、男性、女性ともに「特に男女に不平等はない」が最も高くなっています。また、「性別によって配置に偏りがある」では、男性が28.9%、女性が15.8%、「昇進・昇格が遅い、または望めない」では男性が16.3%、女性が24.8%、「残業の時間に性別で差がある」では、男性が12.5%、女性が5.3%と割合に差があります。



その他回答意見	件数
本人の希望次第だと思う	4
パワハラなど	3
男性だけで女性がいない	2
女性だからと細かい仕事をさせられる	2
上司の男尊女卑的な意識	2
男性はロッカーが支給されない	2

年齢別にみると、すべての年代において「特に男女に不平等はない」が最も高くなっています。また20歳代、30歳代、60歳代では「性別によって配置に偏りがある」が、40歳代、50歳代では「昇進・昇格が遅い、または望めない」が高くなっています。

	募集や採用人数が不利である	性別によって配置に偏りがある	昇進・昇格が遅い、または望めない	賃金・昇給の差がある	社内研修、教育訓練を受ける機会が少ない	定年の年齢に男女差がある(慣行を含む)	結婚退職制、職場結婚退職制がある(慣行を含む)
20歳代 (N=93)	4.3	24.7	9.7	6.5	3.2	0.0	1.1
30歳代 (N=114)	7.9	23.7	20.2	9.6	5.3	0.9	0.0
40歳代 (N=138)	10.9	19.6	22.5	16.7	5.1	0.7	0.7
50歳代 (N=136)	11.0	21.3	27.2	19.1	10.3	1.5	2.9
60歳以上 (N=48)	22.9	22.9	16.7	31.3	4.2	0.0	0.0

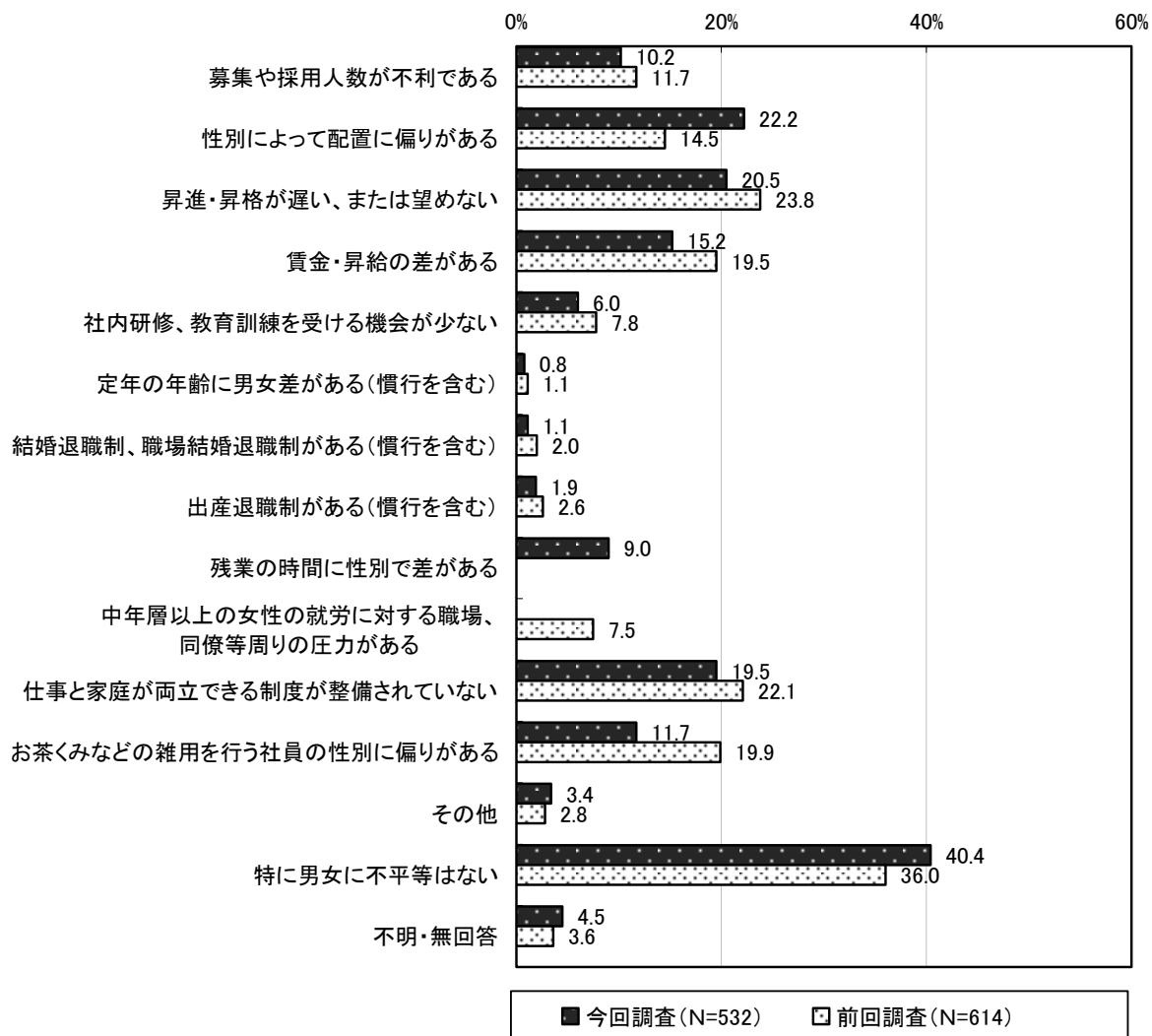
	出産退職制がある(慣行を含む)	残業の時間に性別で差がある	仕事と家庭が両立できる制度が整備されていない	お茶くみなどの雑用を行う社員の性別に偏りがある	その他	特に男女に不平等はない	不明・無回答
20歳代 (N=93)	1.1	10.8	22.6	14.0	4.3	40.9	1.1
30歳代 (N=114)	4.4	8.8	20.2	12.3	3.5	46.5	2.6
40歳代 (N=138)	2.2	10.9	18.8	11.6	4.3	38.4	5.8
50歳代 (N=136)	0.7	6.6	19.9	11.8	2.2	38.2	6.6
60歳以上 (N=48)	0.0	8.3	14.6	6.3	2.1	37.5	4.2

単位：%

※「70歳以上」はN数が少ないため、「60歳代」に含め、「60歳以上」として集計

前回調査との比較

前回調査と比較すると、「性別によって配置に偏りがある」「特に男女格差はない」が、今回調査で割合が高くなっています。



※前回調査は、「性別によって配置に偏りがある」が「女性が配置されない職種がある」という選択肢になっている

※前回調査には、「残業の時間に性別で差がある」という選択肢がなかった

※前回調査にあった「中年層以上の女性の就労に対する職場、同僚等周りの圧力がある」という選択肢は、今回調査にはない

3. 家庭・地域生活について

問 14 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。
(単数回答)

性別役割分担の『反対派』(41.6%)が『賛成派』(37.4%)を上回っている

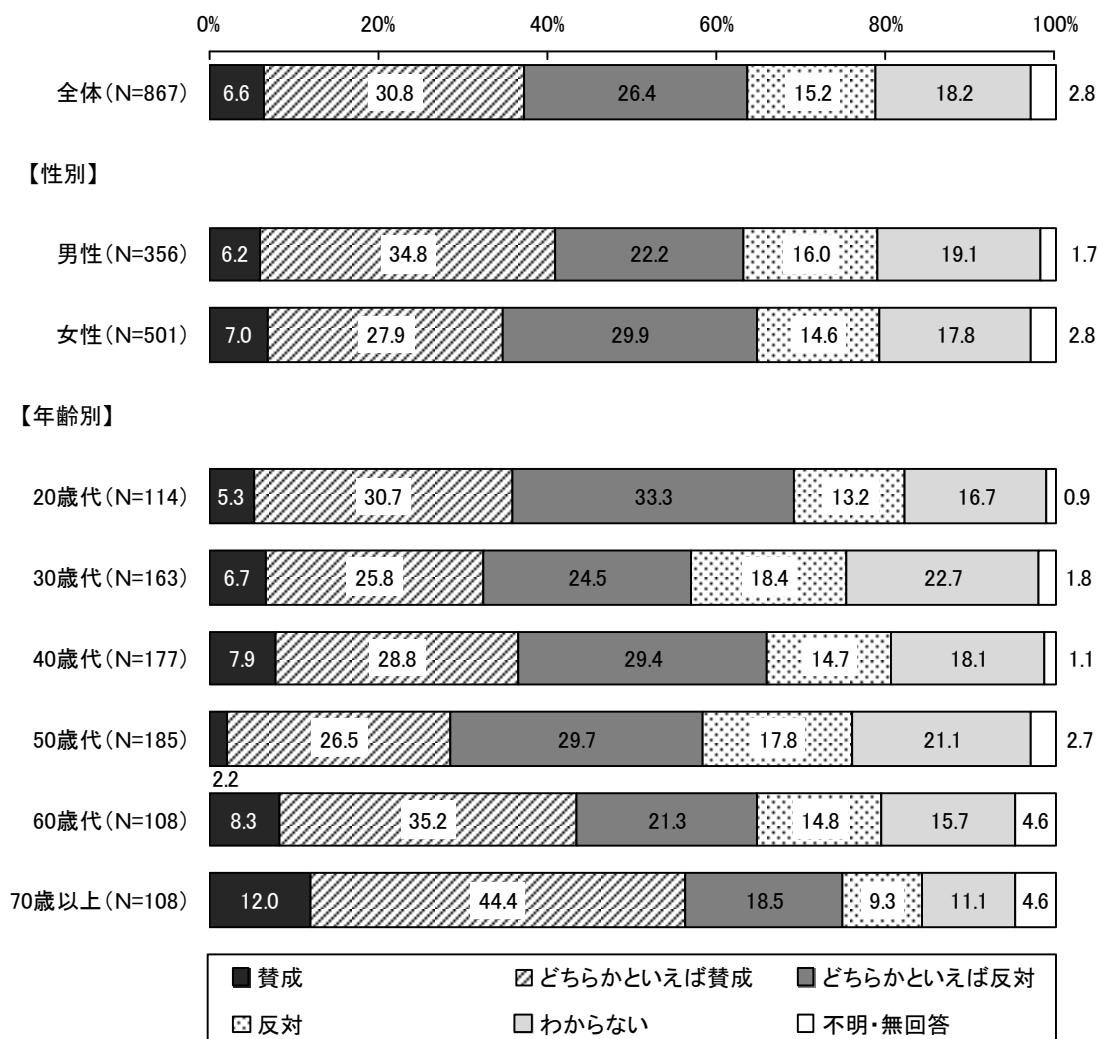
問 14 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しており、このページ以降の文中においても反映されています。

- 『賛成派』…「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせたもの
- 『反対派』…「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせたもの

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてみると、全体では「どちらかといえば賛成」が 30.8% と最も高く、次いで「どちらかといえば反対」が 26.4% となっていますが、『反対派』(41.6%) が『賛成派』(37.4%) を上回っています。

男女別にみると、男性で「どちらかといえば賛成」、女性で「どちらかといえば反対」が最も高くなっています。

年齢別にみると、全体と男女別同様、30 歳代と 60 歳代以上では「どちらかといえば賛成」が最も高くなっていますが、それ以外の年代では「どちらかといえば反対」が最も高くなっています。



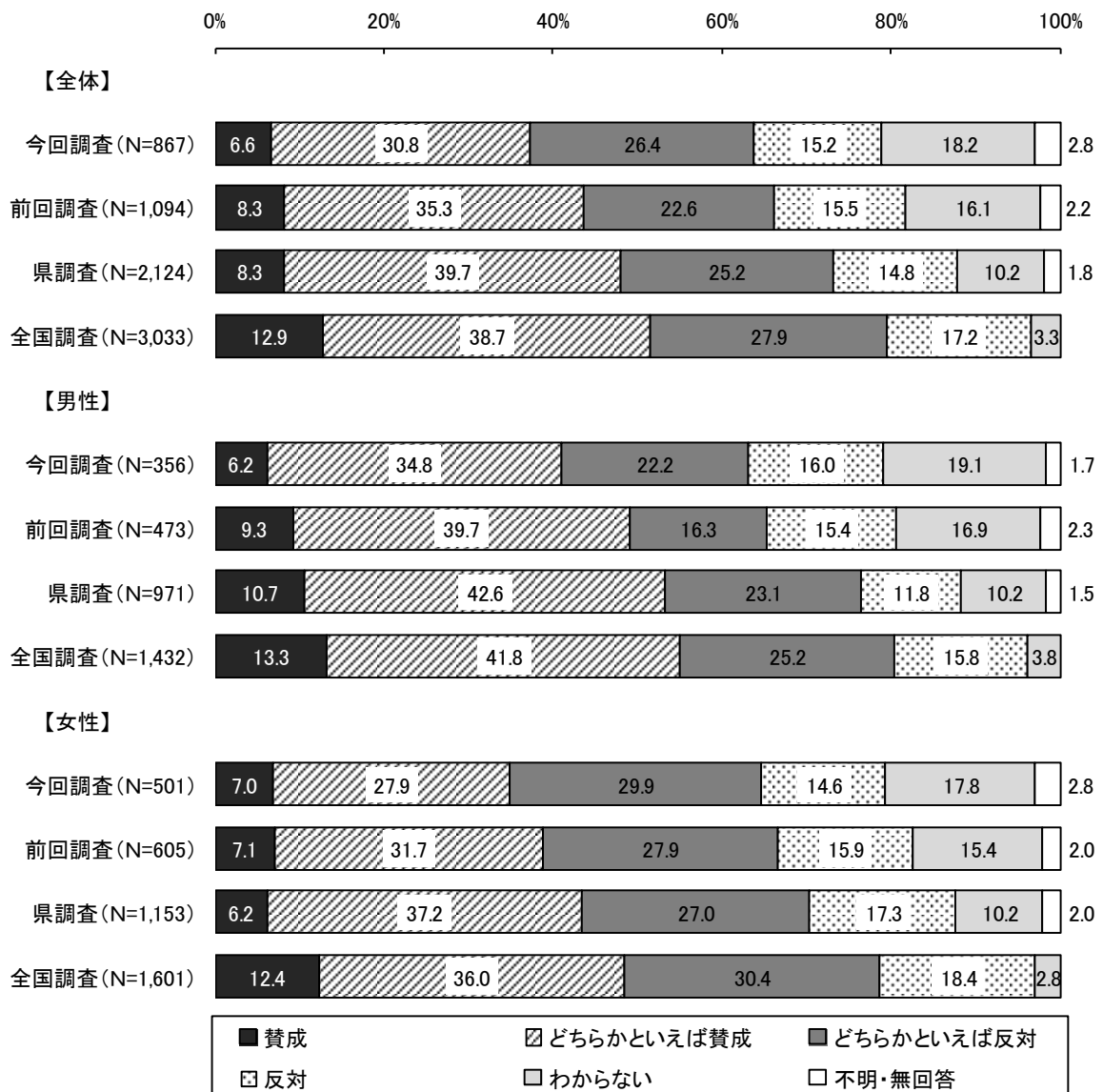
前回調査・県調査・全国調査との比較

前回調査と比較すると、全体、男性、女性いずれも『賛成派』が、今回調査で割合が低くなっています。

県調査と比較すると、全体、男性、女性いずれも『賛成派』が、今回調査で割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、全体、男性、女性いずれも『賛成派』が、今回調査で割合が低くなっています。

また、今回調査、前回調査、県調査、全国調査の男性ではいずれも『賛成派』が『反対派』を上回っており、女性ではいずれも『反対派』が『賛成派』を上回っています。



※全国調査には、「不明・無回答」がない

問 15 あなたが家事、育児、介護に携わる時間は、1日あたりどれくらいですか。(単数回答)

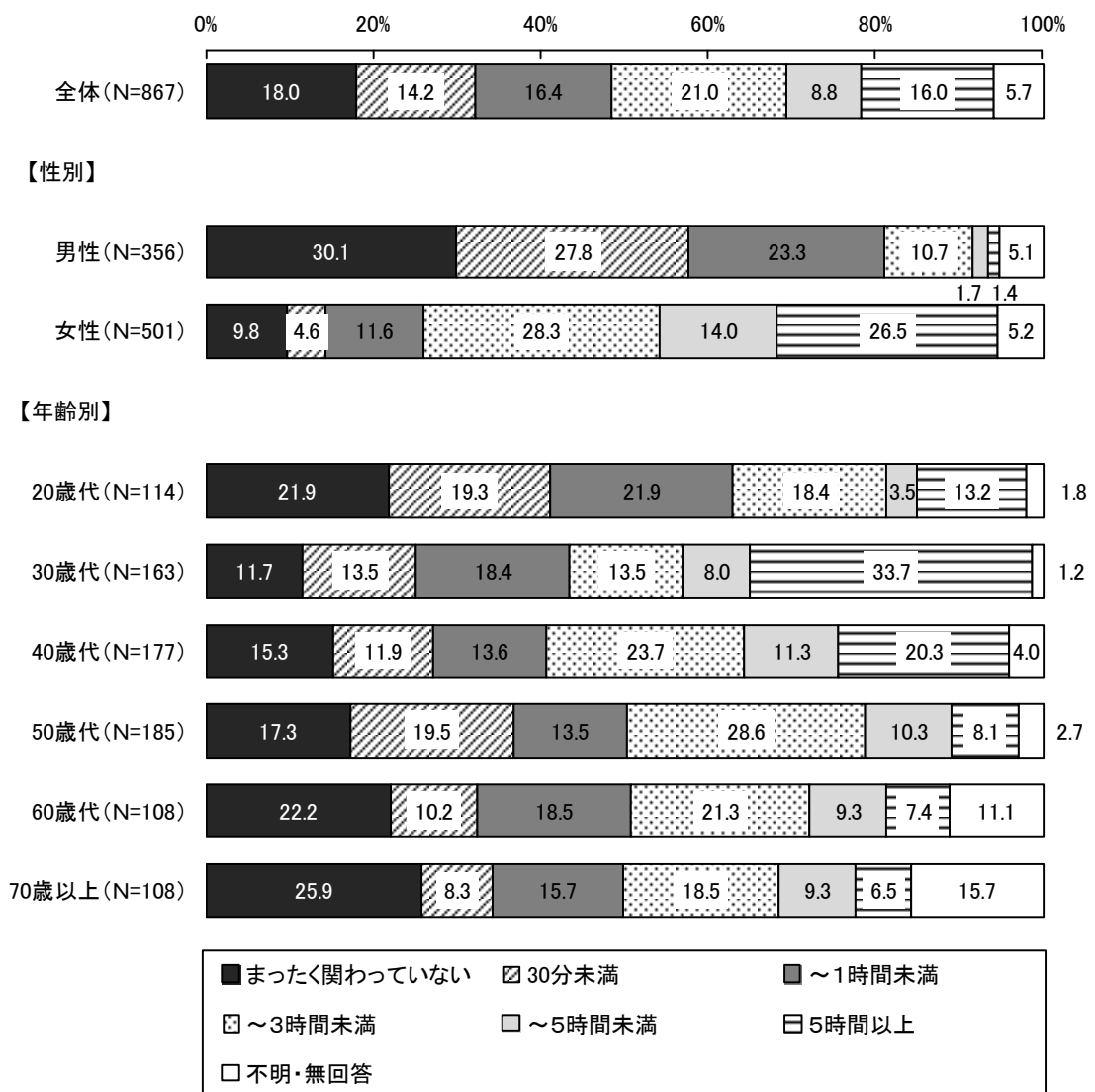
①平日

**70歳以上では「まったく関わっていない」が25.9%と最も高く、
30歳代では「5時間以上」が33.7%と最も高い**

平日の家事・育児・介護に携わる時間についてみると、全体では「～3時間未満」が21.0%と最も高く、次いで「まったく関わっていない」が18.0%、「～1時間未満」が16.4%となっています。

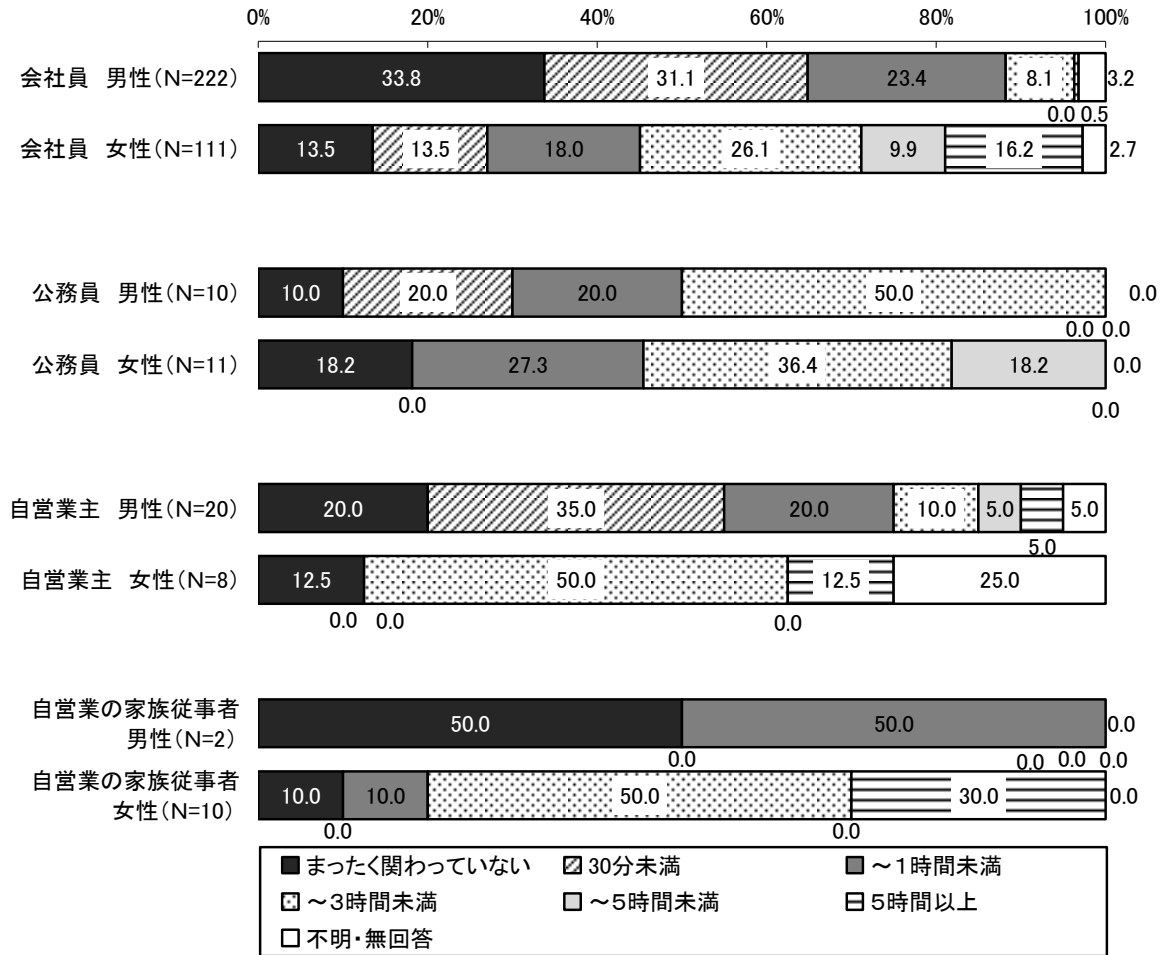
男女別にみると、男性は「まったく関わっていない」が30.1%と最も高く、女性は「～3時間未満」が28.3%と最も高くなっています。

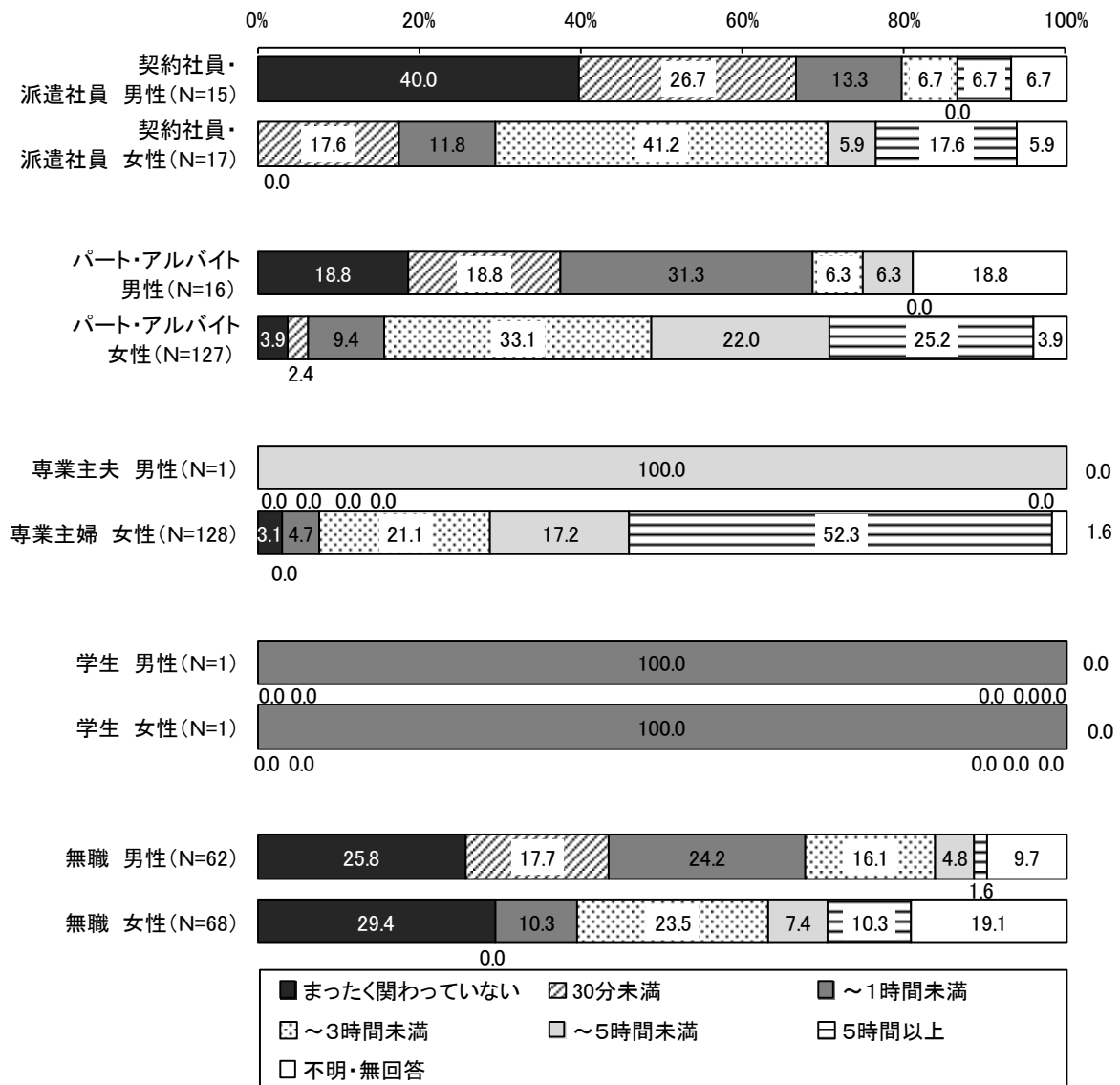
年齢別にみると、30歳代では「5時間以上」が最も高く、40歳代、50歳代では「～3時間未満」が最も高くなっています。また20歳代では「まったく関わっていない」「～1時間未満」、60歳代、70歳以上では「まったく関わっていない」が最も高くなっています。



職業別

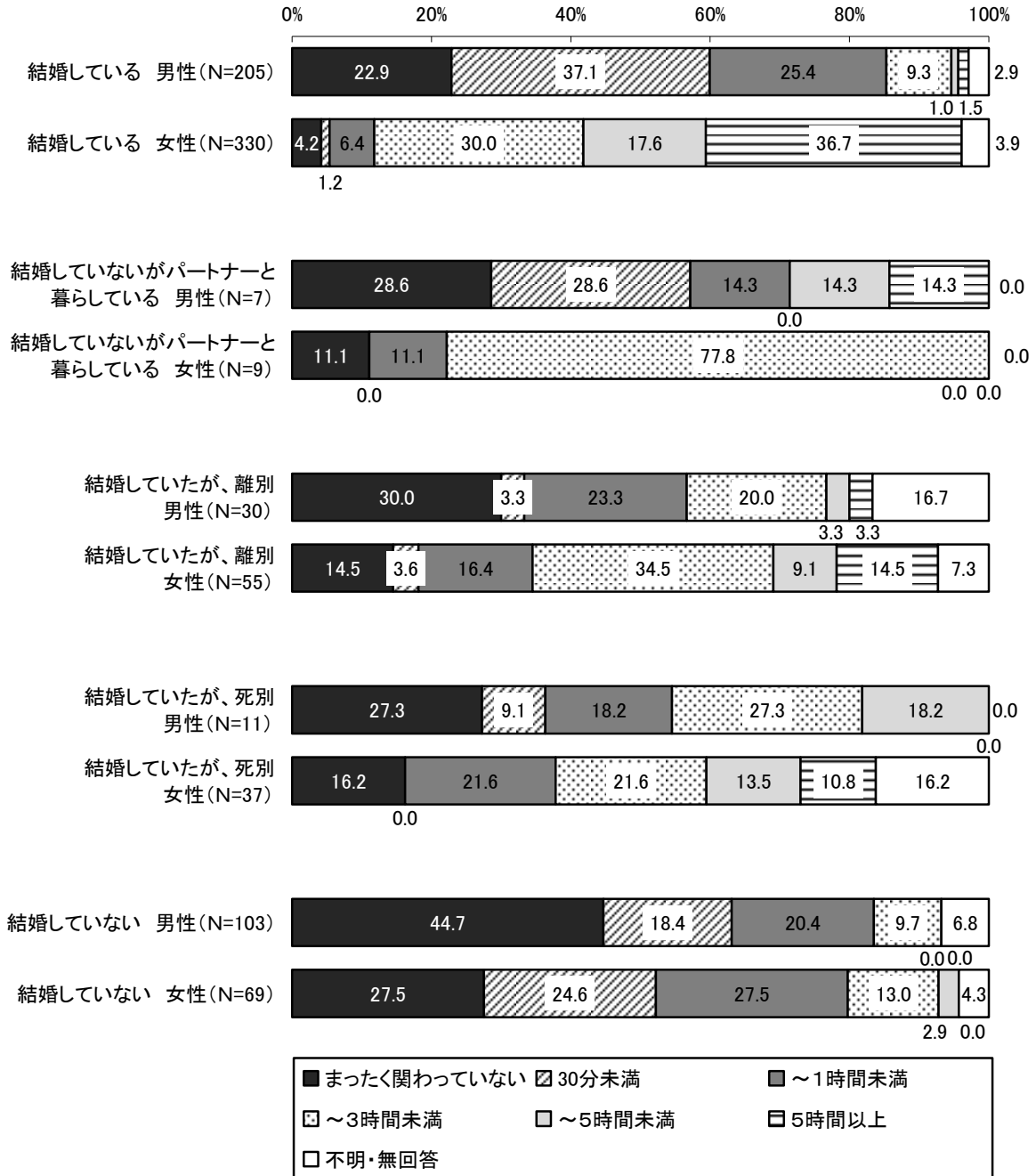
職業別にみると、「学生」「無職」を除くすべての職業で、男性より女性が、家事、育児、介護に携わる時間が長い傾向にあります。





婚姻別

婚姻別にみると、すべてにおいて男性より女性が、家事、育児、介護に携わる時間が長い傾向にあります。



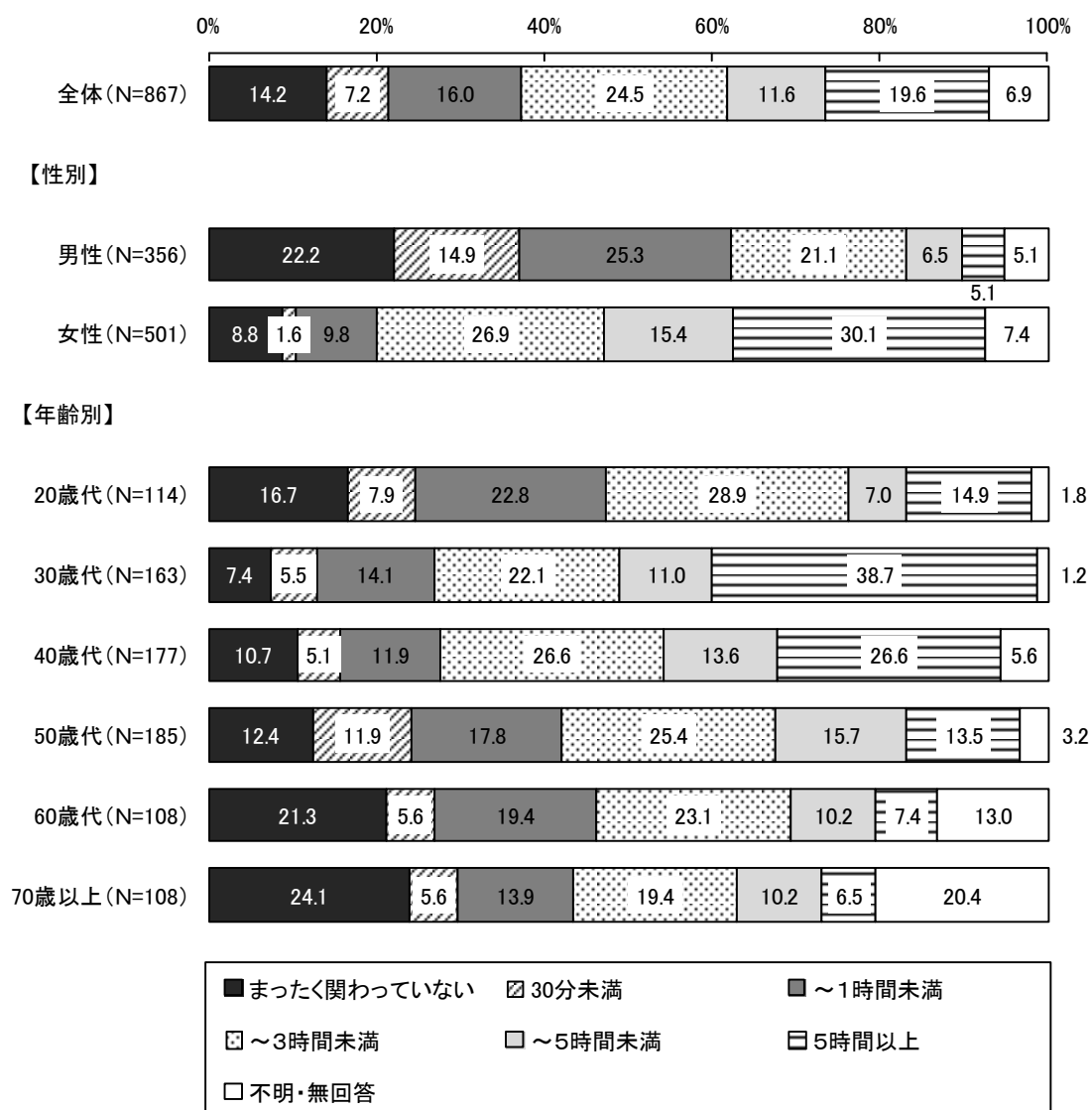
②休日

男性では「～1時間未満」、女性では「5時間以上」が最も高い

休日の家事・育児・介護に携わる時間についてみると、全体では「～3時間未満」が24.5%と最も高く、次いで「5時間以上」が19.6%、「～1時間未満」が16.0%となっています。

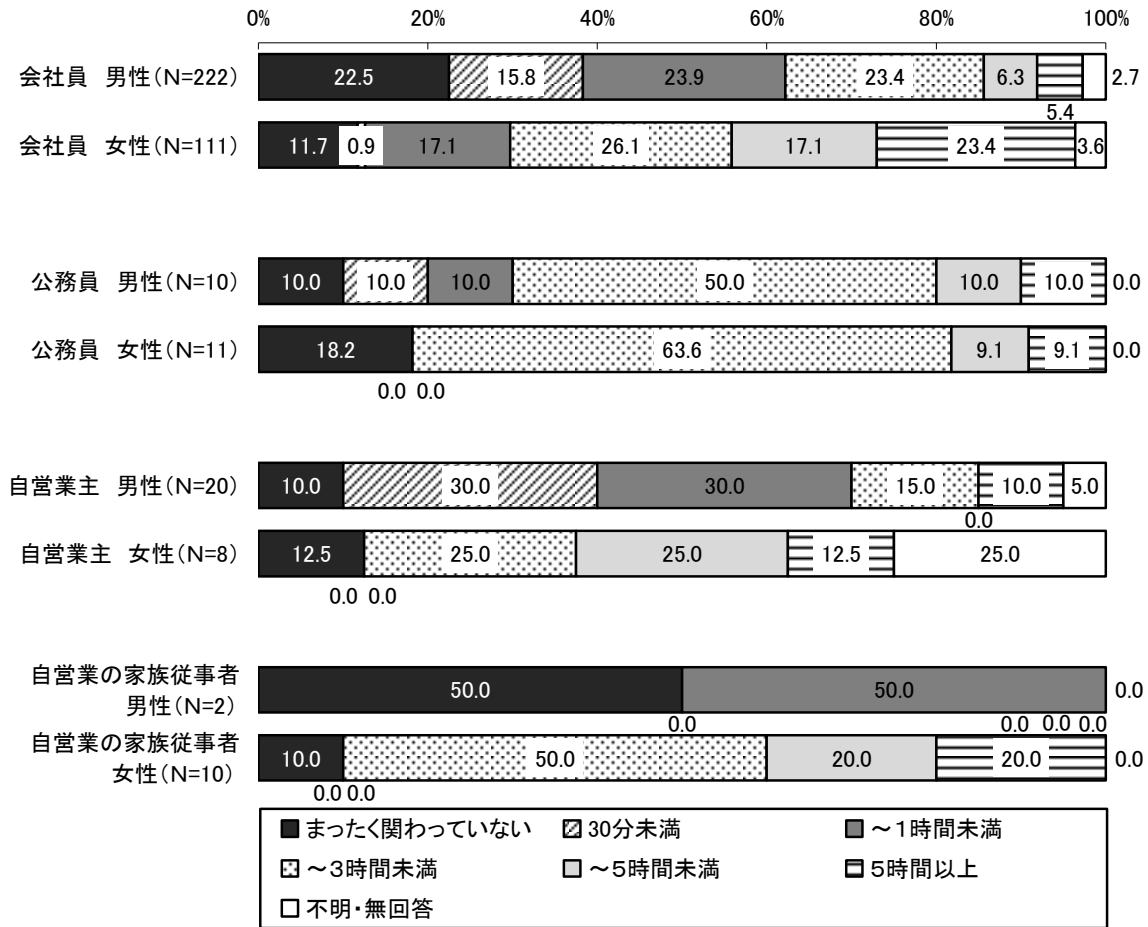
男女別にみると、男性では「～1時間未満」が25.3%と最も高くなっていますが、女性では「5時間以上」が30.1%と最も高くなっています。

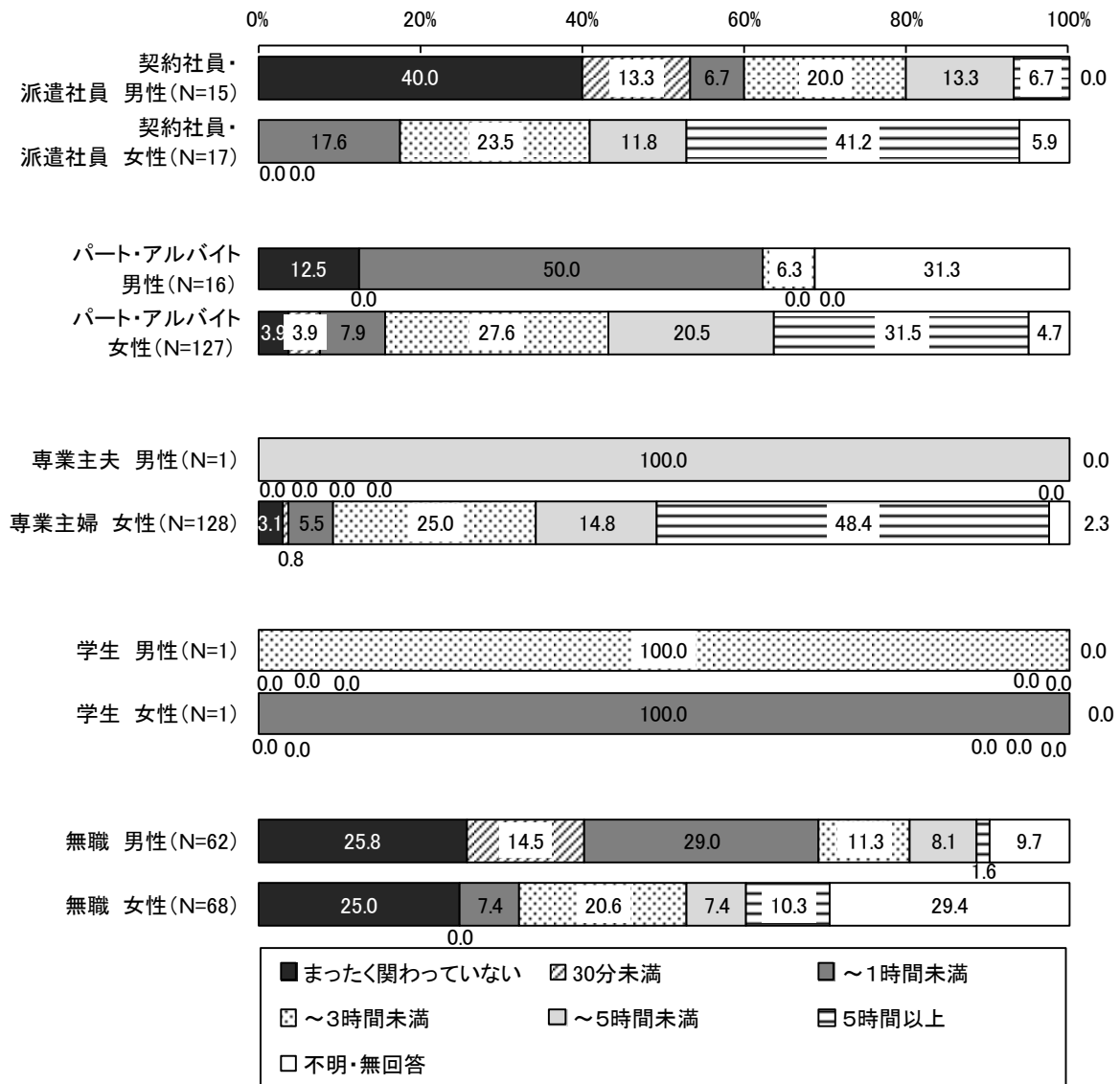
年齢別にみると、20歳代、50歳代、60歳代では「～3時間未満」、30歳代では「5時間以上」、70歳以上では「まったく関わっていない」が最も高くなっています。また、40歳代では「～3時間未満」「5時間以上」がともに最も高くなっています。



職業別

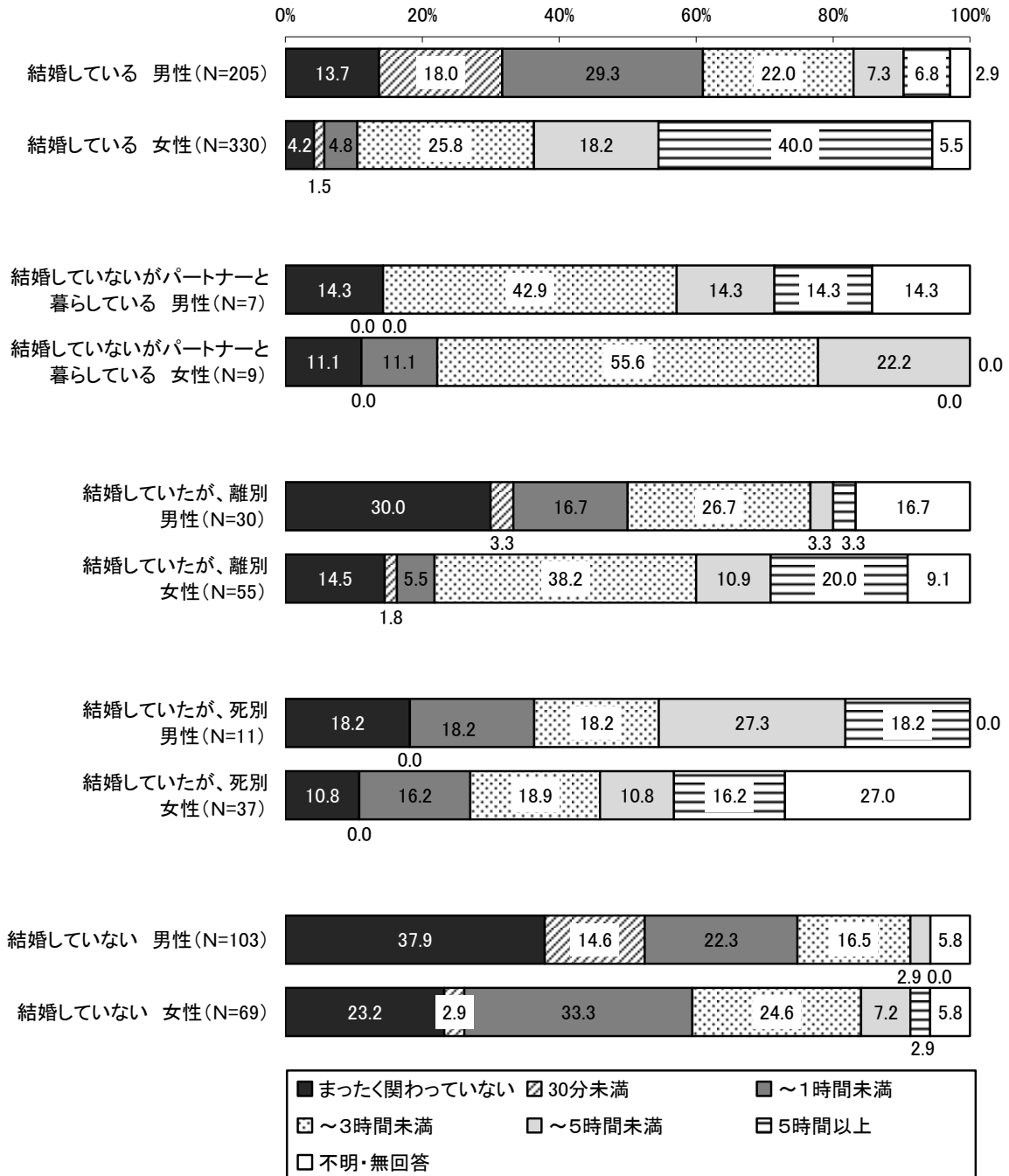
職業別にみると、「会社員」「契約社員・派遣社員」「パート・アルバイト」で男性より女性が家事、育児、介護に携わる時間が長い傾向にあります。





婚姻別

婚姻別にみると、すべてにおいて男性より女性が、家事、育児、介護に携わる時間が長い傾向にあります。



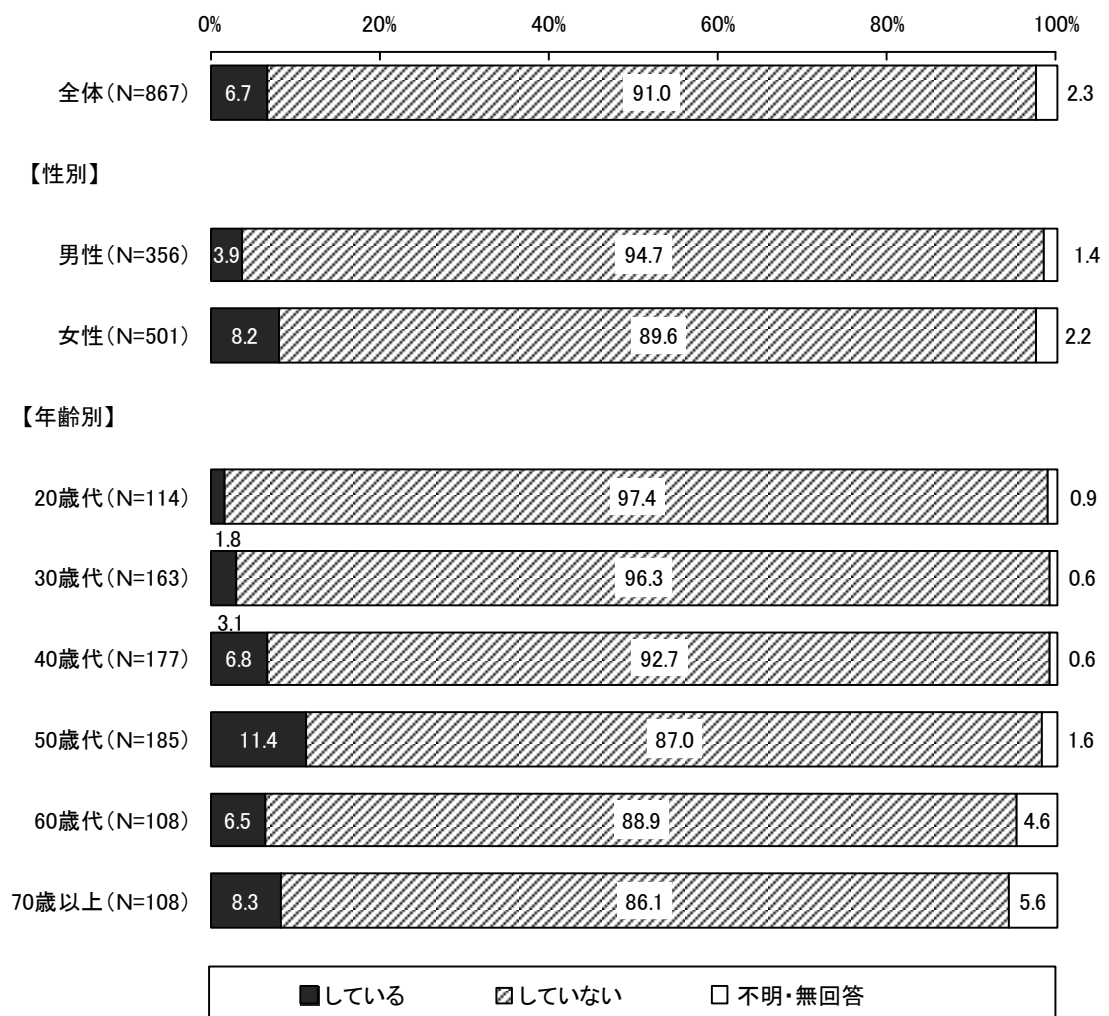
問 16 あなたの現在の介護の状況についておたずねします。あなたは、現在家族の誰かを介護していますか。(単数回答)

男性は 3.9%、女性は 8.2%が「している」

現在の介護の状況についてみると、全体では「していない」が91.0%、「している」が6.7%となっています。

男女別にみると、「している」が男性で3.9%、女性で8.2%と、女性が4.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、50歳代で「している」が11.4%、70歳以上で8.3%と高くなっています。



<問 17 については、問 16 で「1. している」と答えた方におたずねします>

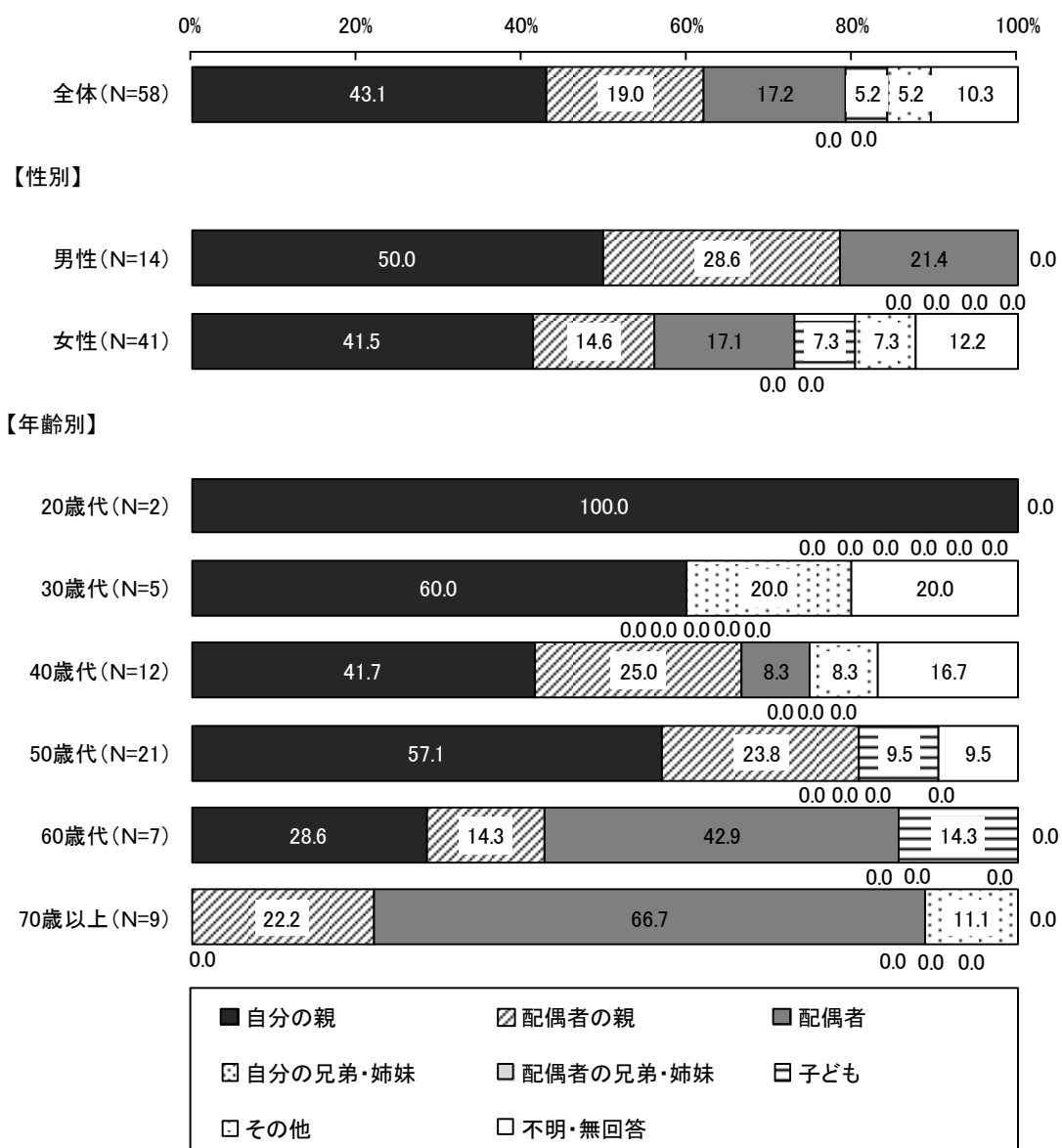
問 17 あなたが介護している対象はだれですか。(単数回答)

**20 歳代から 50 歳代は「自分の親」が最も高く、
60 歳以上は「配偶者」が最も高い**

介護している対象についてみると、全体では「自分の親」が 43.1%と最も高く、次いで「配偶者の親」が 19.0%となっています。

男女別にみると、男性、女性ともに「自分の親」が最も高く、男性が 50.0%、女性が 41.5%となっています。

年齢別にみると、全体同様、20 歳代から 50 歳代では「自分の親」が最も高くなっていますが、60 歳代以上では、「配偶者」が最も高くなっています。



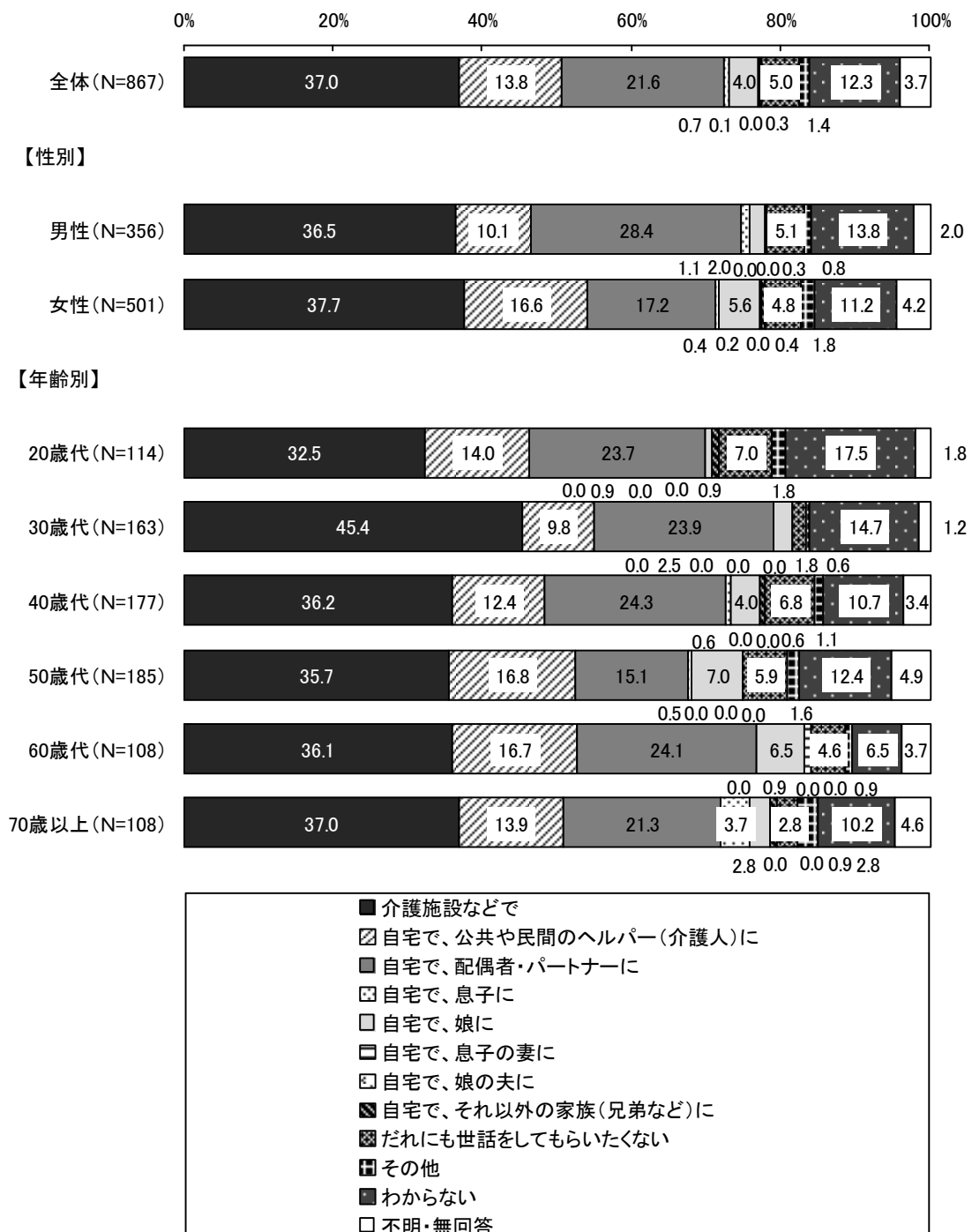
問 18 あなたの介護の理想についておたずねします。あなたがもし介護が必要な状態になった場合、主に誰に(どこで)身の回りの世話をしてもらいたと思いますか。(単数回答)

すべての年代で「介護施設などで」が高い

介護の理想についてみると、全体では「介護施設などで」が37.0%と最も高く、次いで「自宅で、配偶者・パートナーに」が21.6%となっています。

男女別にみると、男性、女性ともに「介護施設などで」が最も高くなっています。

年齢別にみると、全体同様、すべての年代において「介護施設などで」が最も高くなっています。



その他回答意見	件数
安い施設があればよい	3
本当は自宅で家族に介護してもらいたいが、現実にはそうはいかないので、介護人（ヘルパー）などに相談してベストな方法を考える	2
家族に介護してくれる人がいるなら誰でもいい	2
重篤な場合は、死を望む	2

問 19 あなたの生活は、次のどれにあてはまりますか。(単数回答)

※この質問における用語の意味は次のとおりとします。

- 「仕事」 … 自営業主(農林漁業を含む)、家族従事者、雇用者として、週1時間以上働いていること。常勤(フルタイム)、パート・アルバイト、嘱託などは問わない。
- 「家庭生活」 … 家族と過ごすこと、家事(食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買い物など)、育児、介護・看護など
- 「地域・個人の生活」 … 地域・社会活動(ボランティア活動、社会参加活動、交際・つきあいなど)、学習・研究(学業も含む)、趣味・娯楽、スポーツなど

**実際の生活では、男性は「仕事」を優先、女性は「家庭生活」を優先、
理想の生活では、男性、女性ともに
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先が最も高い**

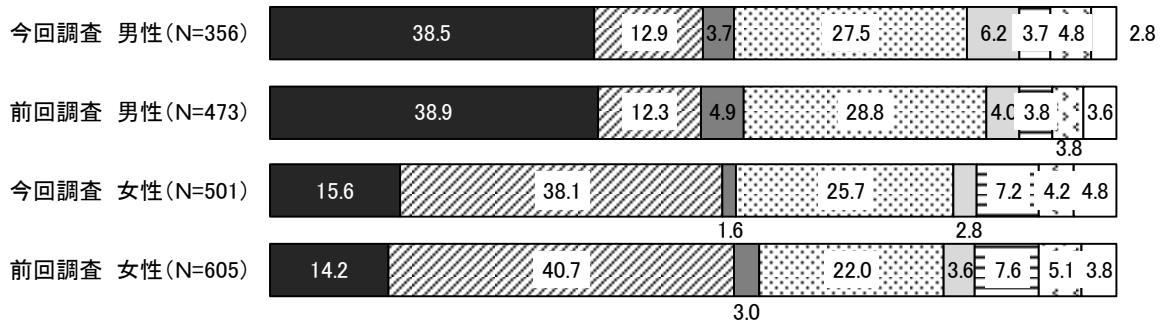
男女別にみると、①実際の生活では、男性は「仕事」を優先が38.5%、女性は「家庭生活」を優先が38.1%と最も高くなっています。

②理想の生活では、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先が男性は30.9%、女性は30.1%と最も高くなっています。

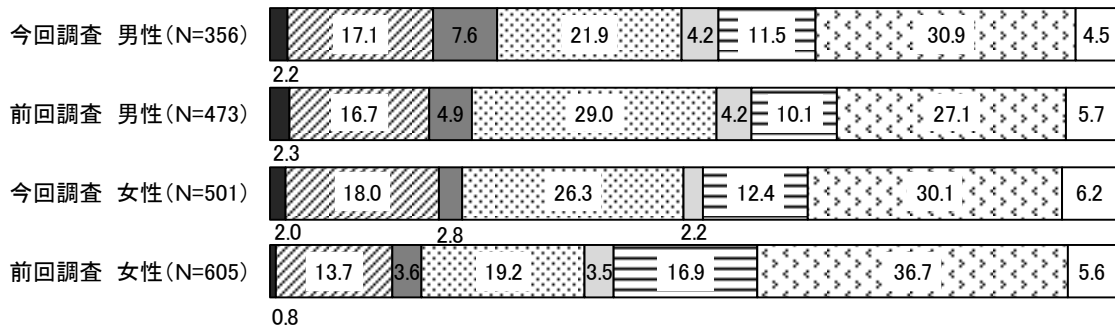
前回調査と比較すると、①実際の生活では大きな変化はありませんが、②理想の生活では男性は、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先が、女性は「仕事」と「家庭生活」をともに優先が、今回調査で割合が高くなっています。

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【①実際の生活】



【②理想の生活】



- 「仕事」を優先
- ▨ 「家庭生活」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 不明・無回答

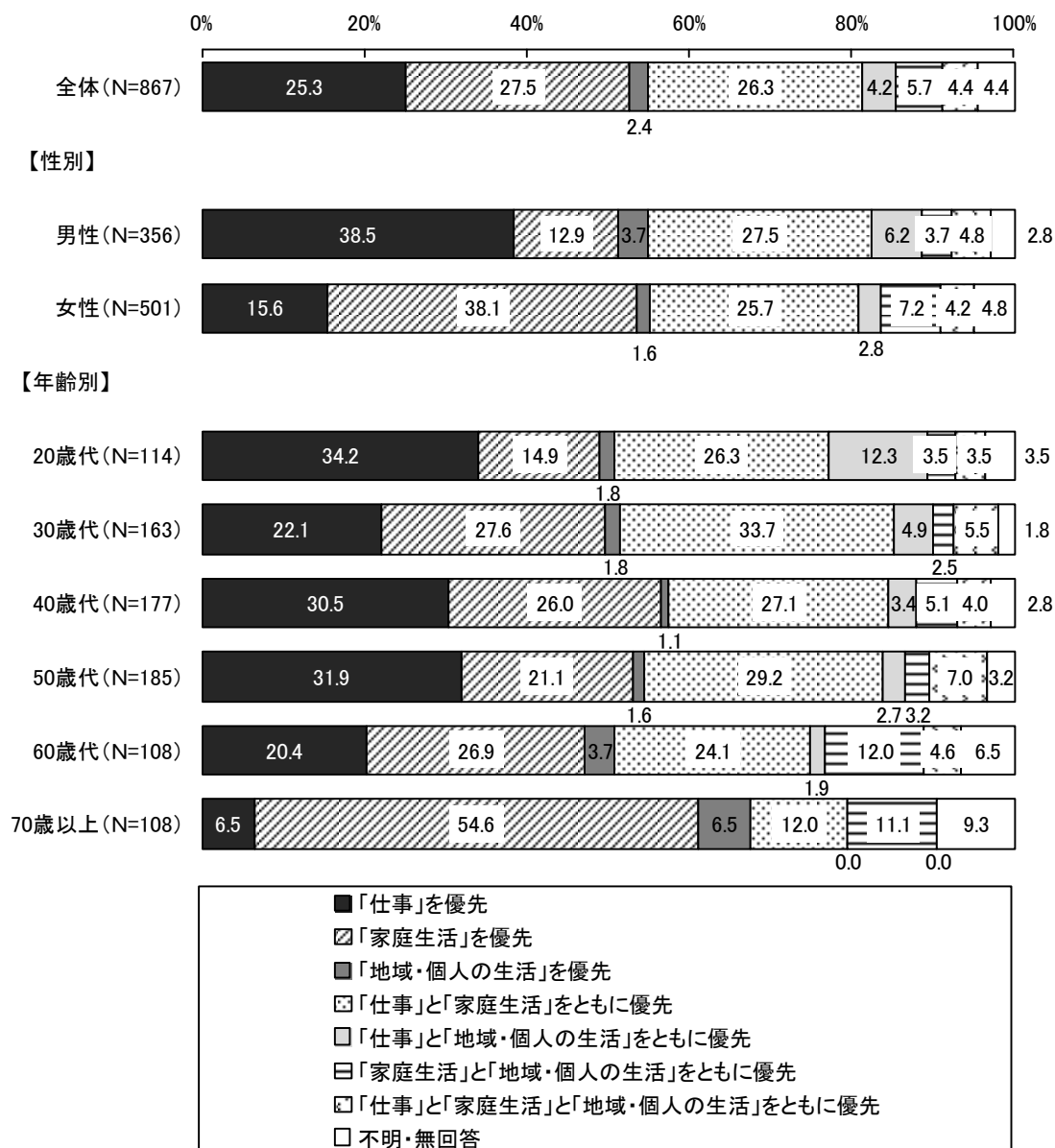
①実際の生活

20歳代・40歳代・50歳代では「仕事」を優先が最も高い

実際の生活についてみると、「家庭生活」を優先が27.5%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先が26.3%、「仕事」を優先が25.3%となっています。

男女別にみると、男性は「仕事」を優先が38.5%と最も高くなっていますが、女性は「家庭生活」を優先が38.1%と最も高くなっています。

年齢別にみると、20歳代、40歳代、50歳代では「仕事」を優先が、30歳代では「仕事」と「家庭生活」をともに優先が、60歳代以上では「家庭生活」を優先が最も高くなっています。



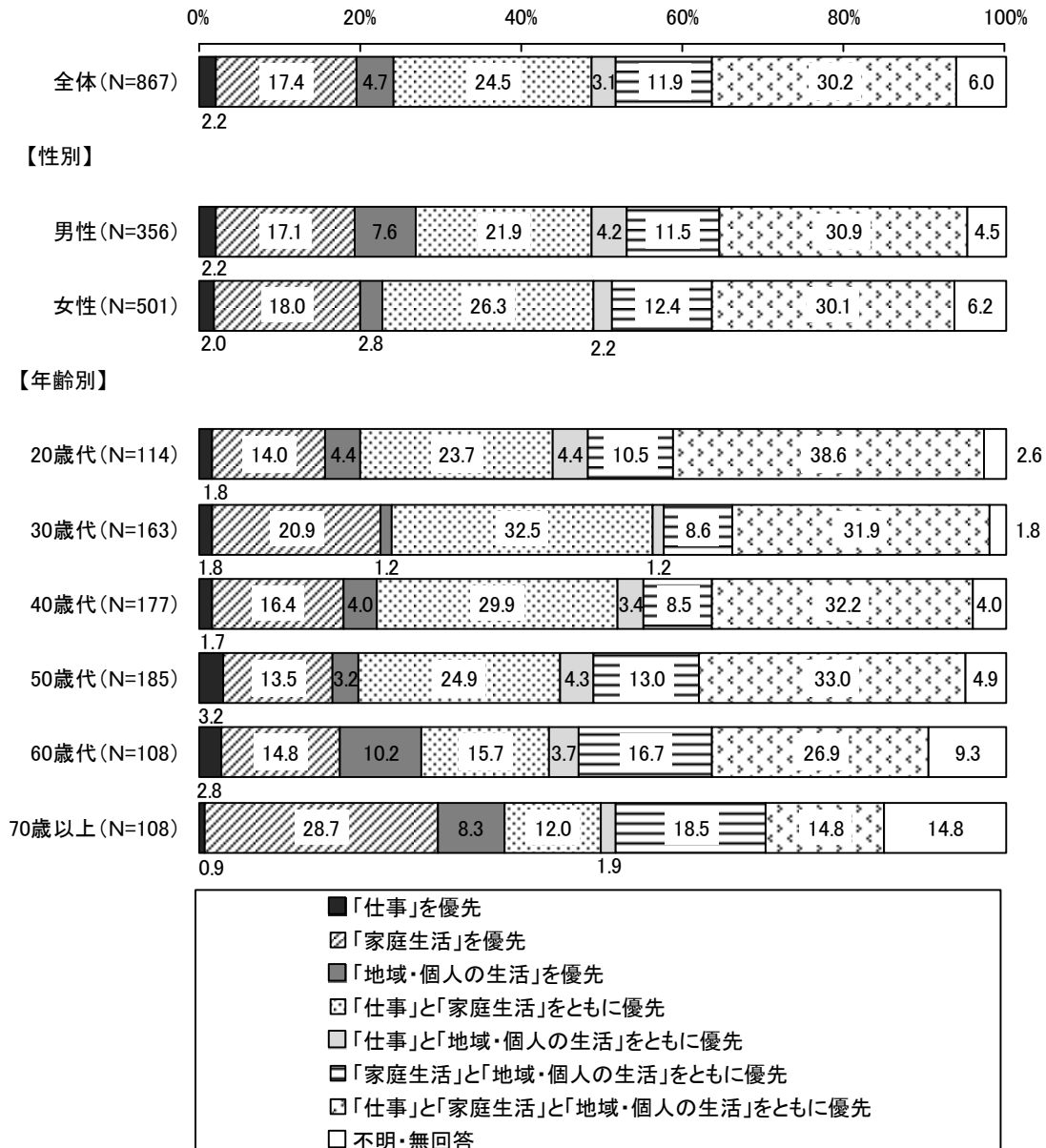
②理想の生活

**20歳代、40歳代から60歳代では
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」が最も高い**

理想の生活についてみると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」が30.2%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が24.5%、「家庭生活」を優先」が17.4%となっています。

男女別にみると、男性、女性ともに「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」が最も高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上では「家庭生活」を優先」、30歳代では「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が最も高く、それ以外の年代では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」が最も高くなっています。また「仕事を優先」については、すべての年代で5.0%未満となっています。

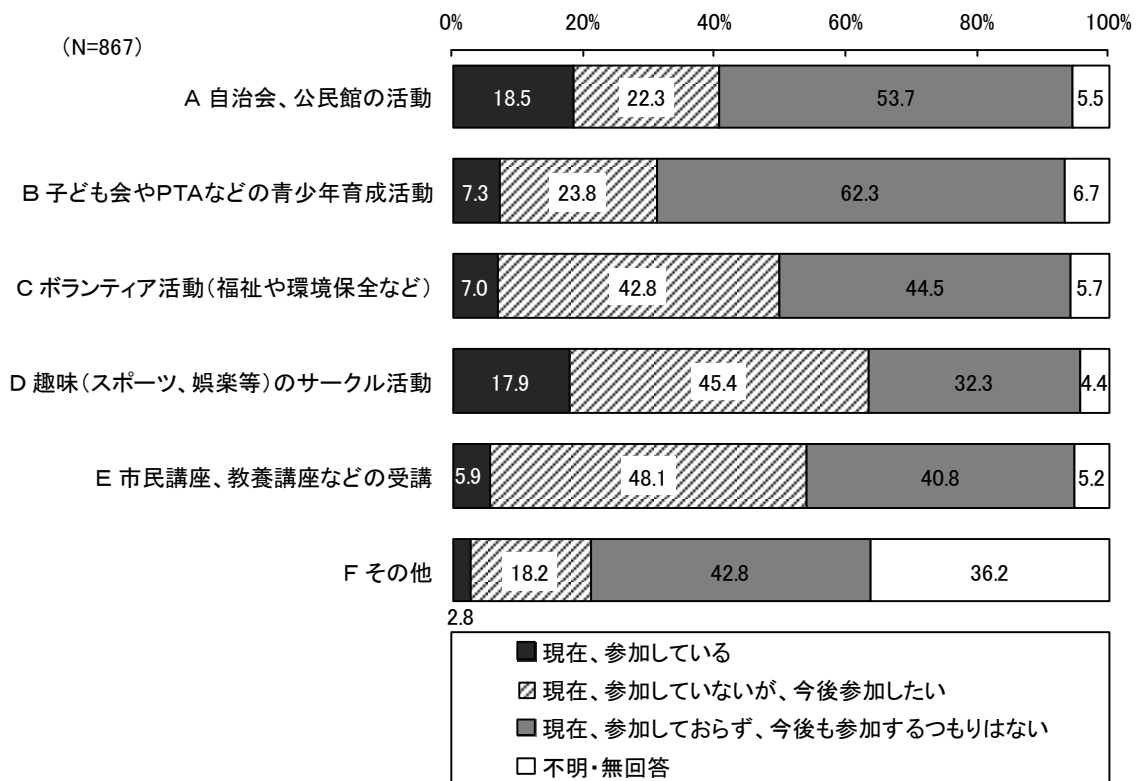


問 20 地域・個人の生活についてお答えください。(単数回答)

**「現在、参加している」では
「自治会、公民館の活動」(18.5%)が最も高い**

地域・個人の生活についてみると、「現在、参加している」では「A 自治会、公民館の活動」が18.5%、「D 趣味(スポーツ、娯楽等)のサークル活動」が17.9%と高くなっています。

一方、「現在、参加していないが、今後参加したい」では「E 市民講座、教養講座などの受講」が48.1%、「D 趣味(スポーツ、娯楽等)のサークル活動」が45.4%と高くなっています。

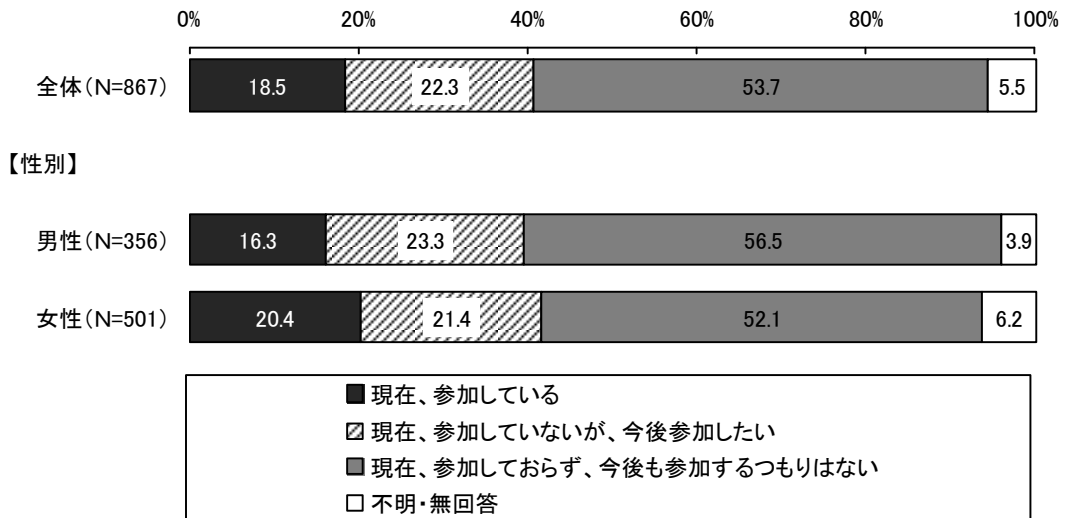


A 自治会、公民館の活動

女性では「現在、参加している」が2割を超える

自治会、公民館の活動についてみると、全体では「現在、参加している」が18.5%となっています。

男女別にみると、「現在、参加している」で男性が16.3%、女性が20.4%と、男性より女性が4.1ポイント高くなっています。

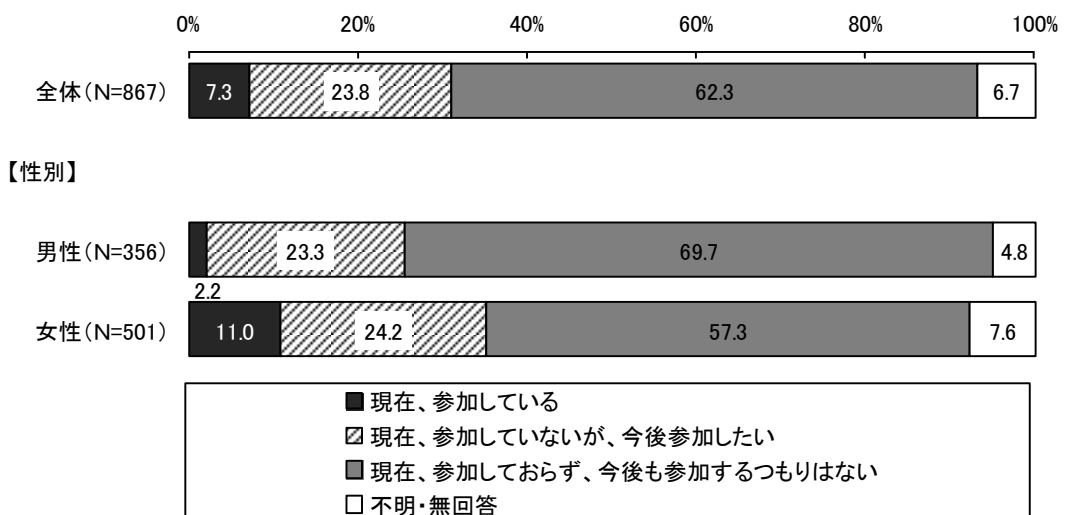


B 子ども会やPTAなどの青少年育成活動

「現在、参加している」で女性が男性より8.8ポイント高い

子ども会やPTAなどの青少年育成活動についてみると、全体では「現在、参加している」が7.3%となっています。

男女別にみると、「現在、参加している」で男性が2.2%、女性が11.0%と、男性より女性が8.8ポイント高くなっています。

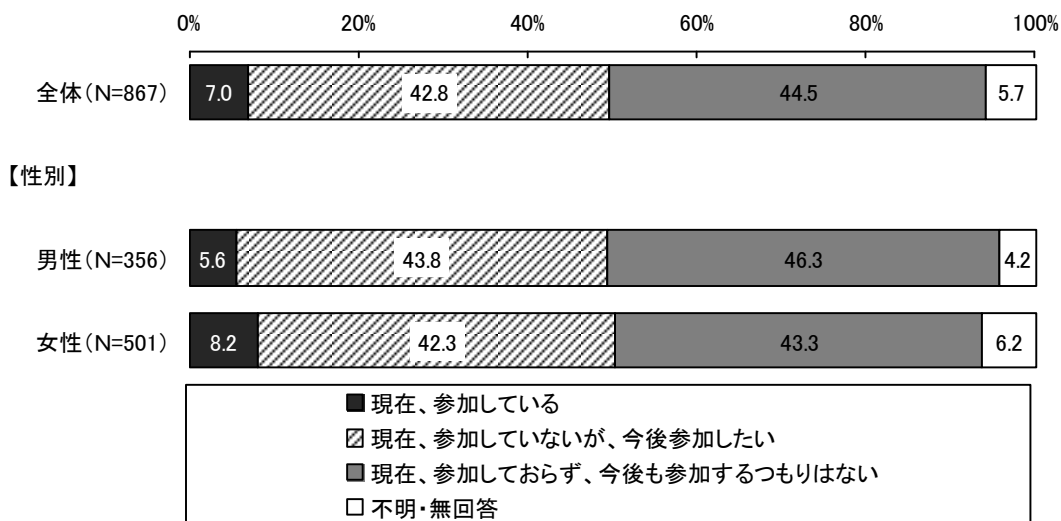


C ボランティア活動(福祉や環境保全など)

全体では「現在、参加している」が7.0%

ボランティア活動(福祉や環境保全など)についてみると、全体では「現在、参加している」が7.0%となっています。

男女別にみると、「現在、参加している」で男性が5.6%、女性が8.2%と、男性より女性が2.6ポイント高くなっています。

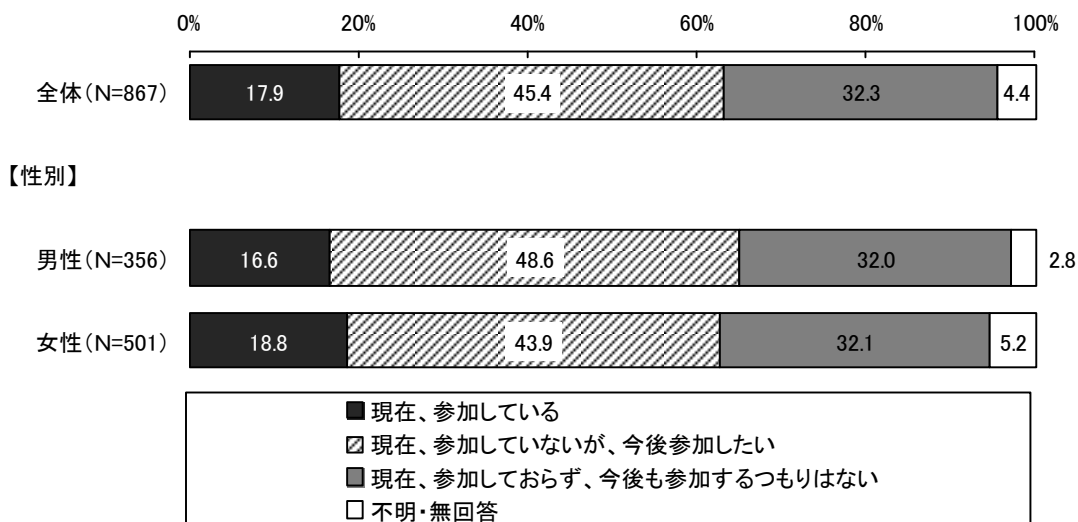


D 趣味(スポーツ、娯楽等)のサークル活動

男性で「現在、参加していないが、今後参加したい」が48.6%

趣味(スポーツ、娯楽等)のサークル活動についてみると、全体では「現在、参加している」が17.9%となっています。

男女別にみると、「現在、参加している」で男性が16.6%、女性が18.8%と、男性より女性が2.2ポイント高くなっています。

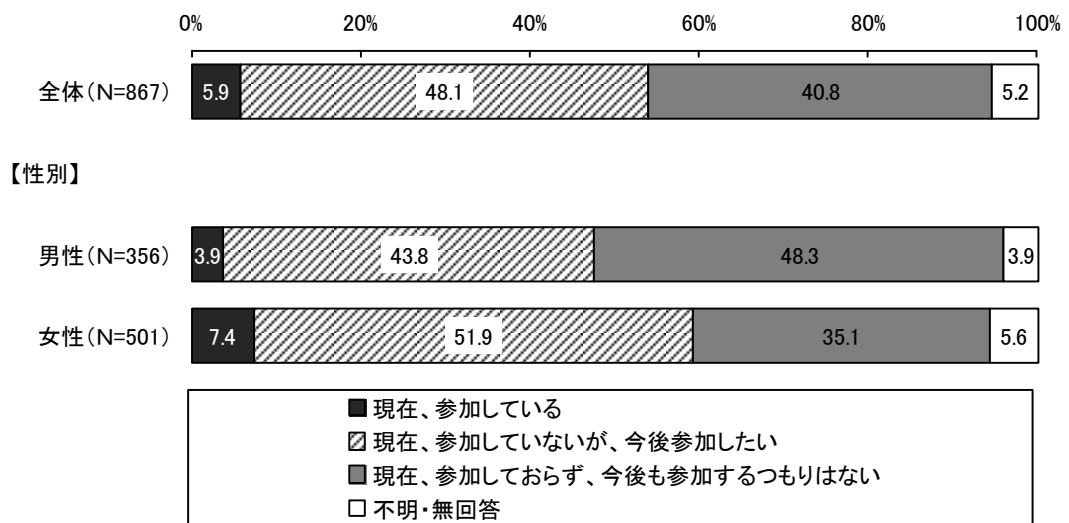


E 市民講座、教養講座などの受講

全体では「現在、参加している」が 5.9%
女性で「現在、参加していないが、今後参加したい」が 51.9%

市民講座、教養講座などの受講についてみると、全体では「現在、参加している」が 5.9%となっています。

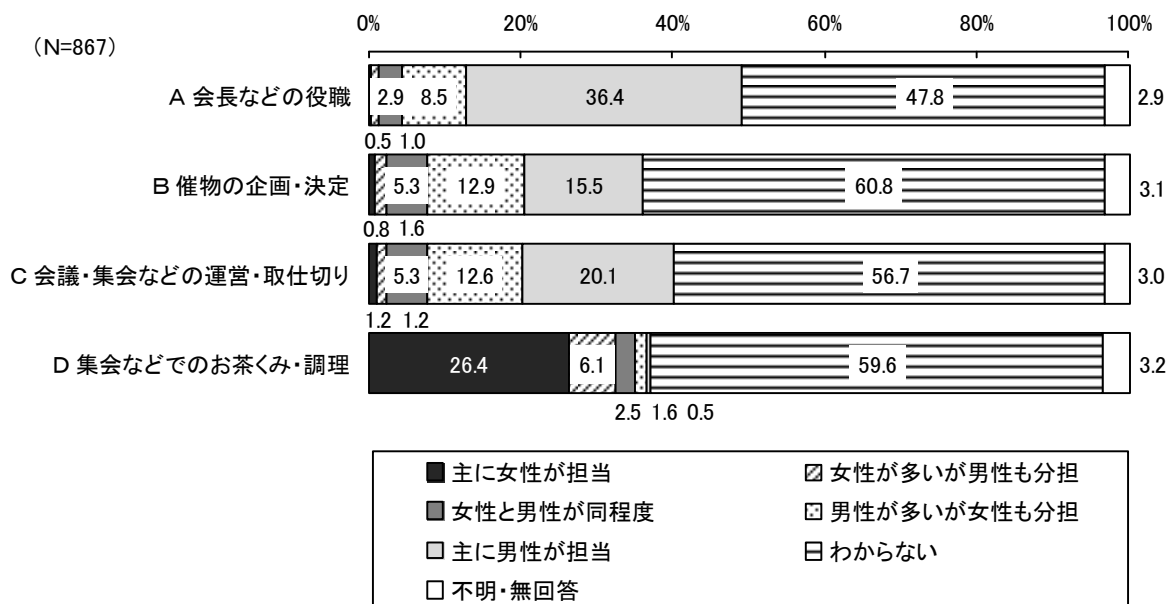
男女別にみると、「現在、参加している」で男性が 3.9%、女性が 7.4%と、男性より女性が 3.5ポイント高くなっています。



問 21 あなたが住んでいる地域では、地域活動の役割分担はどのようになっていますか。(単数回答)

「会長などの役職」では「主に男性が担当」(36.4%)
「集会などでのお茶くみ・調理」では「主に女性が担当」(26.4%)

地域活動の役割分担についてみると、「A 会長などの役職」で「主に男性が担当」が 36.4%と高くなっています。また「D 集会などでのお茶くみ・調理」で「主に女性が担当」が 26.4%と高くなっています。

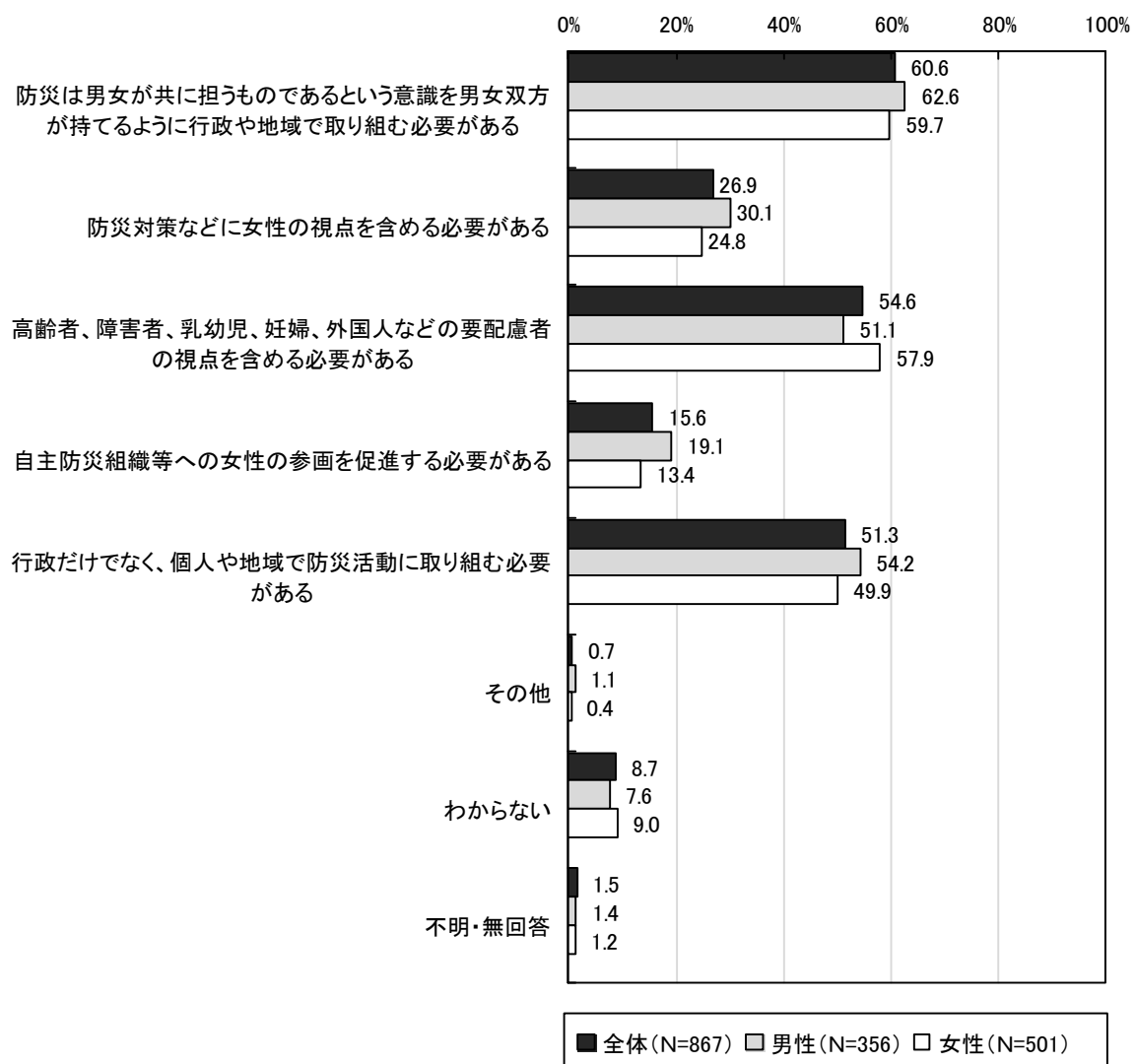


問 22 地域の防災(災害対策)活動を推進するにあたり、あなたはどのようにお考えですか。(複数回答)

男性、女性ともに「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」が最も高い

地域の防災活動の推進についての考えをみると、全体では「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」が60.6%と最も高く、次いで「高齢者、障害者、乳幼児、妊婦、外国人などの要配慮者の視点を含める必要がある」が54.6%となっています。

男女別にみると、男性、女性ともに「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」が最も高くなっています。



年齢別にみると、すべての年代において「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」が最も高くなっています。

	防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある	防災対策などに女性の視点を含める必要がある	高齢者、障害者、乳幼児、妊婦、外国人などの要配慮者の視点を含める必要がある	自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある	行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある	その他	わからない	不明・無回答
20歳代 (N=114)	58.8	28.9	53.5	11.4	54.4	0.0	8.8	0.0
30歳代 (N=163)	56.4	22.7	55.8	8.0	46.0	1.8	7.4	1.2
40歳代 (N=177)	61.6	27.7	54.8	11.9	55.4	-	6.2	0.6
50歳代 (N=185)	64.9	28.6	54.6	16.2	48.6	0.5	10.3	1.6
60歳代 (N=108)	63.0	21.3	52.8	21.3	52.8	0.9	9.3	2.8
70歳以上 (N=108)	59.3	31.5	55.6	32.4	54.6	0.9	10.2	1.9

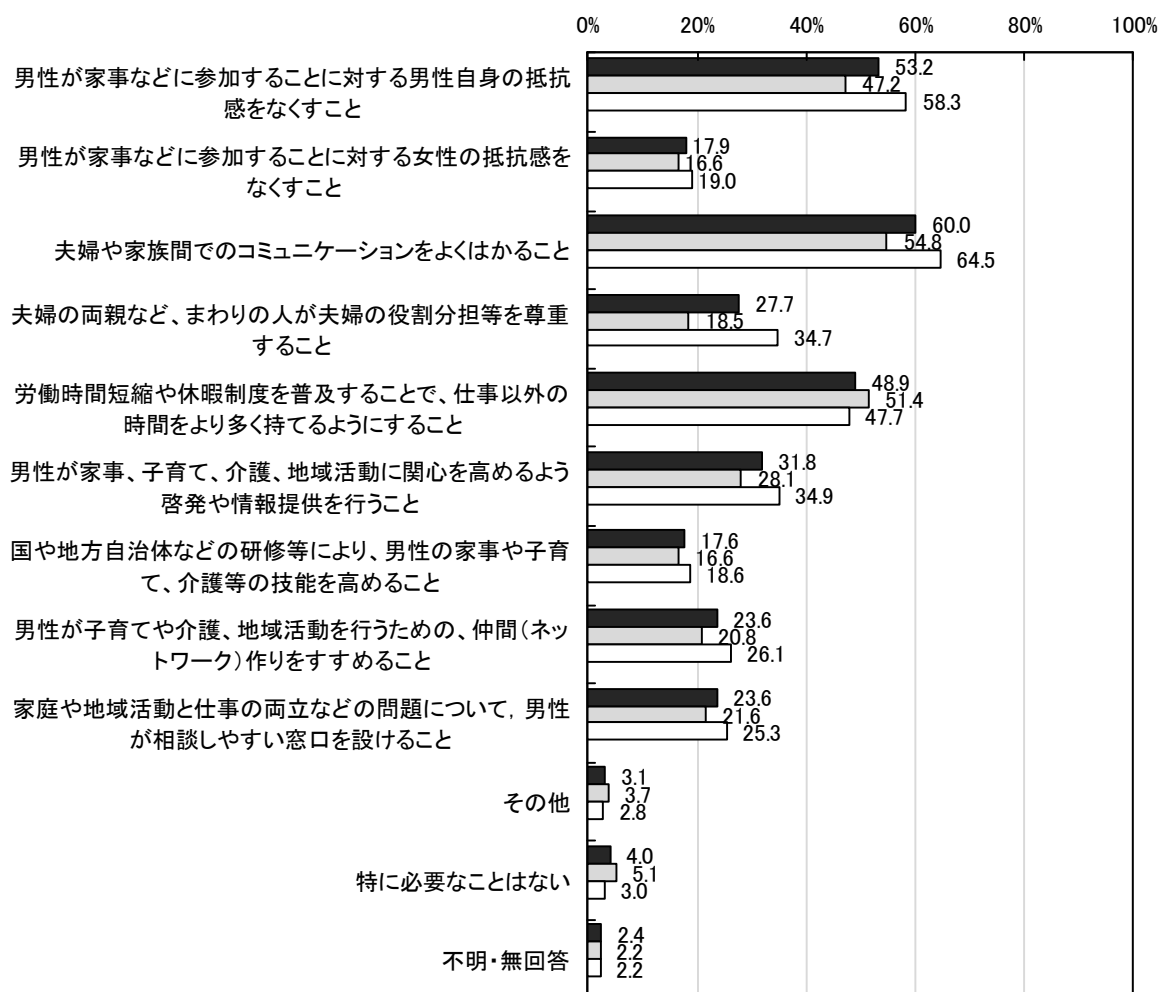
単位：%

問 23 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

男性、女性ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高い

今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なことについてみると、全体では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が60.0%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が53.2%となっています。

男女別にみると、男性、女性ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高くなっています。



■ 全体 (N=867) □ 男性 (N=356) □ 女性 (N=501)

その他回答意見	件数
会社の理解 (男性の意識、職場復帰しやすい環境づくり など)	10
収入	5
社会全体の価値観が変わる必要がある	4

年齢別にみると、20歳代では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が、30歳代では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が、40歳代以上では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高くなっています。

	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	夫婦の両親など、まわりの人が夫婦の役割分担等を尊重すること	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
20歳代 (N=114)	64.0	19.3	64.0	28.1	61.4	28.1
30歳代 (N=163)	52.8	12.9	58.3	25.2	62.0	25.8
40歳代 (N=177)	55.9	19.2	59.3	31.6	53.7	32.2
50歳代 (N=185)	50.3	15.1	57.8	25.9	48.1	36.2
60歳代 (N=108)	50.9	21.3	59.3	25.9	25.0	33.3
70歳以上 (N=108)	48.1	22.2	65.7	28.7	35.2	36.1

	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	その他	特に必要なことはない	不明・無回答
20歳代 (N=114)	19.3	30.7	19.3	0.9	1.8	-
30歳代 (N=163)	10.4	20.2	18.4	5.5	2.5	2.5
40歳代 (N=177)	16.4	22.6	22.0	4.0	1.7	1.7
50歳代 (N=185)	19.5	22.7	27.6	3.2	3.8	2.2
60歳代 (N=108)	16.7	24.1	20.4	1.9	8.3	1.9
70歳以上 (N=108)	26.9	25.0	35.2	0.9	8.3	5.6

単位：%

4. セクハラ・DVについて

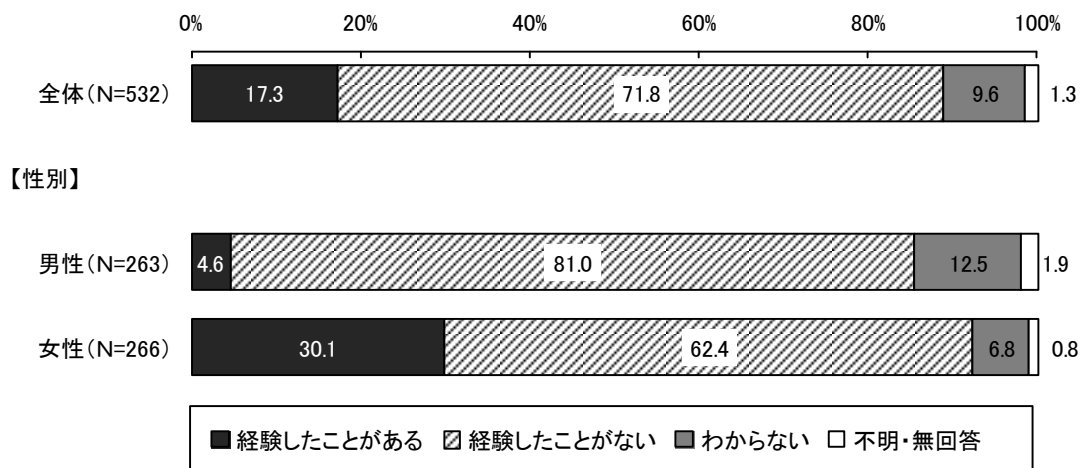
<問 24 については、問5で「1. 会社員」「2. 公務員」「5. 契約社員・派遣社員」「6. パート・アルバイト」と答えた方におたずねします>

問 24 職場におけるセクシュアル・ハラスメント(セクハラ、性的嫌がらせ)の経験がありますか。(単数回答)

女性では「経験したことがある」が 30.1%と高い

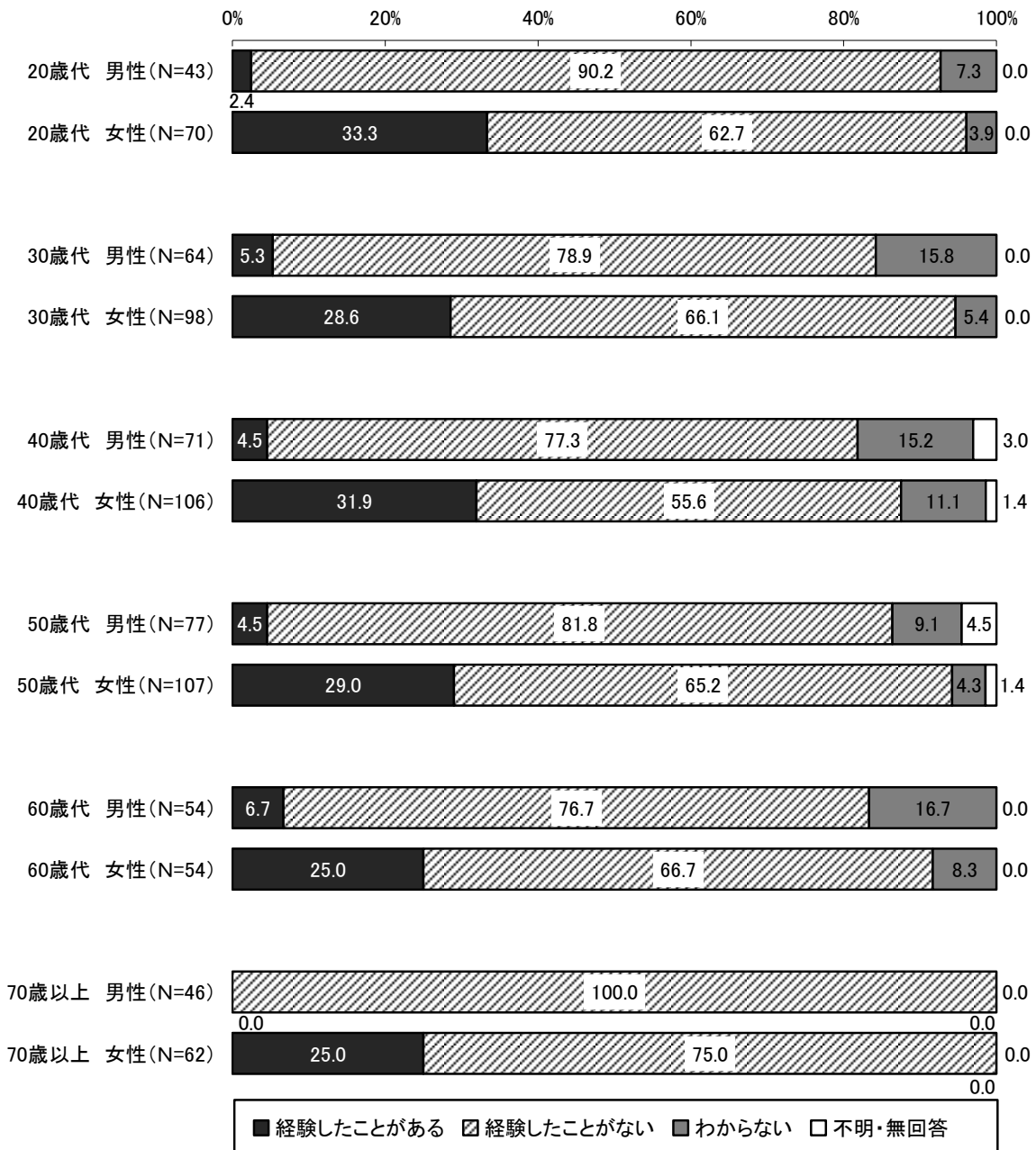
職場におけるセクシュアル・ハラスメントの経験についてみると、全体では「経験したことがない」が 71.8%、「経験したことがある」が 17.3%となっています。

男女別にみると、男性で「経験したことがある」が 4.6%、女性で 30.1%と、男性より女性が 25.5 ポイント高くなっています。



性別年齢別

性別年齢別にみると、すべての年代で、男性より女性の「経験したことがある」割合が高くなっています。



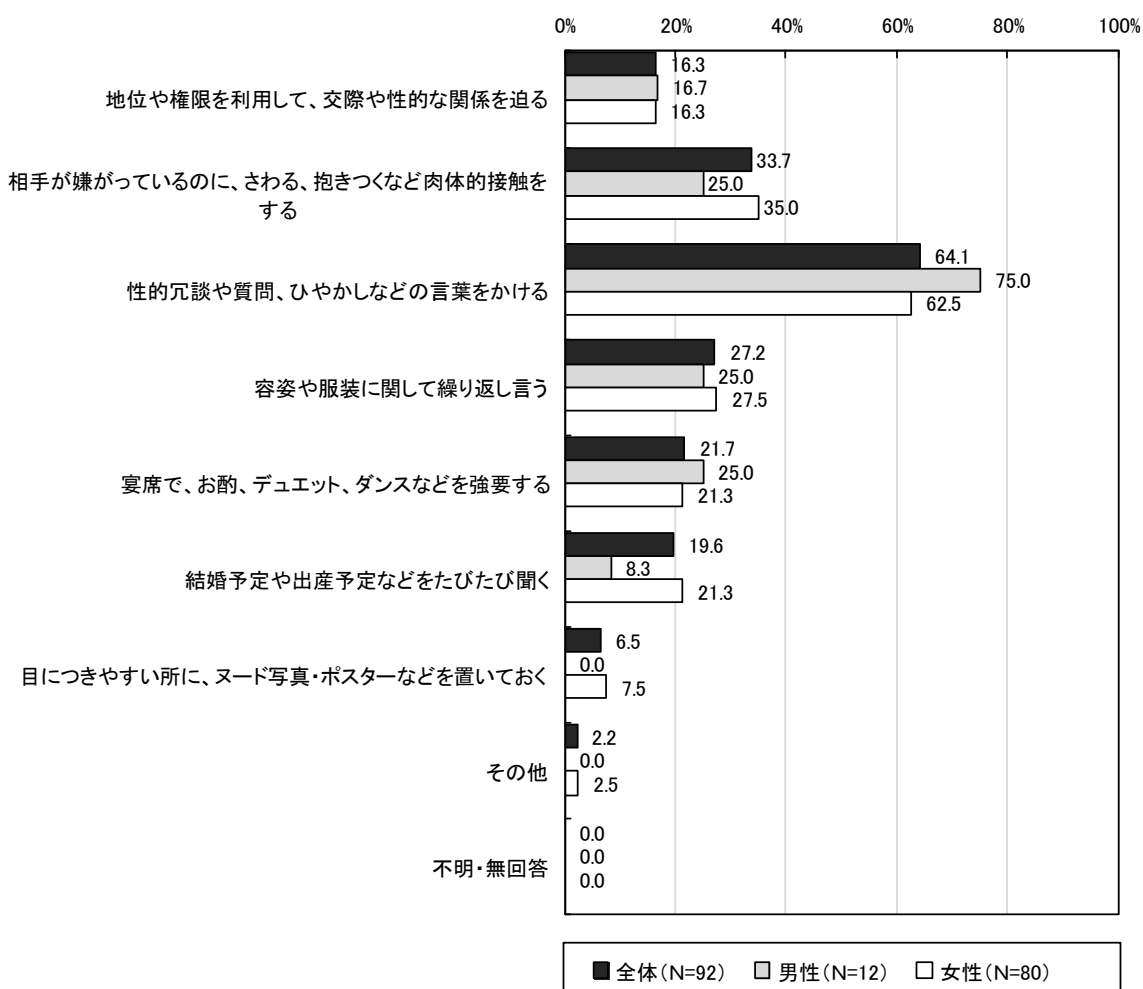
<問 25 については、問 24 で「1. 経験したことがある」と答えた方におたずねします>

問 25 セクシュアル・ハラスメント(セクハラ、性的嫌がらせ)の内容は、以下のどのようなものでしたか。(複数回答)

**全体、男性、女性いずれも
「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかける」が最も高い**

セクシュアル・ハラスメントの内容についてみると、全体、男性、女性いずれも「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかける」が 64.1%と最も高く、次いで「相手が嫌がっているのに、さわる、抱きつくなど肉体的接触をする」が 33.7%となっています。

男女別にみると、男性で「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかける」が 75.0%と最も高く、女性より 12.5 ポイント高くなっています。

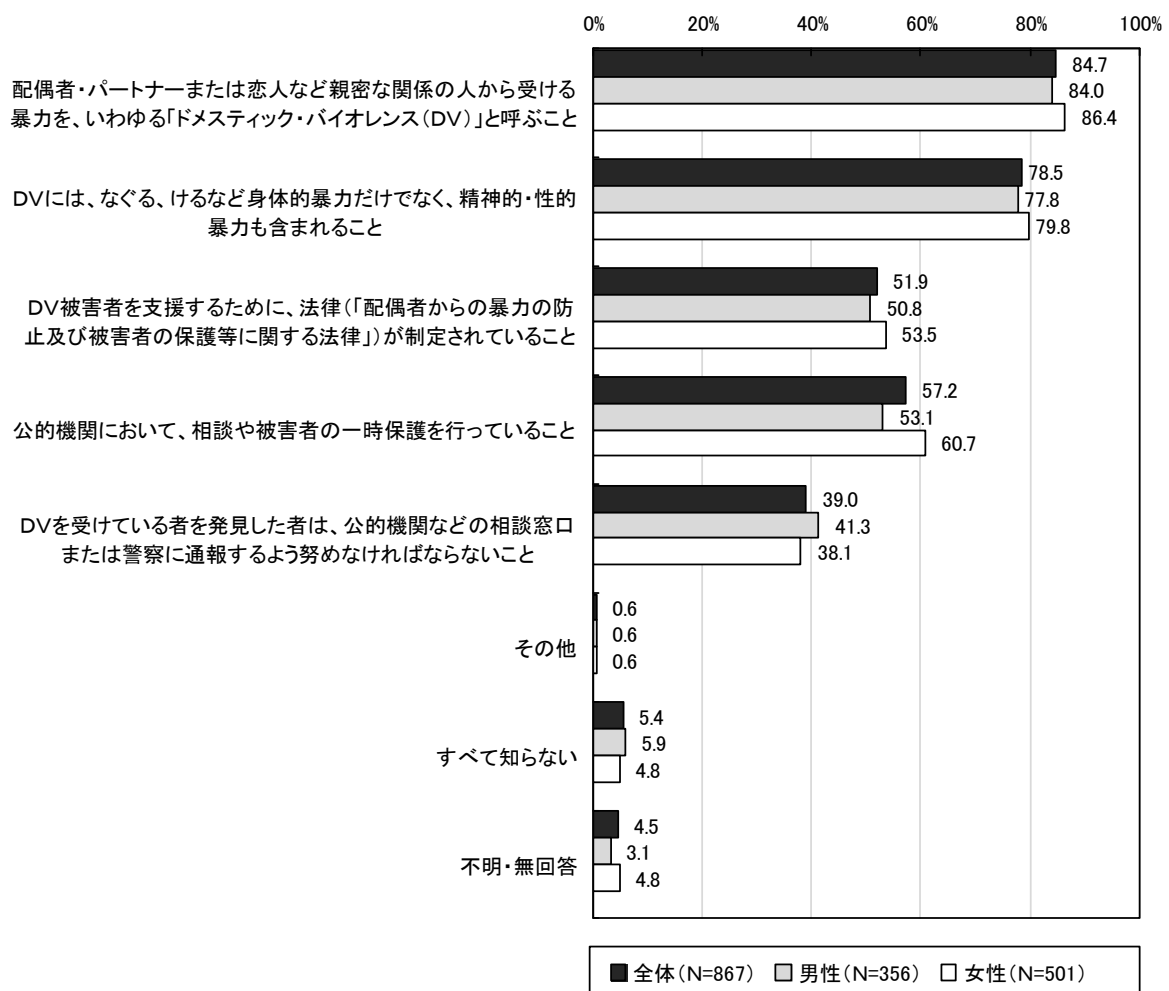


問 26 あなたは、DVに関する次のことについて知っていますか。(複数回答)

「配偶者・パートナーまたは恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス(DV)」と呼ぶこと」が84.7%

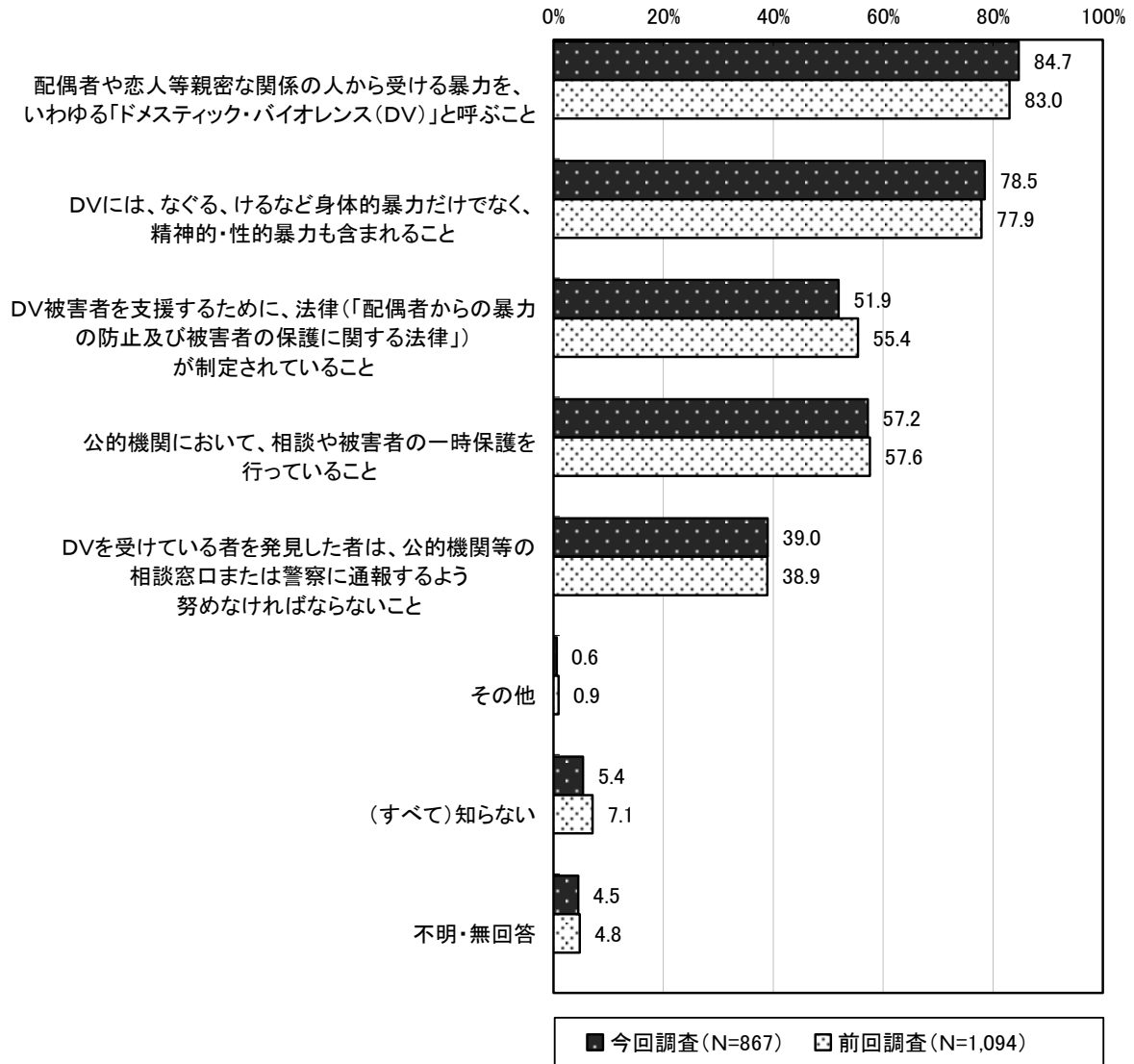
DVの認知度についてみると、全体では「配偶者・パートナーまたは恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス(DV)」と呼ぶこと」が84.7%と最も高くなっています。次いで「DVには、なぐる、けるなどの身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」が78.5%となっています。

男女別にみると、全体同様、男性、女性ともに「配偶者・パートナーまたは恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス(DV)」と呼ぶこと」が最も高くなっています。



前回調査との比較

前回調査と比較すると、「配偶者や恋人等親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」と呼ぶこと」「DVには、なぐる、けるなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」が、今回調査で割合が高くなっています。



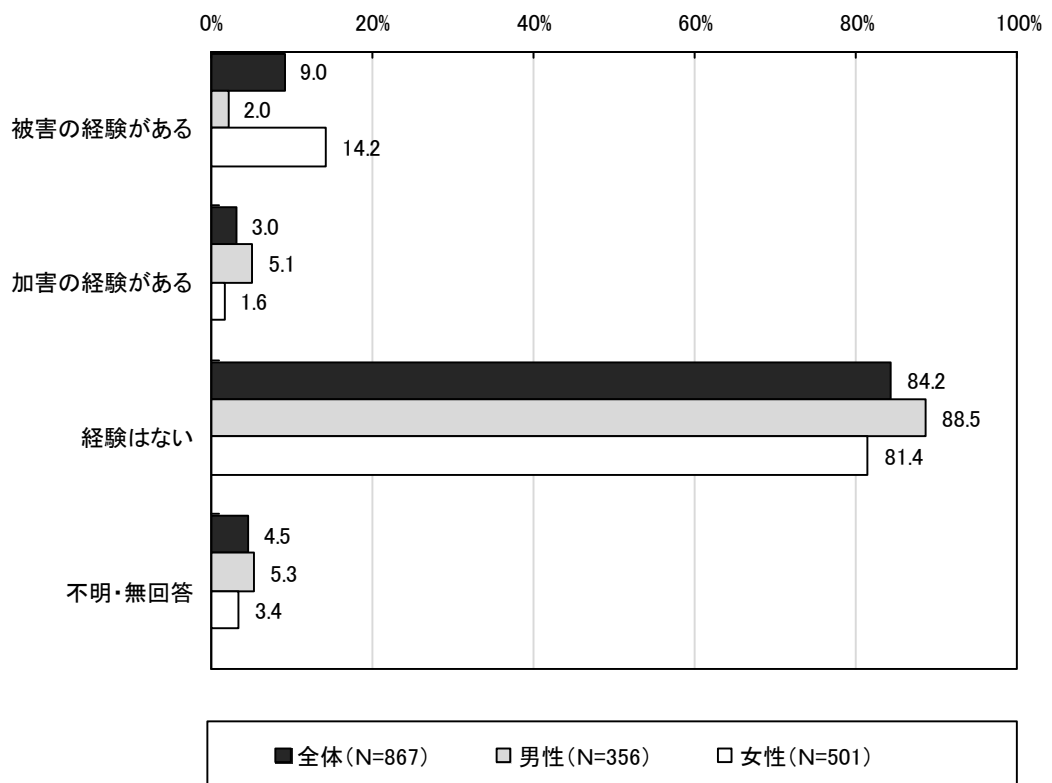
※前回調査は、「すべて知らない」が「知らない」という選択肢になっている

問 27 配偶者・パートナーまたは恋人との間において、DVの経験がありますか。(複数回答)

「被害の経験がある」女性は 14.2%

DVの経験についてみると、全体では「被害の経験がある」が9.0%、「加害の経験がある」が3.0%となっています。

男女別にみると、「被害の経験がある」では男性が2.0%、女性は14.2%と、男性より女性が12.2ポイント高くなっています。



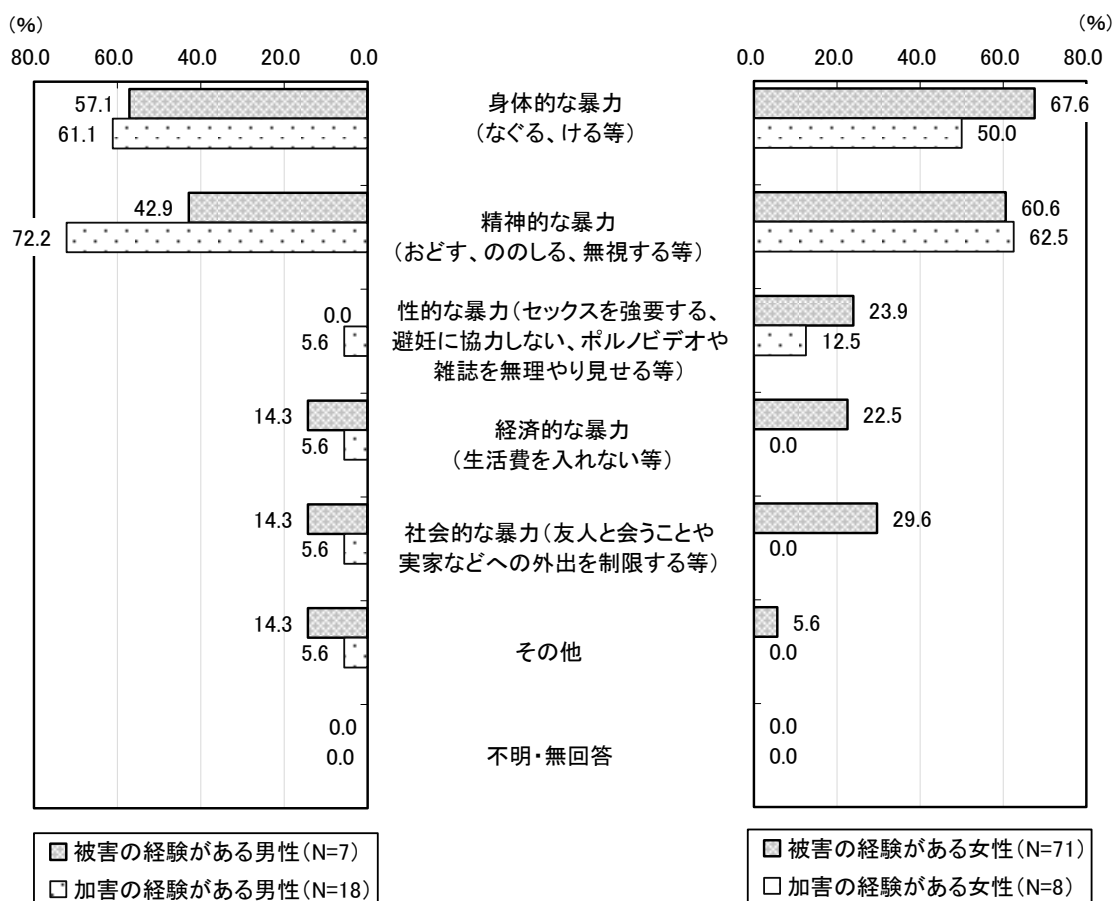
<問 28 については、問 27 で「1. 被害の経験がある」「2. 加害の経験がある」と答えた方におたずねします>

問 28 その暴力はどのようなものですか。(複数回答)

男性、女性ともに被害内容は「身体的な暴力（なぐる、ける等）」が最も高い

暴力の内容について男女別被害・加害の経験別にみると、被害の経験がある男性では「身体的な暴力（なぐる、ける等）」が 57.1%と最も高く、加害の経験がある男性では「精神的な暴力（おどす、ののしる、無視する等）」が 72.2%と最も高くなっています。被害の経験がある女性では「身体的な暴力（なぐる、ける等）」が 67.6%と最も高く、加害の経験がある女性では「精神的な暴力（おどす、ののしる、無視する等）」が 62.5%と最も高くなっています。

また女性では「性的な暴力（セックスを強要する、避妊に協力しない、ポルノビデオや雑誌を無理やり見せる等）」「経済的な暴力（生活費を入れない等）」「社会的な暴力（友人と会うことや実家などへの外出を制限する等）」がそれぞれ2割以上と高くなっています。



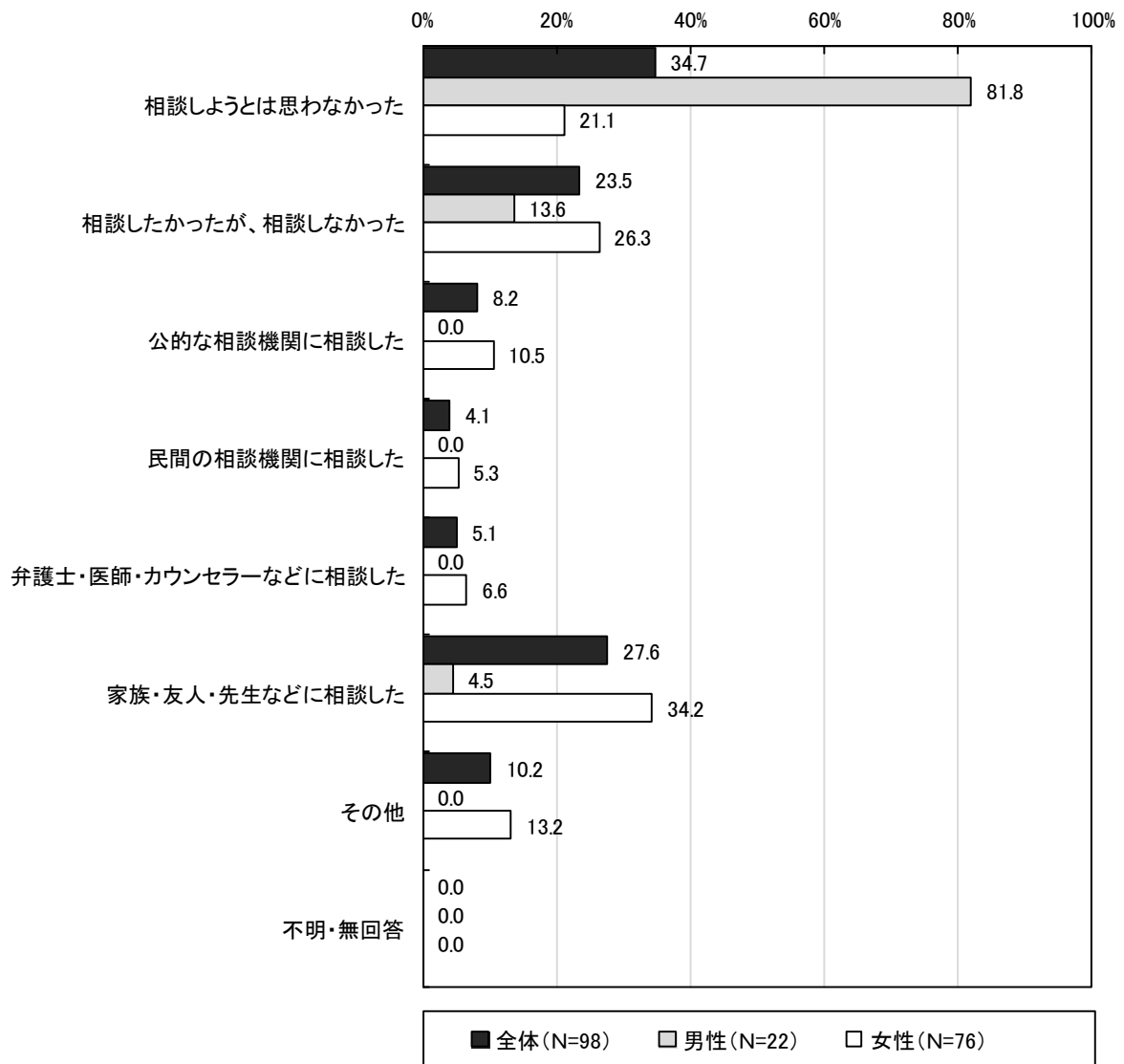
<問 29 については、問 27 で「1. 被害の経験がある」「2. 加害の経験がある」と答えた方におたずねします>

問 29 あなたは DV を経験した時、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(複数回答)

男性は「相談しようとは思わなかった」(81.8%)
女性は「家族・友人・先生などに相談した」(34.2%)

相談の有無についてみると、全体では「相談しようとは思わなかった」が 34.7%と最も高く、次いで「家族・友人・先生などに相談した」が 27.6%となっています。

男女別にみると、男性では「相談しようとは思わなかった」が 81.8%と最も高く、女性では「家族・友人・先生などに相談した」が 34.2%と最も高くなっています。



問 30 あなたは、DVについて相談できる窓口があることを知っていますか。(単数回答)

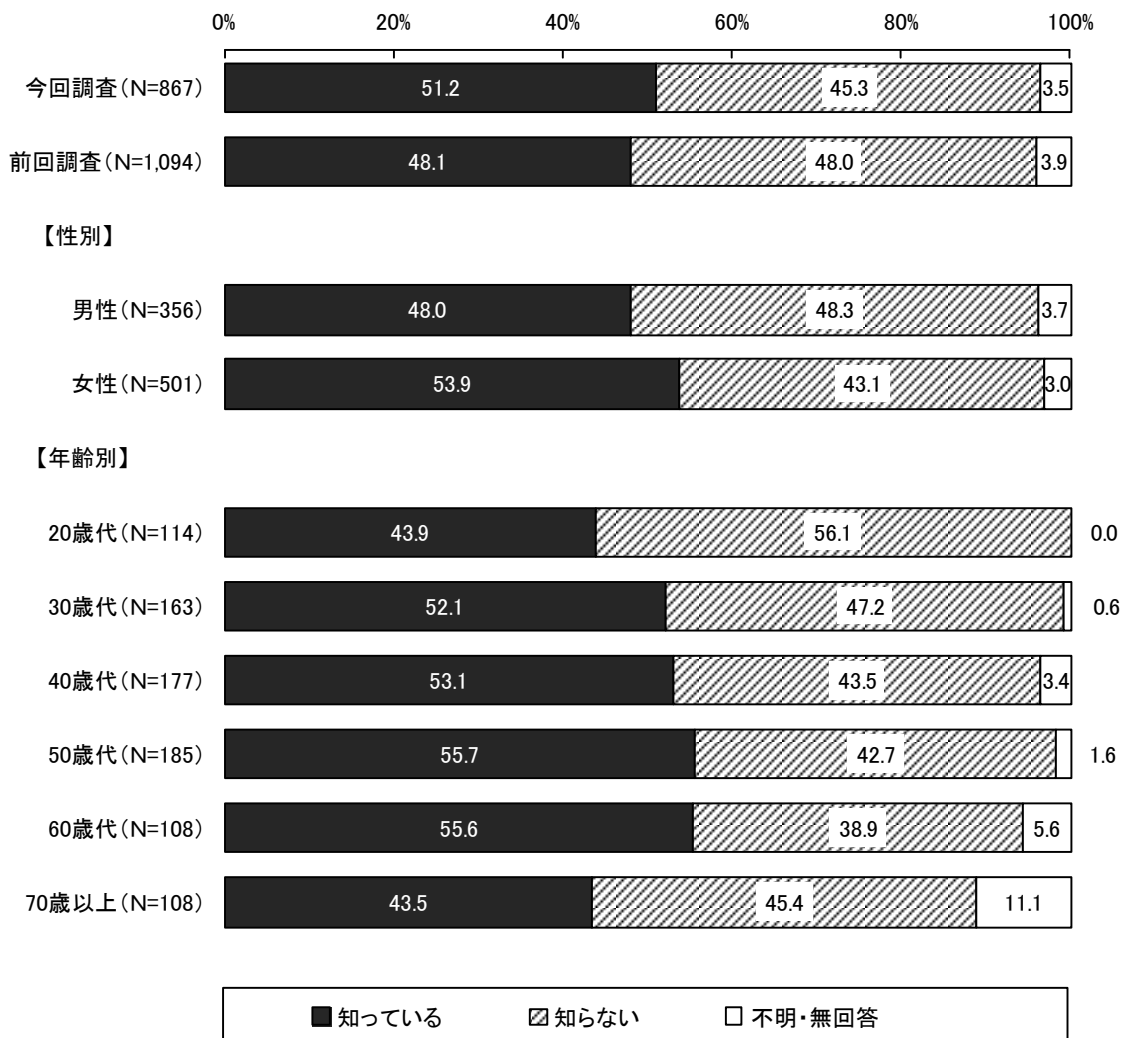
「知っている」(51.2%) と 「知らない」(45.3%) はほぼ同じ割合

DVの相談窓口の周知についてみると、全体では「知っている」が51.2%、「知らない」が45.3%と、ほぼ同じ割合となっています。

前回調査と比較すると、「知っている」が、今回調査で割合が高くなっています。

男女別にみると、男性では「知らない」が48.3%、女性では「知っている」が53.9%と最も高くなっていますが、どちらもほぼ同じ割合となっています。

年齢別にみると、30歳代から60歳代では「知っている」が「知らない」より高く、20歳代、70歳以上では「知らない」が「知っている」より高くなっています。



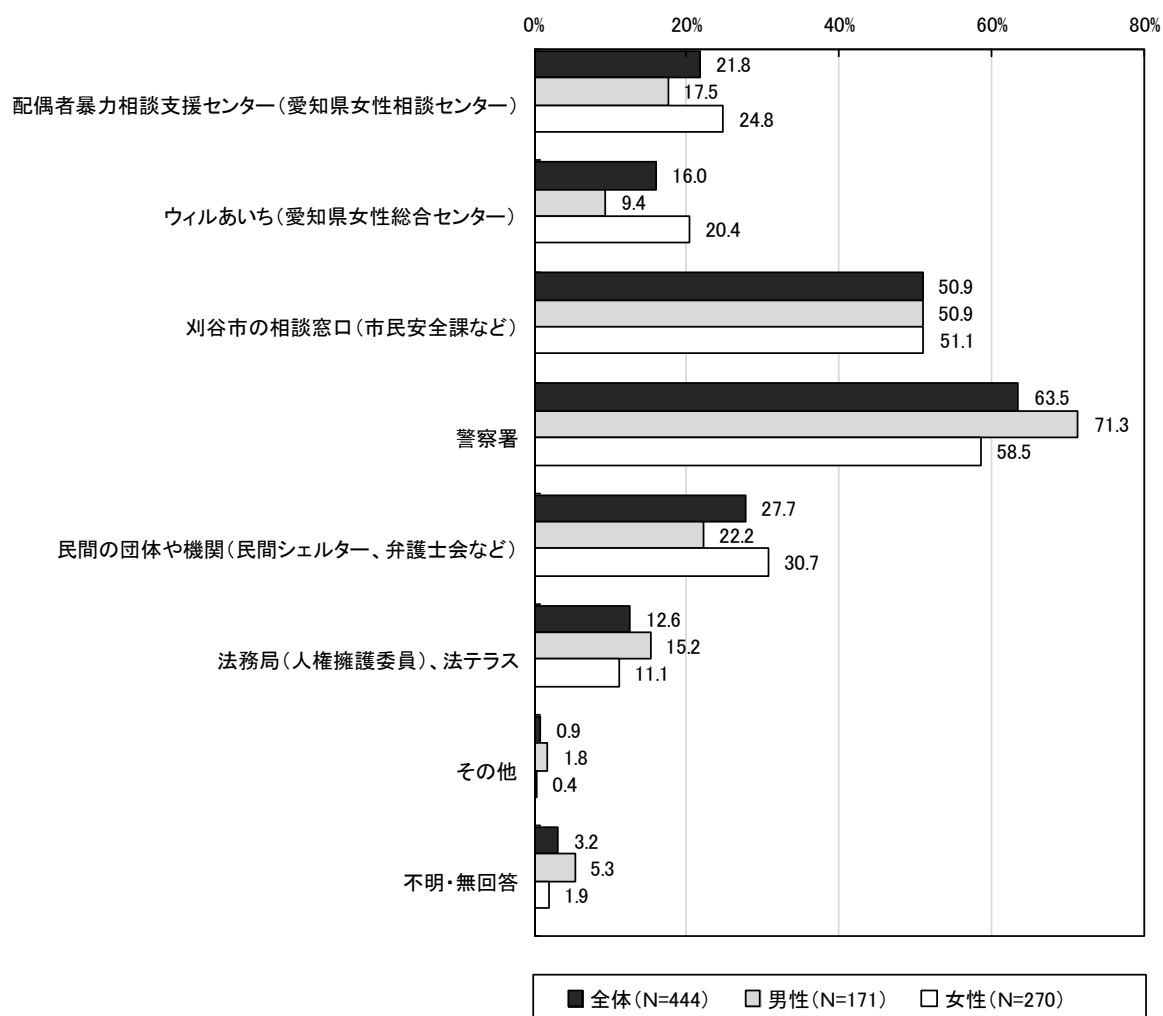
<問 31 については、問 30 で「1. 知っている」と答えた方におたずねします>

問 31 相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。(複数回答)

窓口の認知度は「警察署」(63.5%)が最も高い

相談できる窓口で知っているものについてみると、全体では「警察署」が 63.5%と最も高く、次いで「刈谷市の相談窓口(市民安全課など)」が 50.9%となっています。

男女別にみると全体同様、男性、女性ともに「警察署」が最も高く、次いで「刈谷市の相談窓口(市民安全課など)」となっています。



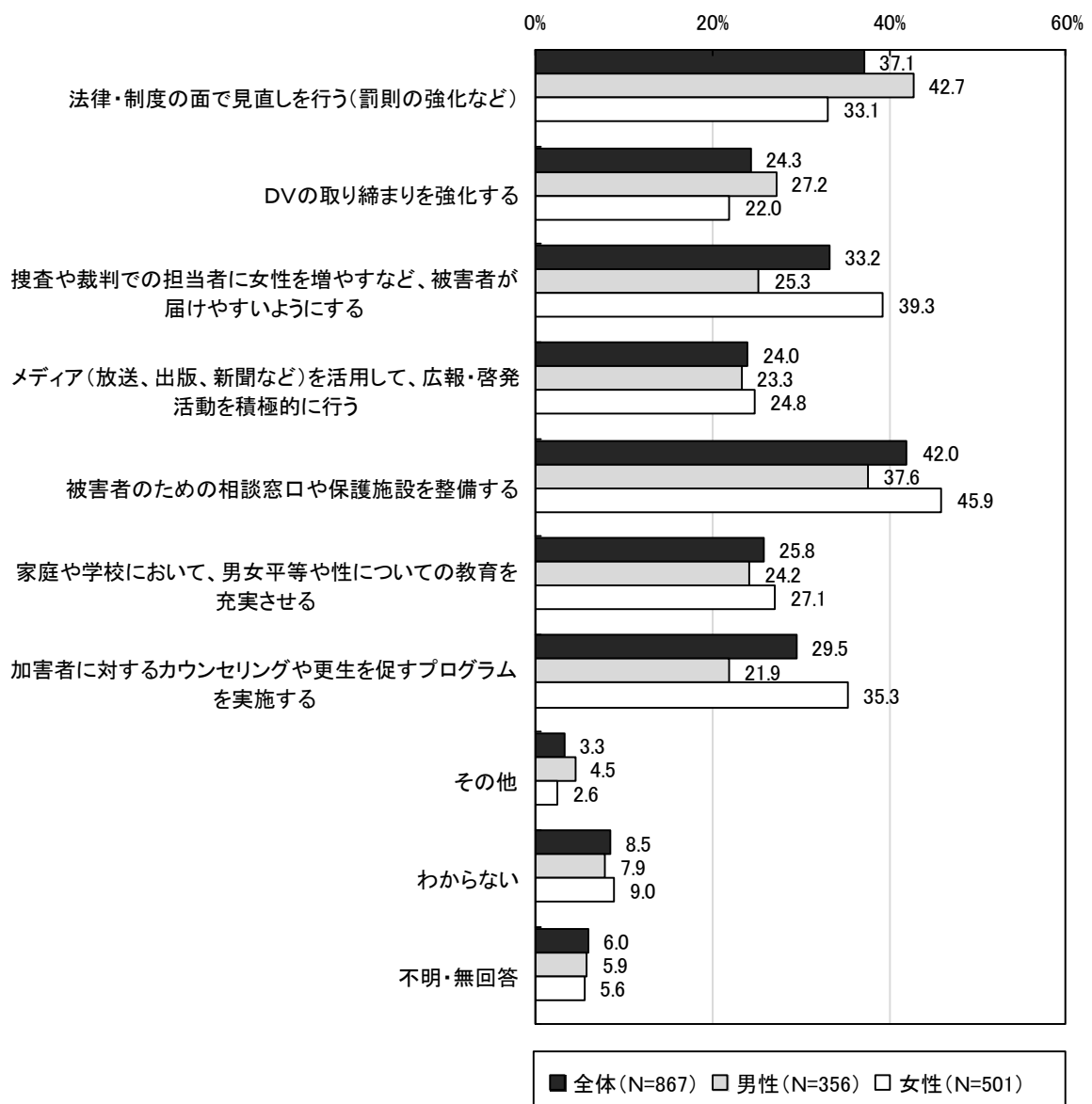
その他回答意見	件数
窓口があることは知っている	3

問 32 あなたは、DVを防止するために何が重要だと思いますか。(複数回答)

男性は「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」(42.7%)
女性は「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」(45.9%)

DVの防止策についてみると、全体では「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が42.0%と最も高く、次いで「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」が37.1%、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」が33.2%となっています。

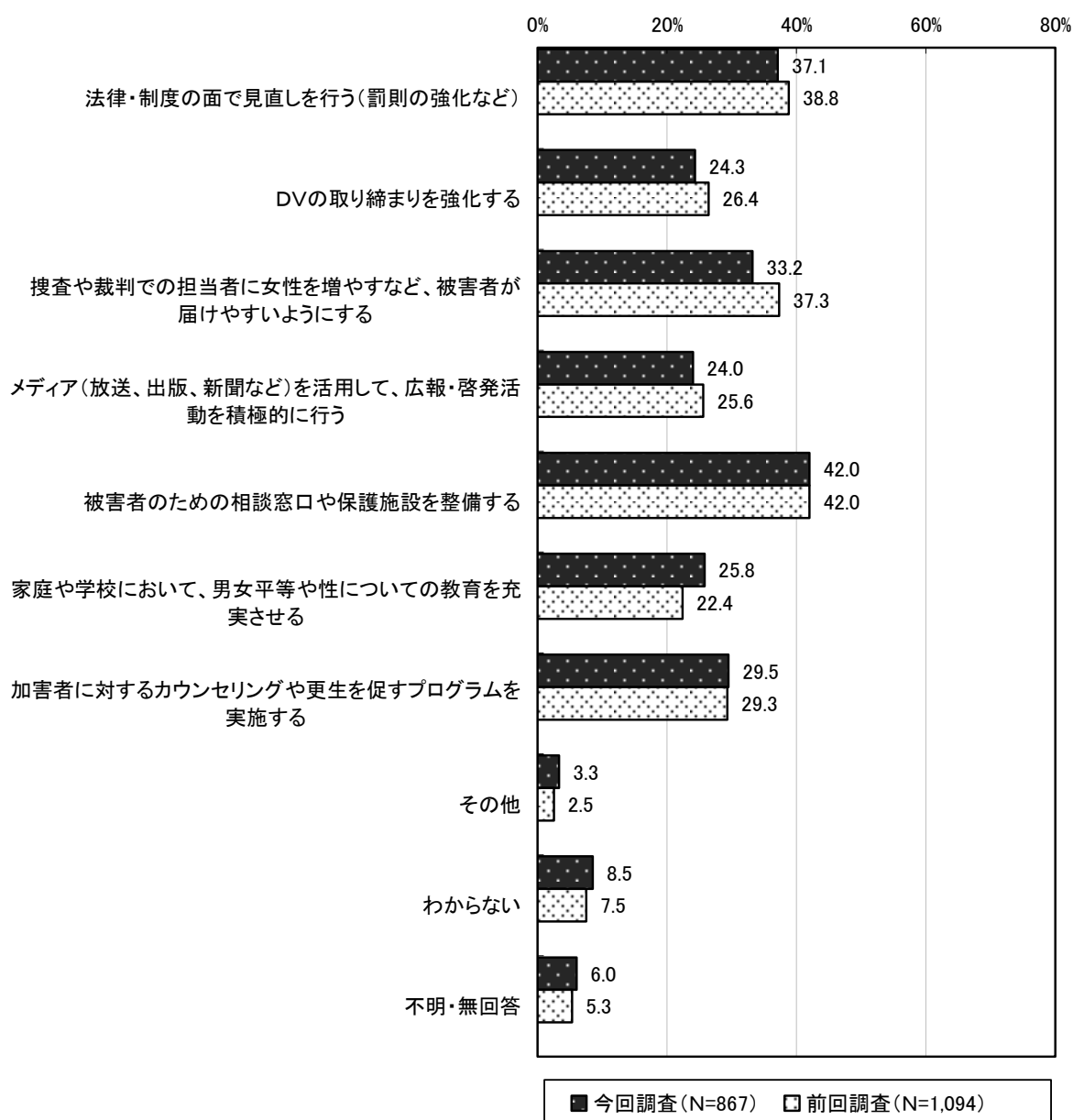
男女別にみると、男性では「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」が42.7%、女性では「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が45.9%と最も高くなっています。



その他回答意見	件数
人間教育や家庭環境の充実	7
DV対策案や法律で守ること	4
地域内でのつながり	4
なぜDVが生じてしまうのかなどの、心理的なプロセスを明らかにし、その兆候が見られた時に対処できるようにする	3
相談した時、警察には、もっと親身に親切に接してほしいし、確実に助けてほしい	3

前回調査との比較

前回調査と比較すると、「家庭や学校において、男女平等や性についての教育を充実させる」が、今回調査で割合が高くなっています。



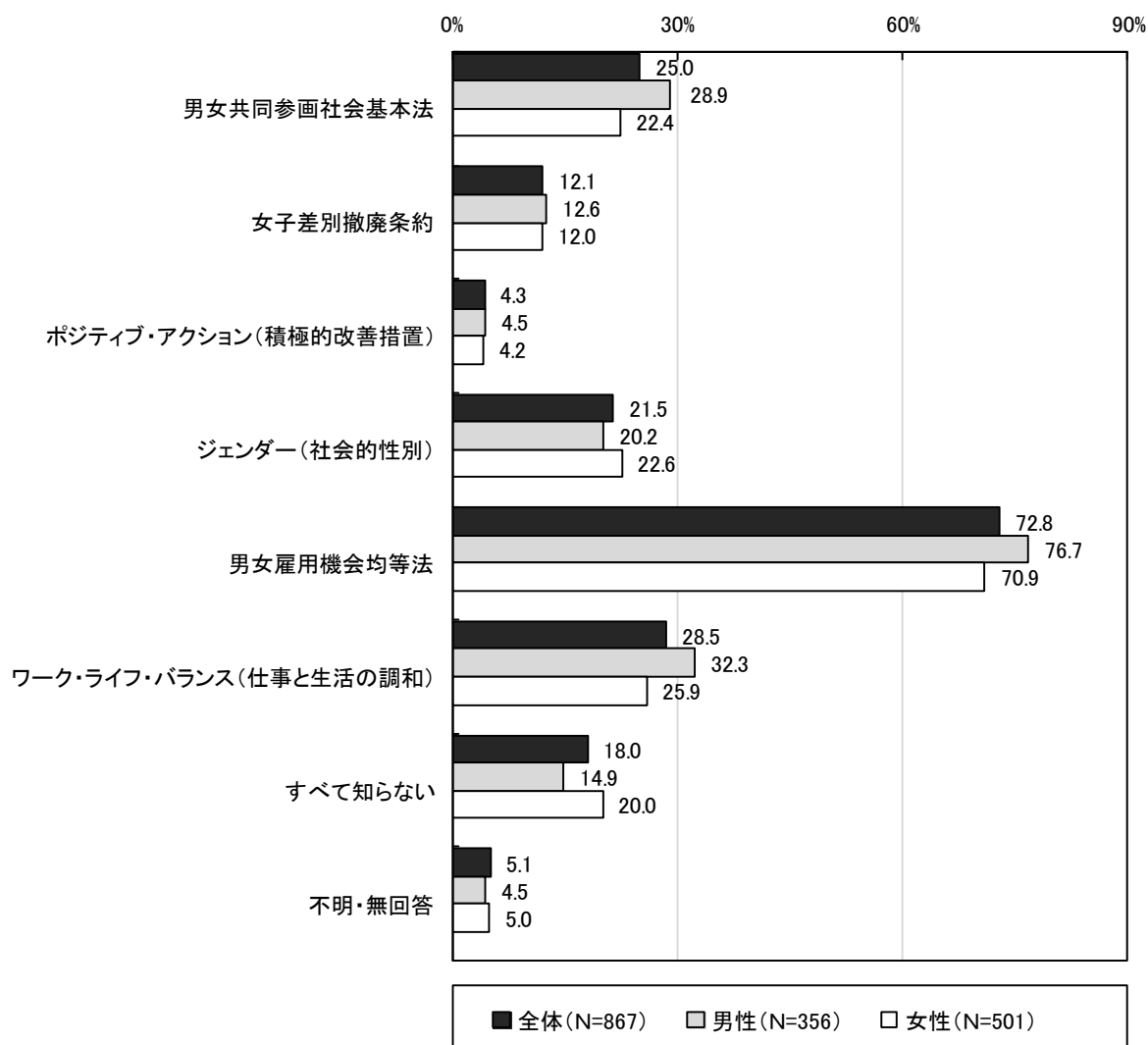
5. 男女共同参画全般について

問 33 あなたは、次にあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。(複数回答)

認知度は「男女雇用機会均等法」(72.8%)が最も高い

男女共同参画社会に関する言葉の認知度についてみると、全体では「男女雇用機会均等法」が72.8%と最も高くなっています。次いで「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」が28.5%、「男女共同参画社会基本法」が25.0%となっています。

男女別にみると、全体同様、男性、女性ともに「男女雇用機会均等法」が最も高くなっています。



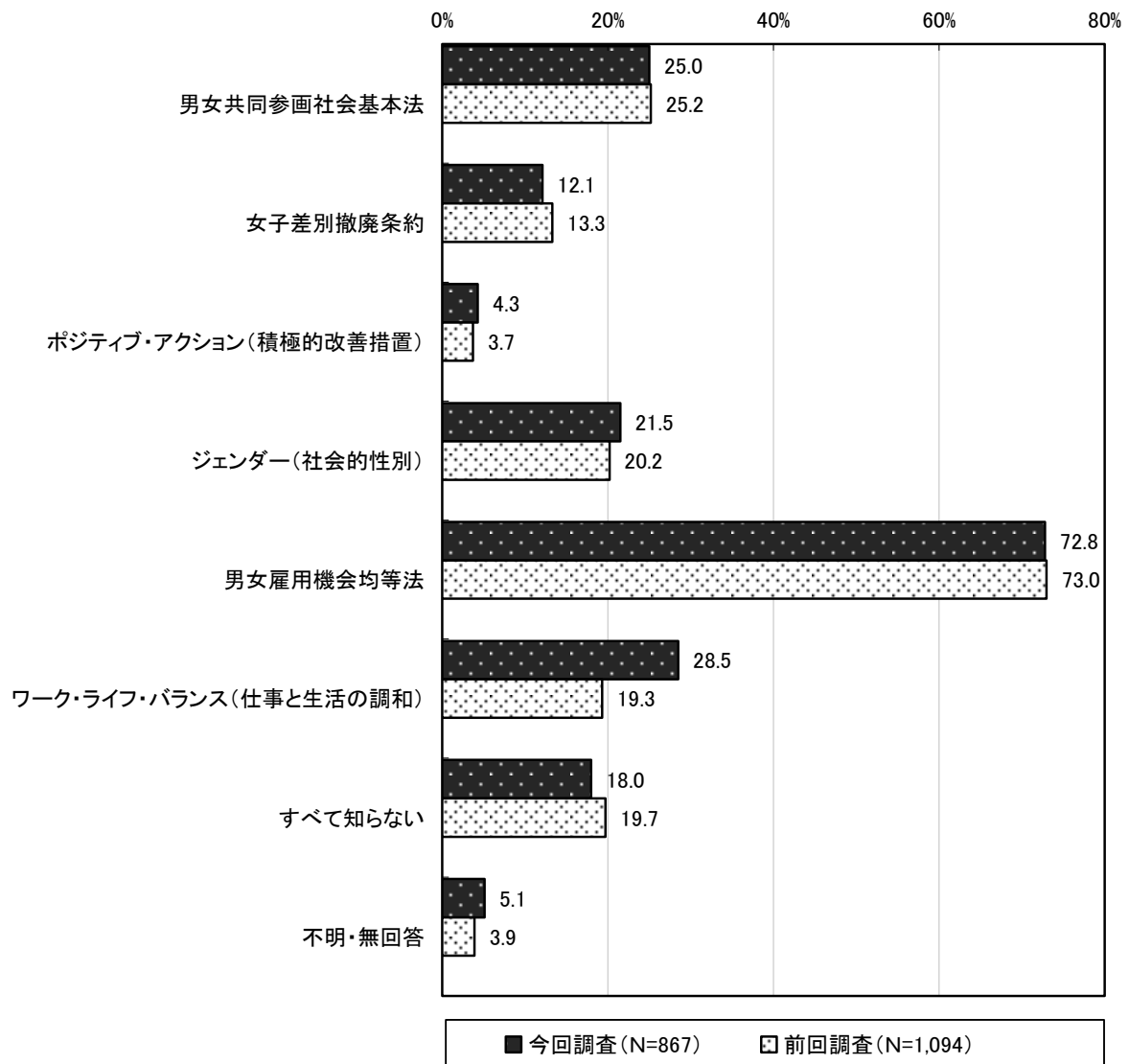
年齢別にみると、すべての年代において「男女雇用機会均等法」が最も高くなっています。また、20歳代では「男女共同参画社会基本法」が50.0%、「ジェンダー（社会的性別）」が45.6%、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が43.0%と高くなっています。

	男女共同参画社会基本法	女子差別撤廃条約	ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	ジェンダー（社会的性別）	男女雇用機会均等法	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	すべて知らない	不明・無回答
20歳代 (N=114)	50.0	22.8	4.4	45.6	82.5	43.0	8.8	2.6
30歳代 (N=163)	13.5	14.7	4.3	27.0	76.1	38.0	16.6	1.8
40歳代 (N=177)	18.1	7.3	5.1	22.0	77.4	31.1	15.3	2.8
50歳代 (N=185)	27.0	6.5	5.9	18.9	80.0	26.5	13.0	4.9
60歳代 (N=108)	25.0	12.0	0.9	5.6	60.2	13.9	28.7	9.3
70歳以上 (N=108)	24.1	13.9	3.7	6.5	52.8	12.0	33.3	10.2

単位：%

前回調査との比較

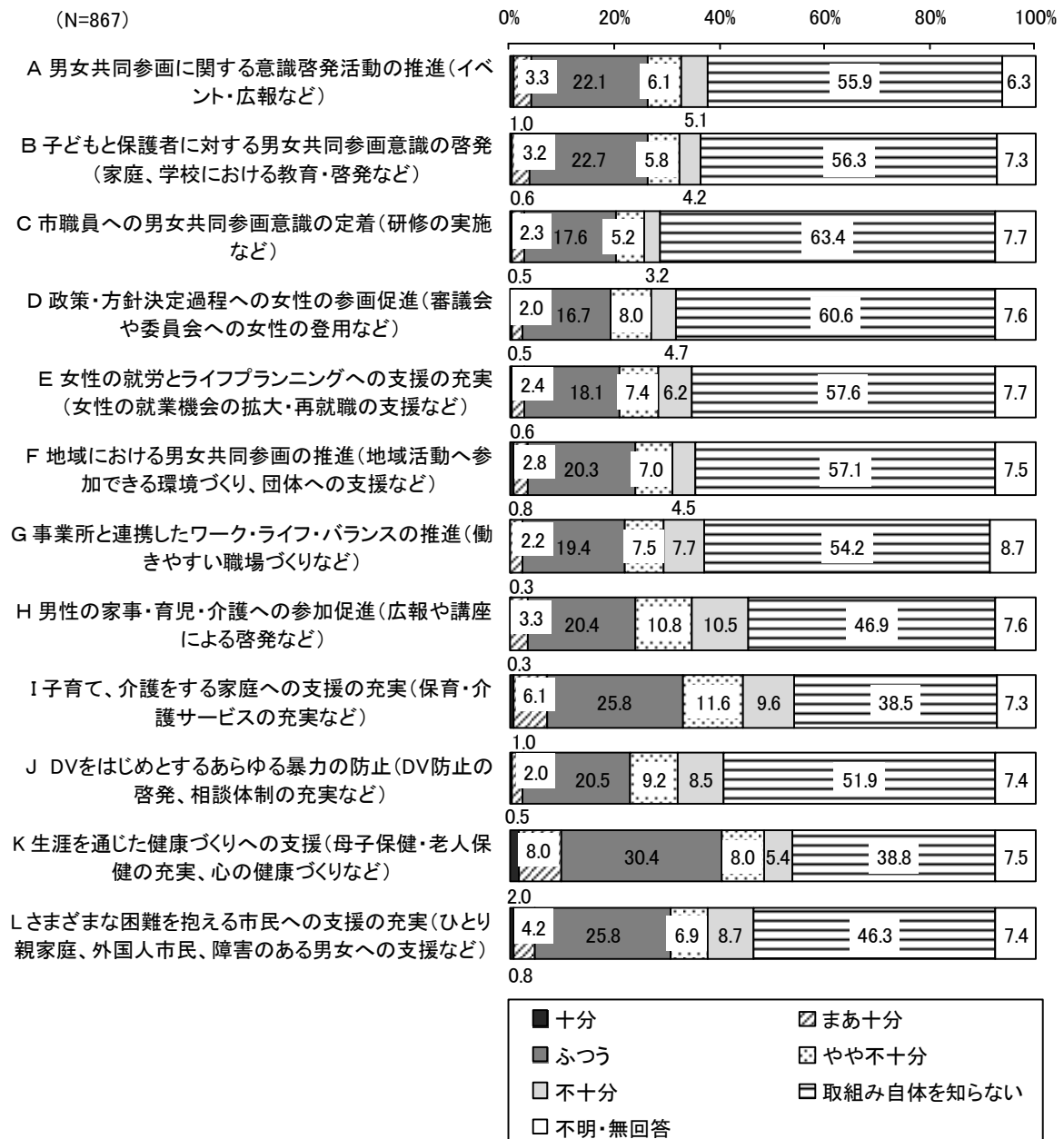
前回調査と比較すると、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」「ジェンダー（社会的性別）」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が、今回調査で割合が高くなっています。



問 34 あなたは、次のような刈谷市の男女共同参画に関する取組みについてどのように感じていますか。(単数回答)

どの項目においても「取組み自体を知らない」が最も高い

刈谷市の男女共同参画の取組みに対しどのように感じているかについてみると、すべての項目において「取組み自体を知らない」が最も高くなっています。次いで、すべての項目において「ふつう」が高くなっています。

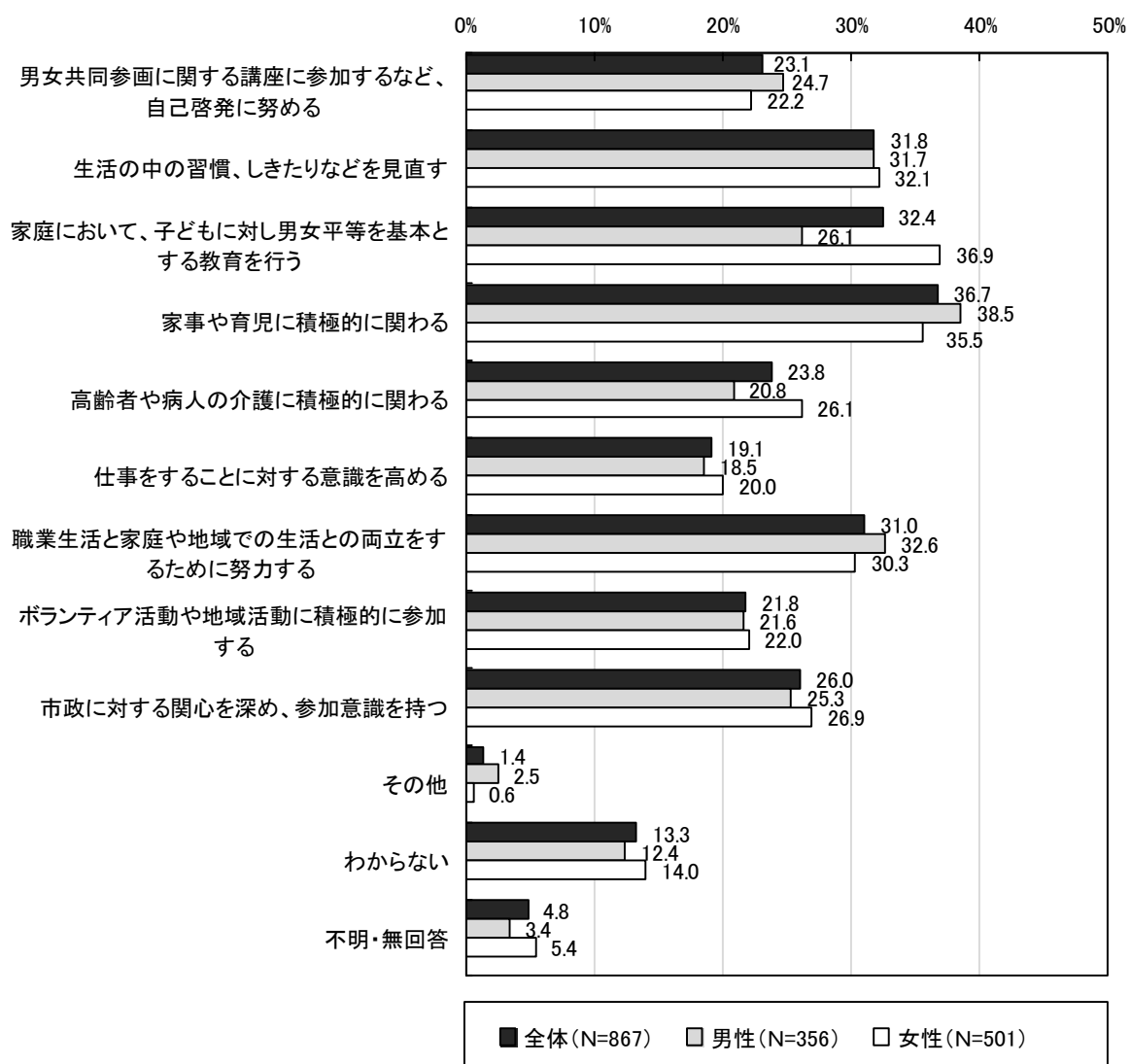


問 35 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市民として何をすべきだと思いますか。
(複数回答)

男性は「家事や育児に積極的に関わる」(38.5%)
女性は「家庭において、子どもに対し男女平等を基本とする教育を行う」(36.9%)

男女共同参画社会を実現するために、市民として何をすべきかについてみると、「家事や育児に積極的に関わる」が36.7%と最も高く、次いで「家庭において、子どもに対し男女平等を基本とする教育を行う」が32.4%となっています。

男女別にみると、男性では「家事や育児に積極的に関わる」が最も高くなっていますが、女性では「家庭において、子どもに対し男女平等を基本とする教育を行う」が最も高くなっています。



その他回答意見	件数
市民だより等でもっとPRする	5
学校教育の充実	2

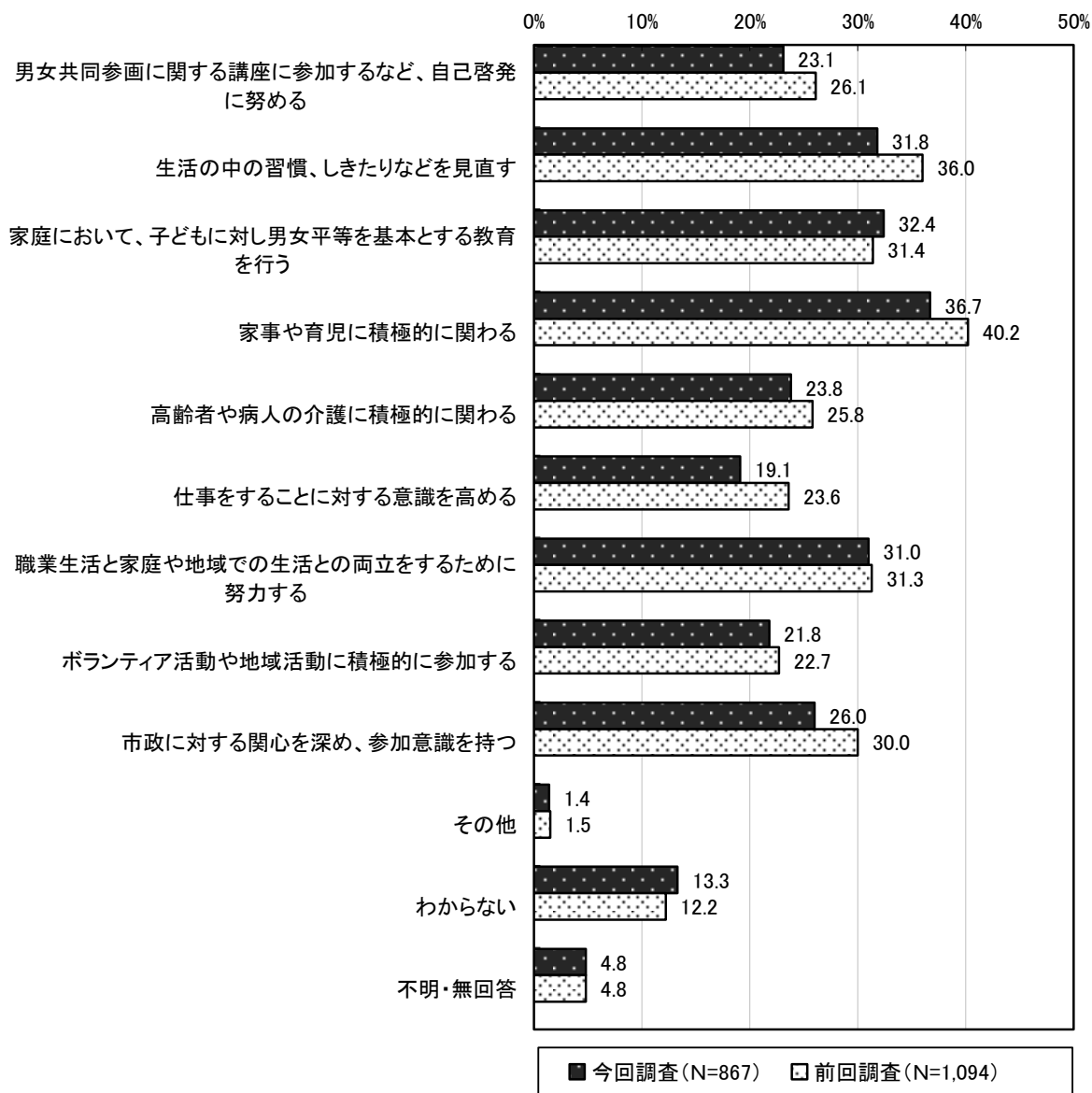
年齢別にみると、20歳代から50歳代では「家事や育児に積極的に関わる」が最も高くなっています。60歳代は「生活の中の習慣、しきたりなどを見直す」、70歳以上の年代では「男女共同参画に関する講座に参加するなど、自己啓発に努める」「ボランティア活動や地域活動に積極的に参加する」が最も高くなっています。

	自己啓発に努める	生活の中の習慣、しきたりなどを見直す	家庭において、子どもに対し男女平等を基本とする教育を行う	家事や育児に積極的に関わる	高齢者や病人の介護に積極的に関わる	仕事をすることに對する意識を高める	職業生活と家庭や地域での生活との両立を するために努力する	ボランティア活動や地域活動に積極的に参加する	市政に對する関心を深め、参加意識を持つ	その他	わからない	不明・無回答
20歳代 (N=114)	17.5	35.1	36.8	50.0	23.7	21.1	37.7	19.3	26.3	2.6	10.5	1.8
30歳代 (N=163)	22.1	24.5	39.3	41.1	16.0	16.0	36.8	13.5	25.2	1.2	16.6	0.6
40歳代 (N=177)	19.8	32.2	38.4	44.6	23.7	20.9	29.9	18.1	24.3	1.1	10.2	4.5
50歳代 (N=185)	23.8	33.5	27.0	36.2	22.7	20.0	33.5	25.4	28.6	1.6	11.4	2.7
60歳代 (N=108)	25.0	35.2	22.2	20.4	28.7	19.4	22.2	25.0	23.1	0.9	14.8	8.3
70歳以上 (N=108)	34.3	33.3	26.9	20.4	31.5	18.5	22.2	34.3	28.7	0.9	19.4	13.0

単位：%

前回調査との比較

前回調査と比較すると、「家庭において、子どもに対し男女平等を基本とする教育を行う」が、今回調査で割合が高くなっています。

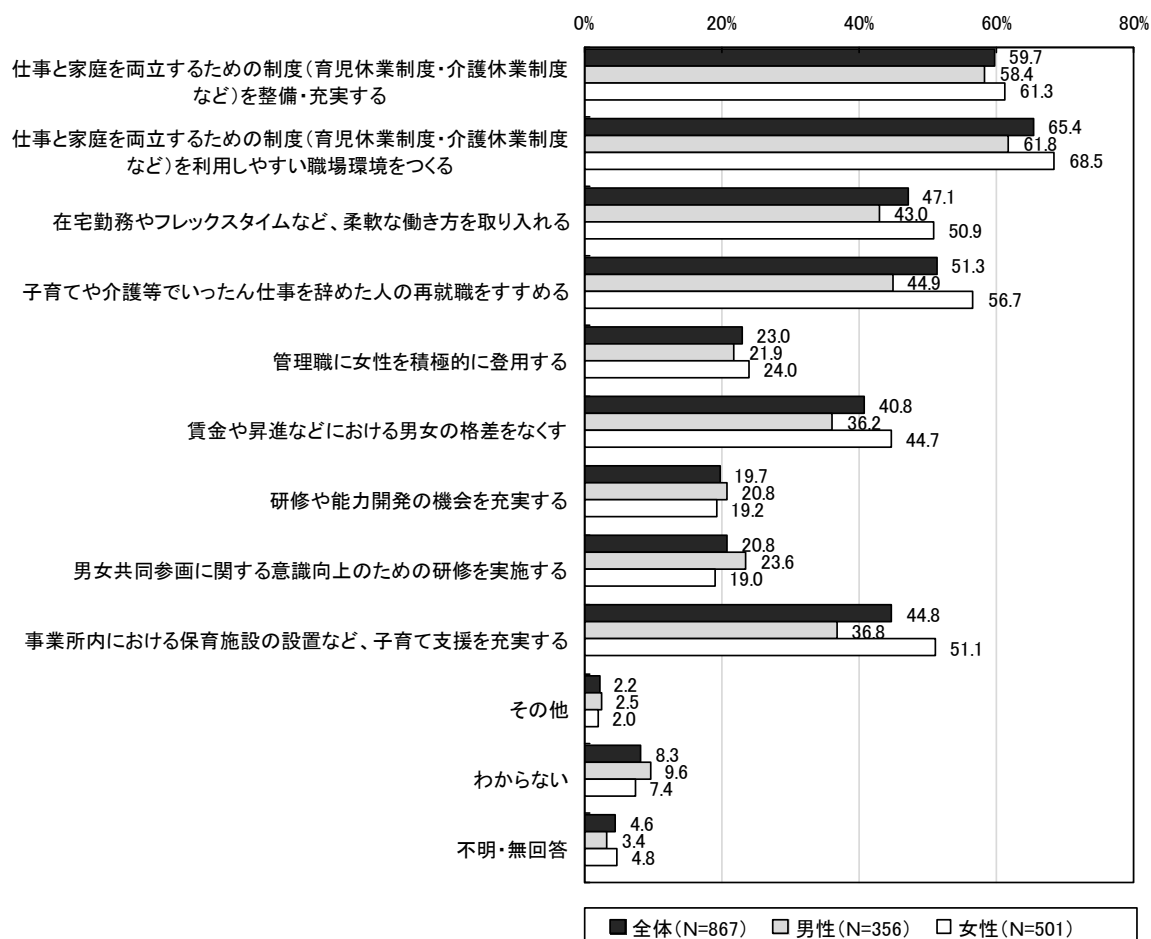


問 36 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)

男性、女性ともに「仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる」が最も高い

男女共同参画社会を実現するために、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきかについてみると、「仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる」が65.4%と最も高く、次いで「仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を整備・充実する」が59.7%、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職をすすめる」が51.3%となっています。

男女別にみると、全体同様、男性、女性ともに「仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる」が最も高くなっています。



その他回答意見	件数
社員のワーク・ライフ・バランスに積極的に関わる（有給休暇をしっかりと使わせ、時間をつくらせる など）	6
各種制度の利用率の男女差が少なくなるようにすべき	3
妊婦差別	2

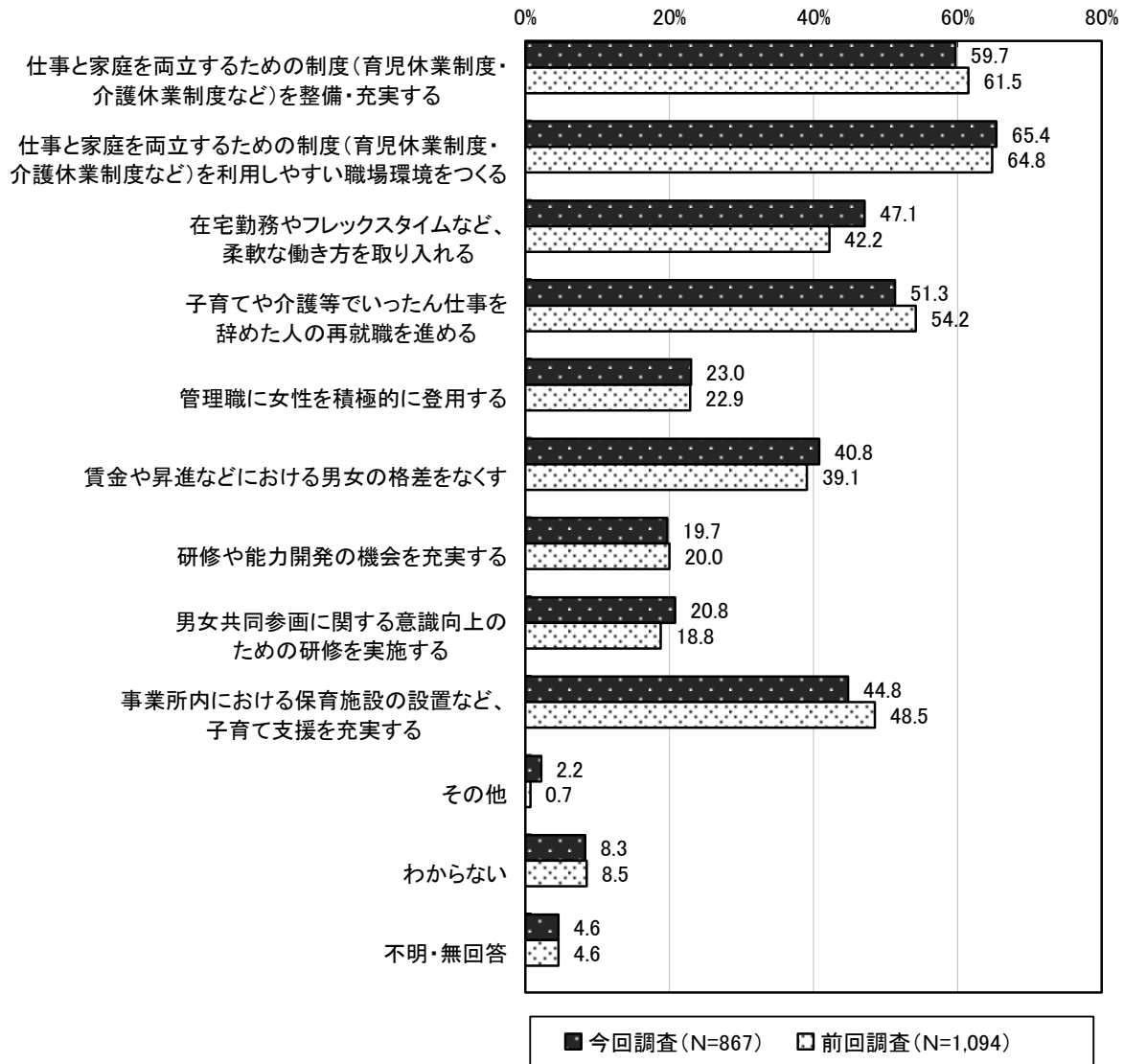
年齢別にみると、すべての年代で「仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる」が最も高くなっています。

	仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を整備・充実する	仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる	在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる	子育てや介護等で行ったん仕事を辞めた人の再就職をすすめる	管理職に女性を積極的に登用する	賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす	研修や能力開発の機会を充実する	男女共同参画に関する意識向上のための研修を実施する	事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する	その他	わからない	不明・無回答
20歳代 (N=114)	69.3	78.1	57.0	53.5	25.4	40.4	19.3	19.3	50.0	1.8	4.4	1.8
30歳代 (N=163)	61.3	71.2	56.4	52.8	21.5	34.4	15.3	14.1	49.7	2.5	7.4	1.8
40歳代 (N=177)	63.3	66.7	48.6	52.5	23.7	42.9	21.5	21.5	43.5	4.0	5.1	3.4
50歳代 (N=185)	60.5	64.3	45.4	55.1	26.5	49.7	20.5	25.9	43.8	1.6	6.5	2.2
60歳代 (N=108)	49.1	59.3	40.7	47.2	14.8	40.7	17.6	16.7	38.9	0.0	13.0	7.4
70歳以上 (N=108)	50.9	50.9	30.6	44.4	23.1	33.3	24.1	25.9	40.7	2.8	18.5	12.0

単位：%

前回調査との比較

前回調査と比較すると、「仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる」「在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる」「管理職に女性を積極的に登用する」「賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす」「男女共同参画に関する意識向上のための研修を実施する」が、今回調査で割合が高くなっています。

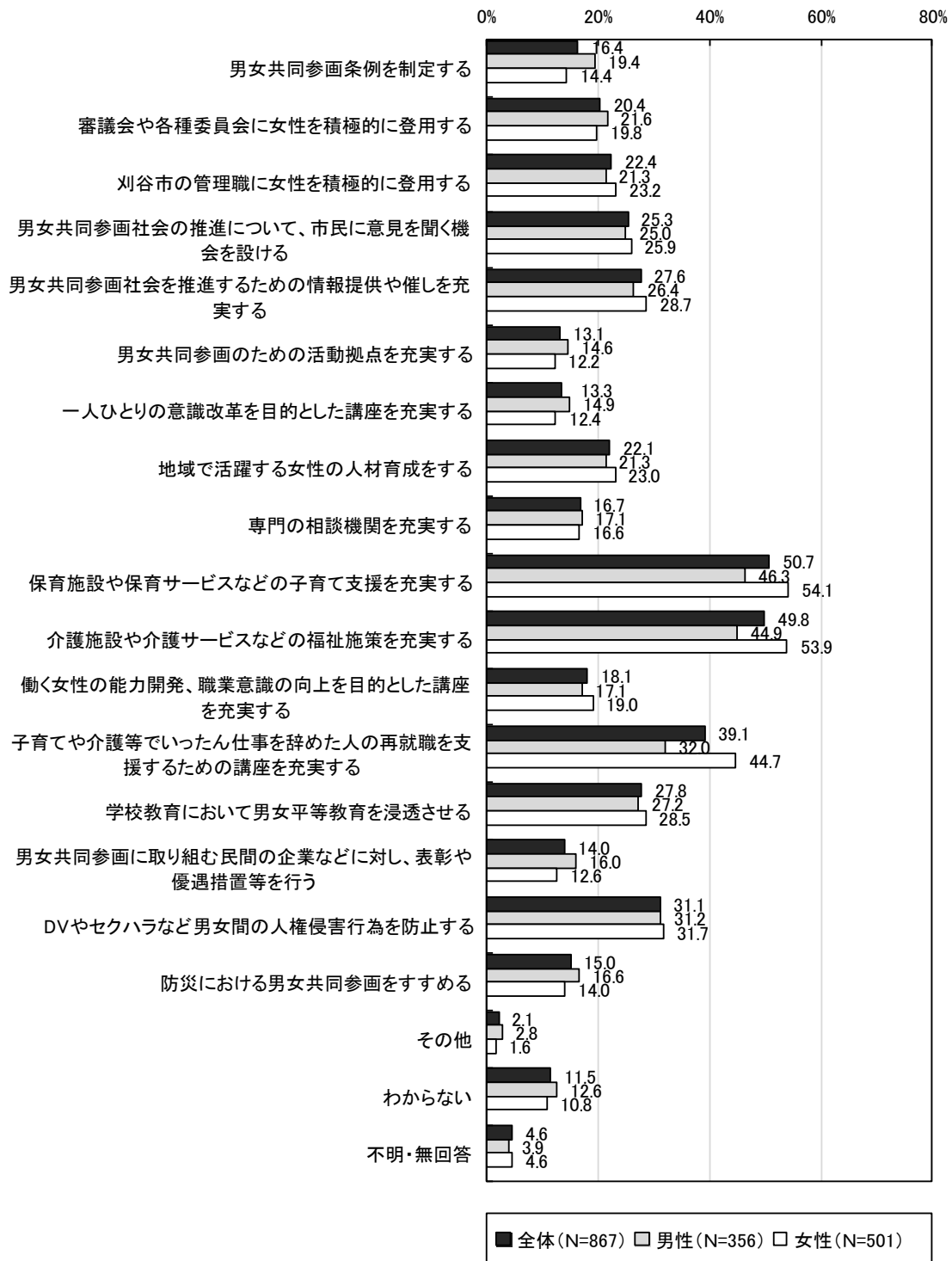


問 37 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、刈谷市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)

**男性、女性ともに
「保育施設や保育サービスなどの子育て支援を充実する」が最も高い**

男女共同参画社会を実現するために、刈谷市は今後どのようなことに力を入れていくべきかについてみると、「保育施設や保育サービスなどの子育て支援を充実する」が 50.7%と最も高く、次いで「介護施設や介護サービスなどの福祉施策を充実する」が 49.8%、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援するための講座を充実する」が 39.1%となっています。

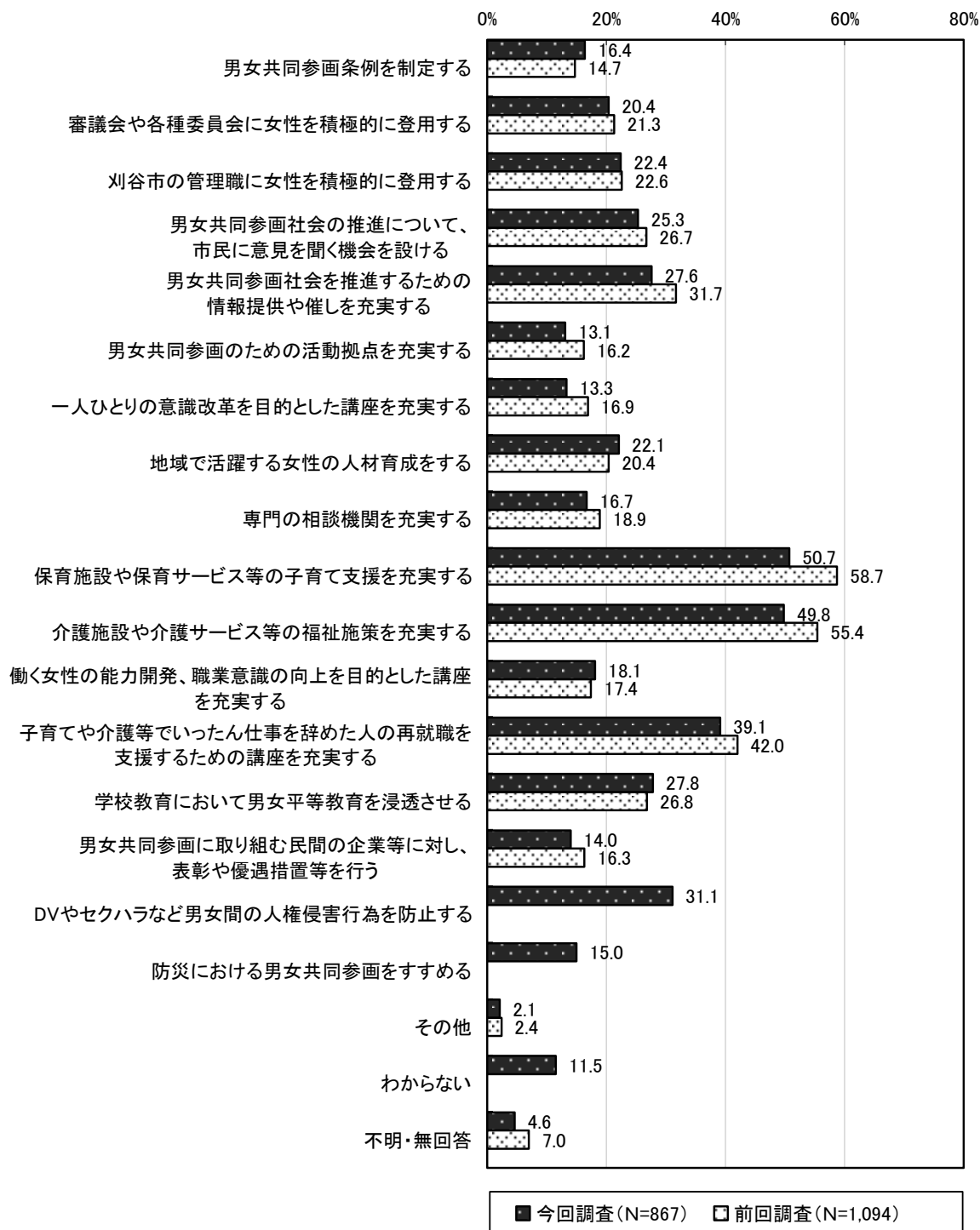
男女別にみると、全体同様、男性、女性ともに「保育施設や保育サービスなどの子育て支援を充実する」が最も高くなっています。



その他回答意見	件数
刈谷市が行っても、国が変わらなければ同じ	5
雇用を増やす	4
男女共同参画社会というものの認知度をあげる	3
子育ての時から日本の文化社会が問題	3

前回調査との比較

前回調査と比較すると、「男女共同参画条例を制定する」「地域で活躍する女性の人材育成をする」「働く女性の能力開発、職業意識の向上を目的とした講座を充実する」「学校教育において男女平等教育を浸透させる」が、今回調査で割合が高くなっています。また、今回調査の新規選択肢である「DVやセクハラなど男女間の人権侵害行為を防止する」の割合も高くなっています。



※前回調査は、「男女共同参画のための活動拠点を充実する」が「女性のための施設を整備する」、「専門の相談機関を充実する」が「女性のための専門の相談機関を充実する」という選択肢になっている

※前回調査には、「DV やセクハラなど男女間の人権侵害行為を防止する」「防災における男女共同参画をすすめる」「わからない」という選択肢はなかった

年齢別にみると、20歳代、30歳代では「保育施設や保育サービスなどの子育て支援を充実する」が、40歳代以上では「介護施設や介護サービスなどの福祉施策を充実する」が最も高くなっています。

	男女共同参画条例を制定する	審議会や各種委員会に女性を積極的に登用する	刈谷市の管理職に女性を積極的に登用する	男女共同参画社会の推進について、市民に意見を聞く機会を設ける	男女共同参画社会を推進するための情報提供や催しを充実する	男女共同参画のための活動拠点を充実する	一人ひとりの意識改革を目的とした講座を充実する	地域で活躍する女性の人材育成をする	専門の相談機関を充実する	保育施設や保育サービスなどの子育て支援を充実する
20歳代 (N=114)	13.2	19.3	25.4	21.1	26.3	11.4	11.4	23.7	14.9	63.2
30歳代 (N=163)	12.9	16.0	23.9	25.2	22.7	9.2	12.3	19.0	19.0	54.6
40歳代 (N=177)	18.1	16.9	16.9	23.7	24.9	9.0	12.4	23.7	16.4	49.7
50歳代 (N=185)	20.0	23.8	24.3	28.6	33.0	13.5	16.2	22.2	17.8	53.5
60歳代 (N=108)	8.3	23.1	19.4	26.9	28.7	13.9	13.0	17.6	12.0	40.7
70歳以上 (N=108)	24.1	27.8	24.1	26.9	33.3	25.9	14.8	27.8	19.4	38.9

	介護施設や介護サービスなどの福祉施策を充実する	働く女性の能力開発、職業意識の向上を目的とした講座を充実する	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援するための講座を充実する	学校教育において男女平等教育を浸透させる	男女共同参画に取り組む民間の企業などに対し、表彰や優遇措置等を行う	DVやセクハラなど男女間の人権侵害行為を防止する	防災における男女共同参画をすすめる	その他	わからない	不明・無回答
20歳代 (N=114)	38.6	22.8	43.9	33.3	20.2	43.0	14.0	2.6	6.1	1.8
30歳代 (N=163)	44.2	19.6	45.4	28.2	17.2	28.8	10.4	1.8	12.3	1.2
40歳代 (N=177)	53.1	22.6	36.2	30.5	7.3	29.4	10.2	3.4	9.6	3.4
50歳代 (N=185)	59.5	16.8	40.5	28.1	15.7	36.2	16.2	1.6	9.7	3.2
60歳代 (N=108)	49.1	6.5	30.6	22.2	11.1	25.0	16.7	0.0	15.7	7.4
70歳以上 (N=108)	49.1	17.6	37.0	23.1	13.9	25.9	26.9	1.9	19.4	12.0

単位：%

Ⅲ. 自由回答

■自由回答の概要

年齢	性別	自由回答意見
20歳～24歳	男性	私は以前金融機関に勤めておりました。この刈谷市に越してきたのを機に仕事を一度辞めここ1年ほどは主夫をしております。同時に就職活動も進めてきましたが、面接において男が主夫をやっていることにととても否定的な意見を多くいただきます。男女共同参画についての議論ではどうしても女性の社会進出ばかりが取り上げられていますが、男性が一度家庭を守るという場合も大いにあるため、その後の社会復帰についても、さらなる取組みが必要なように感じています
20歳～24歳	男性	刈谷が変わっていく事を期待します
20歳～24歳	男性	“女性の積極的登用”は、できないから登用させてやるという差別の意識が見える。フェミニストの言う男女平等ではなく本当の意味での平等を目指すのであれば、登用したいと思える人材形成を行うべきではないかと思った
20歳～24歳	男性	長い時間の中で根付いた、日本のしきたり、といった側面が強いため、長期に渡るとは思いますが変わるまで協力していきます
20歳～24歳	女性	行政や企業で男女共同参画を進め、女性を優遇するのは、悪いことではないと思うのですが、数ばかり気にして、登用、雇用するのではなく、しっかりと実力を見てほしいと思います。その分野のもともとの男女比に対して過剰に女性を増やしても意味が無いと思います
20歳～24歳	女性	こういうアンケートをすることで、男女共同参画に関して考えることもでき、家族と話す機会ができるので、このアンケートはすごく良いと思います。なかなか市の活動について知る機会もないので、こういうことに力を入れてくれているのか、と知ることができて良かった。「男女平等」を完全に実現するのはなかなか難しいと思うけど、個人、地域、市、県などみんなが協力し合って実現できる社会を望んでいます。男性も女性も高齢者も子どもも障害のある人もみんなが平等で笑って暮らせる社会が来ることを待っています
20歳～24歳	女性	現在、刈谷市がどのような状況なのか？どのようなことをしているのか、私は全く知りません。個人が考える必要性も充分ありますが、まずは、大きな影響力を持っている、企業や行政が表立って、動いて頂ければ、こちらからもいろいろと幅が広がり、男女共同参画に参加しやすくなると思います
20歳～24歳	女性	男女共同参画とは何ですか？くわしく分かりやすく説明して下さい。例えば絵でもいいです
25歳～29歳	男性	“男女共同参画”という言葉掲げて、すべてのことにおいて男女平等を目指すのは困難であり、その必要もないと考えます。必要な事は、男女がその性別による違いを理解し、尊重することで個々の能力、男女それぞれの能力が活かされると思います。例えば、女性にとって力仕事は非効率的ですし、向いているとは思えません。逆に精密さが問われる仕事では、女性の力が大きく発揮されると思います。このように男女の能力の違いを理解し、適材適所でやっていくことが重要だと思います

年齢	性別	自由回答意見
25歳～29歳	男性	近年の女性は、仕事に対するプライドだったり、働きたいという意志が強いと思います。もちろん良い事だと思うし、会社にとっても有望な存在ならば、もっと活躍してほしいとも思います。ですが、1人の男としての意見として、男は男らしく、女は女らしくの軸はブレないでほしいなと思います。何が言いたいかと言うと、女性が活躍するのも良いですが、のめり込んでしまっただけ家事もしなくなる、婚期を逃す、という事が起こるのは良くないと思うので、男と女、男女平等と言うと良く聞こえますが、何もかもが平等であっては男も女もへったくれもないと思います。家事に関しては、男性ももっと積極的にやってみるべきだと思う。いざという時、家事ができないなんて事があつたら正直情けない。上記では女性には家庭を守って欲しいと言うような事を書いています、フォローはすべき。フォローできるように、いろいろ家事はできれば女性の方も安心していけると思っています
25歳～29歳	男性	保育施設の入居条件の見直し、市、運営の保育施設の増築、保育所の入園申し込み時に「入園するためには、子どもを他のところに預け就職してからでないといけない」と言われ、「がんばってお母さん」と言われました。「他のお母さんたちは待っていて、やっと入園申し込みしている人たちばかり」と。男女共同参画と言っているのであれば、子どもをもっと入園しやすくしていただけないでしょうか？園に預けて、安心して職をさがしてはいけないのでしょうか？就職活動中の母親でも安心して子どもを預ける事のできる刈谷市にしてください。お願いします
25歳～29歳	男性	性格や体格の違いで仕事への適性は変化する。→「男女だから」差があるのではなく「それぞれのもつ特性」によって活躍の場が変わってくる。→人それぞれが自分の持ち味を生かす。→持ち味が生きていれば自然に活躍の場に踏みこめる。→人それぞれの良さを見極めることが重要である。男女平等という言葉はきくと「女性が弱い」というイメージを抱いてしまう。→子どもたちには「男女平等」という言葉も「女だから」「男だから」という概念も教えたくない
25歳～29歳	女性	出身が他県でなじみのうすい土地のため、知らないことばかりで参考にならない回答で申し訳ないです
25歳～29歳	女性	刈谷市はとても子育て制度が充実していて助かっています。企業はトヨタ系の本社があると思いますが、仕事と家庭の両立ということに関しては、まだまだ厳しいと思います。男性の職場という観念はなかなか消えないようで、女性が家庭を持ったら働く事が難しい状況ではあります。やはり女性は出産という大きな仕事があるわけなので、そこを考えると役職につくのは厳しいとされています。なので泣く泣くあきらめました。家庭を守るために独身でないといけないとされています。やはりあとは職場環境が問題ですかね。女性が出産後に働ける職場が限られています。あともう少し企業に努力していただくと仕事と家庭の両立といった点で満足できるのではないのでしょうか

年齢	性別	自由回答意見
25歳～29歳	女性	男女共同参画という言葉自体はよく耳にしますが、どのような内容なのかどうしていくべきなのか、細かいことまでの理解ができていない人も少なくないと思います。これからの社会を担っていく人たちが理解し、意識していくためにも、もっと発信していても良いかと思います。刈谷市を良くしていくという思いが、もっと市民一人一人に伝わることが大切かと。市のため、市民のためという思いや計画や取組が実感できなければ、なかなか意識も変わっていかないのかなと感じます。市政だけの盛り上がりで終わらず、市民全体に浸透していくことが第一歩なのかなと思いました。生まれ育った刈谷市が、さらに住みやすい市になって行くことを願っています
25歳～29歳	女性	来年度、育休が終わり仕事復帰します。保育園に子どもを預ける予定ですが、希望の所に入所できるか、役所に相談した際、難しいであろうと言われました。保育園の数も少なく、第一希望の園に入所できなければ、往復1時間以上かかる所に入所しなければいけないかもしれません。そんな状況では、仕事を辞めざるを得ません。女性が働くうえで、市町村の子育て支援は、欠かせないものと思います。トヨタ関連会社も多く、若い世帯も多い刈谷市ですので、ぜひ、そのあたりの事を一度、見直していただきたい。保育施設に入れず、泣く泣く、仕事をあきらめている女性は皆さん役所の方が思われているより、実際は多くいるのではないのでしょうか…。どうかよろしく願いいたします。(男性の育児、介護への参加への意識の低さ、抵抗があったり、女性は仕事をせず家庭を守れ！という考えをお持ちなのは、年配に方が多いように感じます。市が講座等をひらいても、そういう方は意識が低いので、参加されることがないと思いますので、それ以外の手段で何か活動をしてはどうかと思いました)
25歳～29歳	女性	働きやすい、育児中の女性が定時で帰りやすい職場などあるが定時で帰るのが普通のはずなのに「女性だから帰る」のはおかしい。制度づくり、個人の意識改革の前に社会の雰囲気、制度の改革をすべき。比較するのは「男性」と「女性」ではなく「日本」と「他国」
25歳～29歳	女性	既婚者ではないので記述式があっても良かったのではないのでしょうか。似たような選択肢で解答(言葉の違い)に迷った。独身、既婚と分別解答があってもよいのでは！
30歳～34歳	男性	このようなアンケートは必要だと思います。ですが、最終的に決めるのは国ですよね？政治が安定していない状態で、頑張ってもただの時間の無駄では？しっかりとした国の維持のもと始めた方が早いと思います
30歳～34歳	女性	今現在困っている事は、子どもの保育園の入園ができず、仕事がパートでしか働けていない事です。もっと保育園の数を増やしてほしいと思いました。仕事と育児や家事を両立している方たちが多いと思うので、もっと働きやすい環境ができれば嬉しいです

年齢	性別	自由回答意見
30歳～34歳	女性	男女共同参画社会を実現することは良いことだと思う。しかし、男性、女性それぞれの性に産まれたからには、どうしても完全なる平等は不可能だと思う。男性は赤ちゃんを産むことはできないし、女性は男性よりも力が弱い等々はあたりまえで、そういう事を理解した上でそれぞれができる事をし、協力し合える社会を実現することが理想だと思う。男性・女性の中でも、得意・不得意、向き・不向きがある様に、その人の個性を活かして社会と関わっていける、そんな生き方を市民ができるまちをつくってほしいです。女性が社会に出て仕事する事が良いとは限らないと思う。人によっては、家事・育児・介護でいっぱいいっぱい、それに生きがいを感じる人もいれば、何で私ばかり…と不満をかかえている人もいると思う。その人それぞれにあった支援や、補助に対応していける社会になるといいです。女性は男性を、男性は女性をもっと理解して認めてあげるのはもちろん、性別ではなく、人間どうしが、人と人が理解し、認め合える社会にすべきだと思います。以上、上手にまとめられなかったけど、思っていることを書いてみました。皆様、お仕事がんばって下さい
30歳～34歳	女性	この調査自体、意味があるのか不明。まさにお役所仕事という感じ。働く母親としてまず刈谷市にしてほしいことは0歳、1歳児の保育園受入数を増やしてほしい。近隣の市と比べても、ここまでひどい市はないと思う。県からの指示だか国からの指示だか知らないが、こんな何の役にも立ちそうにないデータを取るくらいなら、この予算を使って一人でも多くの保育園児受け入れをできるようにしたらどうか。まあこのような意見を書いても何も反映されないこともわかっているし、市役所の人の仕事に対するモチベーションの低さもわかっているのであきらめています…
30歳～34歳	女性	男女共同も大切ですが、私にとっては何よりも子どもたちが大切です。仕事は大好きでしたが、子どもに寂しい思いをさせてまですぐに働くべきなのか…。私は、せめて3歳位までは一緒にいて成長を見守ってあげたいと思いました。何が正しいのか答えはないし、働くお母さんたちの頑張りも子どもの成長にプラスになると思います。難しいけど、いろいろ考えさせられます。女性にとって優しい未来を考えて頂き有難うございます。大切な大切な子どもたちが笑顔でいられる毎日であれば、みんなが笑顔になれる社会に近づけると 생각합니다。(男女共同参画とは少しずれますが…) これからも刈谷市民の笑顔のために頑張ってください
30歳～34歳	女性	「男女平等」だからと言って、もともと性別差がある。「体力や腕力」等を同等に扱うことはしないしてほしいと思う(特に仕事の場面で)
30歳～34歳	女性	子育てについてです。(男女共同参画に関する事とは少々ずれているかもしれませんが…)先日、妊娠が発覚し、病院に行ってきました。母子手帳が発行されるまで2～3回の検診代が実費なのが、少々納得いきません。無料とはいかなくても、せめて保険が使えるなあ、という感じでした。実費の場合、1回6～7千円かかります。その他定期健診以外の受診(緊急の場合も)も実費だそうです。子どもを産む時の不安として、経済的な面の問題は少なからず、どの家庭にもあると思います。もう少しその不安をとりのぞいて頂けるような改正を是非お願いしたいです。私のような声を拾って頂けるような場を設ける等の措置でも有難いです

年齢	性別	自由回答意見
30歳～34歳	女性	本当に男女共同参画社会に実現したいなら、最初はある程度、強制的、義務として市民に参加させることが必要だと思う。自由であれば興味のある人だけ（講座や研修に）参加するが、興味のない人、あるいは知らない人の意識改革はいつまでも行われず、全体としての意識は高まっていかないから
30歳～34歳	女性	働きながら子育てをしております。核家族で、夫と私の両親は、遠方に住んでおり、子育ての協力を望みません。週4日のパート勤務（子育てのために、フルタイムの正社員から変更）でも、1日6時間以上という条件を満たしていないため、保育所に申し込むことができず、託児所を利用するしかありません。夫の帰宅は遅く、1人で子育て、仕事に奮闘している毎日です。生活につかれ、1人で1人の子育てをしながら、第2子を望む気持ちがあっても、ふんざりがつきません。保育所の待機児童も刈谷は多いと聞きます。一時保育の希望はあっても、仕事をしていると、市役所で申し込みの日に並んで順番を取ることもできません。結局、家族の協力のある人（祖父母など）が朝早くから並んで一時保育の権利をもらっている様に見えます。手をさしのばすべき所に届く、市政の仕組み、あり方をよく考えてください。そして、整えてください。少子化を少しでも改善していくということは、生み、育てたいと思う人が、健全に前向きに、そうできる環境を整えるしかないと考えます。樂をしようと考えているわけではありません。でも、これ以上がんばったら体も心ももたないと思う状況ではなかなか前にすすめないのは、子育ても介護も同じではないでしょうか。税金を払っていて、この市に住んで良かったと思うまちづくりを期待します
30歳～34歳	女性	もっと利用しやすい託児所をつくってほしいです。私にはまだ子どもはいませんが、職場の先輩方から話を聞いて、刈谷市は厳しい（託児所に子どもを預けにくい）とのことで不安になります。特に学童保育（小学校3年生までが入れる育児施設のこと）は時間に少しでも遅れるとすごく注意を受けるとのことです。一生懸命働いていてそれはないんじゃないかなと思います。本当に男女共同参画をもっと良くしたいなら、学童保育や託児所（保育園や幼稚園）をもっと長く預けられるようにしてもらいたいです。本当に必要なことに税金を使ってください。効果の少ない講座とかに税金を使うのはやめてください。よろしくお祈りします！
35歳～39歳	男性	すべてが女性の不平等のように質問されているが、男性は男性の関係の中で問題もあると思います。このようなアンケートで男女について問いただしている時点で比較しているのではと思います。ただ、女性も現在置かれている立場を嫌だと思っている方もいれば、そうでない方もいると思います。男女の関係を変える事は急には難しいと思いますが、長い目で見ていく必要があると思います。例えば、今の会社にいる上司や先輩の方々が、すぐに受け入れる事はできないと思います。しかし、長い時間をかけて講習等を行い、全体の理解を深める事が必要だと思います。男女に違いはなく、男女に違いがあると考えている時点で問題なのではないでしょうか。働きたい女性は働き、家事をしたい男性はいても良いと思います。ただし、すべてにおいて責任は自分でとれるのが前提だと思います。それを受け入れて対応できる体制を整える事が大切だと思います。男女関係なくとりあえずやりたい事をできれば、男女の差は無くなると思っています

年齢	性別	自由回答意見
35歳～39歳	男性	活動ご苦労様です。市民みんなが幸せになる地域づくりをこれからもよろしくお願いします。私も仕事を頑張って税金をしっかりと納めますので政治家の給料を下げて国のために子どもたちのためにお金を使ってほしいと思っています
35歳～39歳	女性	刈谷市は進んでいると思います。頑張って下さい
35歳～39歳	女性	夫は家の事は一切何もしない。私に対し、料理はまずいなど文句を言うのなら自分でやれって思う。実際に言うと髪を引っ張る。蹴る。物を投げる。のこぎりを持ちだし見せる。ベランダから飛び下りろと言う。包丁を見せ、死にてえのかと言う。子どもにやつあたりするなど、散々です。全ては俺（男が上）男女平等の世の中がいい。お前も俺の様に（30万）稼いでこいとか絶対無理なことも要求する夫。風俗とかしないと稼げないのに俺と同じ様にしろとか、文句ばかり。現在腰が痛いあの仕事がかついだのほとんどニート状態。まともに働いてから私に対してそういうこと言えと思うのに（30万円）稼いでこいは過去の話。夫は自己中心的な最低な男。このアンケートで本当に世の中変わりますか。あと、野田町に住んでいますが、自治会が毎月700円で3ヶ月分2,100円支払っていますが、安くしてもらえませんか。生活がかついです。以前安城市内に住んでいましたが、自治会など1円も払ってなかったです。何に使っているんですか。ただ、刈谷市だよりと回覧板だけ。ぼったくり
35歳～39歳	女性	私が生まれ育った場所より刈谷市はとても住みやすく、整った環境にあります。だからこそ、ひとり一人協力をして刈谷市を盛り上げていきたいです。そして、子どもたちが安心、安全に暮らしていける明るい刈谷市がつづきますように…
35歳～39歳	女性	大企業は育児休暇など充実しているが、中小企業は全く充実していないように思う。また育児休暇は女性だけでなく、男性もとって当たり前の社会になってほしいと思う
35歳～39歳	女性	刈谷市の幼稚園は、保育時間も短く、親が使われることが多いので、少しでも社会に出ようかなと思っても、なかなかまとまった時間が取ることができない。保育園の利用もなかなか難しいと聞いた。市の窓口の人も対応がつかなく、きびしいと聞いている
35歳～39歳	女性	自分自身、「男女共同参画」ということに意識を持っていないので、意見を述べるのは申し訳ないとは思いますが…。日々仕事におわれて地域にも目を向ける余裕もなく、行政についても目や耳を傾ける余裕もない生活を送っています。そんな生活なので、男女共同参画については無知です。しかしながら、H22に策定されたと表紙にあります。私のように仕事が全ての人間が、自分で意識を持っていないにしろ、何の情報も耳に入ってきていないということは、刈谷市の取組みがまだまだなのは…？とあってしまいます。しかも、もうH27なのにまだ浸透されてないってことです。「意識していないなら知らない」というままなのではなく、「意識していなくても、なんか知っている、聞いたことある」と思えるような啓発のし方を、今の刈谷市は考えていくのが必要なのでは？

年齢	性別	自由回答意見
35歳～39歳	女性	弱者支援、救済、相談、解決までの窓口をつくって下さい。課を回されるだけで、解決には成りません。被害者の届出を受理、通報、解決の窓口づくりを、離婚後の親権問題、親権者を強調されてしまいます。父親の権利、母親の権利分担化を進めて下さい。生命維持のために親権問題が、壁になってしまいます。父母として、子どもたちにできる事を阻止されない行政対応を考えてください。DV被害は高齢社会、薬物使用にと、大問題です。認知症、脳の覚醒にて暴力的にてDV被害に変わります。暴言や付きまとい（ストーカー）一点集中攻撃をされてしまいます。捌け口にされて、終わり無く続きます。無視行政対応問題が壁になります。解決窓口に対応できる職員は、今はいないと思っております。父子家庭、母子家庭の問題解決を、子育ての足りない手助けを充実して下さい。市民を守るための市役所ですから、市役所側の問題を解決相談窓口が無いです。たらい回しされてしまいました。市役所側の問題を受理解決して下さい。すべて相談だけです。動いて変わる事や認める事など相談後の連絡通報を市役所側からの報告義務化をして下さい。カウンセリングではありません
35歳～39歳	女性	県外から刈谷市に引っ越してきました。最初のまちは自分ができる事は積極的に参加し、(当たり前ですが)挨拶等やっていましたが、当初はずいぶん地元の人に差別を受けました。刈谷市の中で引越しをしました。新しい地域は近所の方も差別なく接してくれました。県外や刈谷を知らない地区の人のために、何か男女共同参画に関する、イベントをいろいろやって欲しいです。今、現在やっているイベント等もあるかと思いますが、何かもっとあると嬉しいです
35歳～39歳	女性	幼稚園の延長保育が、仕事をしている人でも使える様になって、働く母親が以前に比べて増えたと感じます。子育てをしている現状で、自分自身がフルタイムで働きたいと思わないですが、子どもが学校へ行っている間は働きたいと考えています。それでも急な病気などで休まなければいけなくなったりすることを考えると働く場所などの選択だったり、雇用する側の考えであったり、思い合うのが難しいかもしれません。女性が、働きたいのであれば働く、家にいたいのであれば無理に、社会に出ましよう、と言わないのがいいのでは??と考えています。専業主婦も立派な仕事だと思いませんか?
35歳～39歳	女性	子どもが病気や障害がある時、父親は仕事を続ける事ができるが、母親(女性)はどうしても無理になる。子どもを預ける時、子どもの健康や障害の体では受けいれができず、母親の仕事復帰は難しい。男性の仕事の方が賃金を得る金額も高く、女性は専門知識でないと男性と同じ収入は難しいので介護や子育ては女性よりが多いと思います
40歳～44歳	男性	女性を外へ出られる環境をつくってあげるべき。男は仕事を減らすと減給昇進に影響

年齢	性別	自由回答意見
40 歳～44 歳	男性	今の人たちには MUST でも良いかと。今までの人たちには適合者と不適合者に分かれることになるかも。人事課で男女の仕事の重みづけがバランスとれているかといった状態では統化することは難しい。能力に応じた人員配置がなされるべきではあるが、男社会が根強く残っている現在の日本社会では、何かを企画し企業へ提案しても導入されるのは難しいだろう。男とか女とかでなく人間力で評価される社会（教育時も含めて）の形成を目指して、法や行政の長い目で見たい取り組み整備が必要でしょう。すぐにどうにかなる問題ではないと考えます。何のために男女共同参画をするのか？この理由が老若男女すべてに理解できる説明がないと
40 歳～44 歳	男性	インターネットで回答できるようにしてほしい
40 歳～44 歳	男性	男女には性による差があるため一律に同じことはできないと思います。性による差に配慮した制度こそが真の平等だと思います
40 歳～44 歳	女性	ご担当者様お世話になります。宜しくお願いします。刈谷市は他市に比べ福祉が充実されていると聞いております低賃金の 1 人暮らしの女性に税金の見直を希望します宜しくお願いします
40 歳～44 歳	女性	いつも思うことですが、職場が名古屋なので周りの働く母たちは名古屋の方が多いわけですが、名古屋市には小学生の子どもを 19 時とか遅くまで預ってくれるようなトワイライトとかいうシステムの学童のようなものがあり、3 年生以降も安心して預けて働いているようで、うらやましくもあります。うちはもう 5 年生にもなり、部活もあり、男の子だからいいのですが、女の子をもって 3 年生以降部活にも行かないとなると、母の仕事の帰って来る 18～19 時まで 1 人で留守をさせている家庭もあるかと思ひ、不安になります。こういった子は夏休みはどうしているのか心配です。うちは母（祖母）がいるからいいのですが。ちなみにこういったお子さんが夏休みに家に 1 人でいて熱中症になった話も聞きました。トワイライトは母の仕事があるないも関係なく預かってくれるようで、息抜きにもなっていていいと言っていました。刈谷市はお金があるのに、働く母を支援するシステムは低いと感じます
40 歳～44 歳	女性	協力すると、何か参加賞がもらえるともう少しうれしい。封筒の封にシールがついているものだとうれしい
40 歳～44 歳	女性	私は市外から結婚を機に転入してきましたが、刈谷市の女性はそもそも、「結婚したら働きたくない」と考える人が多いように感じます。刈谷市ではトヨタ系をはじめ、産業が地域に根ざしているため、男性が働けば女性は専業主婦でいられる十分な収入を得られるからだと思います。また、一旦会社に行けば、給与や昇進で完全に差があり、さらに働く気持ちをそいでいると思います。パートの人たちは絶対に年収が 103 万円を超えない様に調整して休んでいます。これでは戦力として当てにならないし、待遇に差が出るのも当然です。男女共同参画を目ざされたいのなら、そもそもの意識の変革を目指す必要があるかと思ひます。我が家は 2 人で働いていますが、よそはよそ、うちはうちでがんばって働きます。女性ももっと働くためには…休暇の取りやすさなどの環境面も必要だとは思ひますが、103 万円の壁の撤廃がいちばんだと思います。今は中途半端に働きすぎて、103 万円、130 万円を超えると、世帯収入が減ってしまいます。たくさん働けばたくさんお金が残るかたちにしないと、有能なパートさんにも仕事を頼めなくなってしまいます。市の単位では難しいかもしれませんが…刈谷市の皆さん、がんばって下さい。応援しております

年齢	性別	自由回答意見
40歳～44歳	女性	保育園、学童に入りやすくして欲しい。老人の介護施設を増やして欲しい。→これが不足すると、女性の負担が増えることになる
40歳～44歳	女性	性別がちがうので、すべてを同じにしようとすることに無理があると思っていますが、性別で一括りにするのではなく、きちんと「一個人」として評価される時代がくれば、おのずと不当は評価を受けて苦しむ女性も減ってくるのではないかと思います。能力があるのに、女性というだけで社会進出がはばまれる社会でもダメだし、能力がないのに、女性ならOKという社会でもダメだと思います。また、すでにある制度を活用できていないのに、女性～法といった更なる飾りのような法律や条例を増やして、共同参画を推進している気になっていけないと思います。つくった法律や制度を性別にかかわらず、市民が平等に利用できる社会であってほしいと考えます
40歳～44歳	女性	最近、ニュース等で「妊婦差別」の話をよく耳にします。大きな仕事を任されていたのに、妊娠が分かった途端、配置変えになってしまったとか、時間通りに退勤するように！とか、残業するのを拒まれたとか…。妊婦になってもそんな仕事を取り上げたりしないしてほしいです。一生懸命頑張っているのだから、そんな事しないでほしいです
40歳～44歳	女性	女性が働くことに対して、まだまだ偏見を持った方はいると思います。女性が働いてイキイキすることで、子育て家庭が上手くいくのであれば、他人が口を出すことではないと思いますが…。経済的な理由で働かなければいけない女性をもっと応援してあげるべきではと思います。経済的に不自由してなくても、生きがいとして働く女性への偏見もなくなって欲しいです
40歳～44歳	女性	今、現在、小学生と中学生の子どもがいます。学校行事（授業参観、懇談会、PTA活動等）があると、その度に仕事を休んでいます。子どもにさみしい思いをさせたくないのでも、多少無理してでも仕事を休んで行事に参加しています。毎回とは言いませんが、年に数回は、父親も有給休暇を利用して参加して欲しいと思います。以前に比べると、父親の参加も増えていると感じますが、うちの主人に関しては、「学校行事で仕事は休みにくい」と言っています。職場の方にも理解して欲しいと思います

年齢	性別	自由回答意見
40歳～44歳	女性	正直、男女共同参画なる取り組みがある事を、初めて知りました。アンケートの内容を見る限り、男女分け隔てのない社会をつくりましようと言うことが主旨としてある様に思いましたが、では、何故、刈谷市には婦人会という制度があるのでしょうか？そもそも婦人会とは、何のためにあるんですか？また“婦人”の定義とは何ですか？今年度、地域の婦人会の役員か地区の班長をやって欲しいと言われ、班長は輪番制なので、やむを得ないと思いましたが、婦人会をやって欲しいと言われ、非常に揉め、嫌な思いをしました。そもそも婦人＝専業主婦 or 主婦のパート社員という認識だったため、会社員で朝早くから夜遅くまで働いている自分にそのような役割が回って来る事自体、驚きでした。しかも、婦人会の活動内容を簡単に聞いたところ、月1で朝7:00～まったく近所ではない公園の清掃活動であったり、地区の文化祭や敬老会の準備や当日手伝い、1番の驚きは盆踊りの参加（しかも日程は8/13-8/15という帰省のタイミング）と、本番前1ヵ月の練習…など、理解に苦しむ日程と内容ばかり。近所の方とは揉めたくはありませんが、自分の生活を守るには揉めざるを得ず、断固拒否する旨、伝え、結局、当面通りの地区の班長をやっていきます。この班長だけでも単身者には非常に苦痛です。婦人会の活動内容は、別に男女どちらがやっても問題ない内容にも関わらず、何故必要なのでしょうか？廃止して欲しいです
40歳～44歳	女性	男性の得意なこと、女性のほうが都合の良いこと、その場その時により、男性が行ったほうが上手くいく時もあるれば、女性が行った方が上手く納まる時もある。男女の平等感というのは男性女性にかかわらず、各個人の受け取り方に左右されるので難しい。男性も女性も一個人として相手に真摯に向き合い、相手の意見を聞く姿勢が必要。バカにしたり、相手を見下したりしない姿勢を、幼い頃から教育していき、また、繰り返し啓蒙活動を行う必要がある。非常に幼稚な手段かもしれないが、市民だよりやホームニュースで市民が呼びかけの文庫を載せたりしても良いかもしれない
40歳～44歳	女性	男だから女だからではなく個人が望む生活が理想です。社会に女性を積極的に登用するというより能力がある。意欲がある人が登用されれば良いです。管理職も同様です。あえて男女を意識せずに正當に判断されれば、されるのが女としての希望です。男と女が全て同じでなければいけないのではなく男が優れていること、女が優れていること、それぞれ尊重しあい納得した形で社会に貢献できれば良いと思います
45歳～49歳	男性	アンケート用紙と回答用紙を分けて回答用紙だけを返送するようにすれば良いと思う。それなら封筒が膨らまず、かさばらずにすみます。そもそもアンケート用紙と封筒の大きさが合っていない。四つ折りにしないと入らない。もう少し考えてほしい
45歳～49歳	男性	私は独身です
45歳～49歳	男性	頭数だけ女性管理者や上司を増やせばよいというのはおかしい。やる気のある人間、やれる環境の人間を男女問わず評価すべき。職場ではセクハラのほかにも上司からのいやがらせ、年下からのお局呼ばわり、仲間外れなど野放しされている問題が多い。男性の多い職場に面接に行き、「セクハラされても笑いとばせる性格なら採用する」などと言われた女性がいた。個人の意識を根本から見つめ直す。男女平等はかたちでなく、いかに人として相手の立場になって物を考え行動できるか。それは家庭でも職場でも地域でも同じ

年齢	性別	自由回答意見
45歳～49歳	男性	男性には男性の役割、女性には女性の役割があります。これを無視した「平等」は何かしら弊害が出ると思います。こここのところを考慮した男女平等施策を立案し実施して行って下さい
45歳～49歳	女性	子どもを生み母乳を与えられるのは女性だけ。今の男性のような仕事の仕方と同じ様に女性が社会に出てしまっただけでは、子ども家庭が守れずに、家庭生活の空洞化に繋がる。現時点で男性も女性も同じというのは無理があるような気がする。男性も女性もそれぞれができる役割を担い、子ども家庭を守りながら社会に出て平等に働けるようになれば理想。そのためにはまず、男性の働き方、働かされ方が改善されるべきだと思う。長時間労働低賃金という根本的な問題が解決されてからの話だと思う
45歳～49歳	女性	男女共同参画においては、個人以外に各企業（就職先）への徹底にもつとめた方がいいと思います。男女共同参画のなにかしらの集まりがあったとして、勤務先にはどのように説明をして参加したらいいものかと
45歳～49歳	女性	「男女雇用機会均等法」のため、女性でも夜勤をしたり、夜10時以降もシフトに入ったりすることになった。確かに差別がなくて良くなったのかもしれないが、女性と男性では身体が全くちがう。子どもを産むことがやはり大事である。女性が育休中でも安心してすごせる様に男性の（特に若い人）給料を上げて、正社員として勤めることを一番にしてほしい
45歳～49歳	女性	家庭で男女平等に、家事をこなすにはいろいろと難しい点がある。主人の仕事は帰りが遅く、大体10時以降。フレックス制度はあるが、使ったことはない。今の若い世代は、割と家事を分担している家庭も多いようだが、50代以降の夫婦の家庭では、家事も介護も女の人任せ。男は外で仕事をして、女は家庭を守るという考えの男性が多いように思う。私も基本的には、この考え方に賛成だが、自分自身病気をしたりしたら、やはり夫に家事をしてもらわざるを得ない。でも、普段から全く家事をする気がなく、仕事で帰りが遅いことも手伝って、家庭での仕事は、なにもできない。意識改革が必要だとは思いますが、今さらそれは難しいようだ。“男も基本的な家事くらいできないと困る”という意識をどう植えつけるか…。年を取るにつれ、考えてしまいます
45歳～49歳	女性	男性は男性、女性は女性として役割があると思うので、何でもかんでも男女平等にという現在の流れにはとても違和感を覚えます。女性が社会に出て働きたいと思っているなんて、いったい誰に聞いたのでしょうか？ほとんどの女性は子どもが小さいうちは子育てに専念したいと思っているはず。夫の給料だけで家族が暮らしていけない世の中がおかしい。夫の給料が少ないから妻も外で働いて家計を助ける。2人の給料を合わせてやっと生活ができるようになる。それって異常だと思います。妻が働かなくても夫の給料だけで生活ができる世の中にする事の方が大切だと思います。子どもが大きくなり、親の手がかかなくなると、女性が働きたいと思うのなら、それはその人の自由なので、働くことには反対しません。でも女性（母親）の第一の仕事は、今も昔も変わる事なく、“子育て”だと思っています

年齢	性別	自由回答意見
45歳～49歳	女性	男女が平等に扱われることには賛成するが、その分、責任も平等にかかるということを理解すべきである。そうしないと、女性が社会進出する際に、自分が「女性であること」を口実に責任逃れをしたり、都合のよい部分だけ「男女平等」を主張しかねない。育休明けで働く女性についても、仕事の目的をしっかりと認識すべき。女性の進出を後押しする傾向にあるが。男性側の「平等」の意識も得られないと、形ばかりでなかなか真の平等は実現しないと思う。(女性ばかり優遇されていると男性が思うような策ではだめ)
45歳～49歳	女性	熱がある子どもをだれかに預けてまで働きたいと思っている親はそんなにいないはず。むしろ、休めるなら元気になるまで会社を休みたい。そういう立場を自らつくっていかうと思っていれば自然と職場での上位の地位を望まないし、望めなくなるでしょう。しかし、子どもは成長します。高校生になってたとえ熱が出たとしてもこちらの言うことも理解できるわけですから、ある程度は職場を優先することも可能になります。だいたいこの期間が10年。子どもが何人かいればその年数も増えます。やっと一段落して、仕事が優先できる時が来た時、今度は自分が年をとって働き口が見つからなかったり、もうすっかり職場での他位向上をのぞめない立場になっていたりするものです。どんなに女性管理職を増やしても、そんな地位までいける人は女性全体の数パーセントにすぎません。そこまでいける人はその他大勢のおばちゃんの話しを理解できるのでしょうか？1時間何千円もかかるベビーシッター代をはらえる人がおばちゃん生活を改善できるとは思えません。どこか役所が考えていることはピントがはずれちゃうんです。「3才まで子ども抱き放題」とか言っている大人がいましたが、そんな子を1日中抱いていたら腰痛になります。現実が見えてないですよ
45歳～49歳	女性	とてもよい事で実現できたらもっとすばらしい刈谷市になると思いますが、今回アンケートをする機会を与えられるまで言葉自体も活動等も全く知らなかったのでびっくりしています。たぶん私のような人が大勢いると思います。もっとPRするとよいと思いました
50歳～54歳	男性	男性の家庭生活の参画を法で強制力を働かせていかないと進まないと考え
50歳～54歳	男性	問14について、私は反対なのだが、当の女性たち、特に20代の若い女性を中心にして「賛成」「どちらかといえば賛成」が増えている現状には戸惑う。女性自身の意識改革も重要だと思う。(「アエラ」 N039'14.9.15)
50歳～54歳	男性	女性と男性は根本的に身体や精神の構造が豊かになります。同様の扱い＝平等ではなく、それぞれ男女の違いを活かす事が男女ともに幸せになると思います
50歳～54歳	女性	現在生活していく上で、特に男女差別で困っていないので、刈谷市の男女共同参画の取組に気付いていないと思います。仕事を退職したらそのようなボランティアに参加したいと思います
50歳～54歳	女性	無理だとは思いますが特に老人男性の意識改革が必要だと思う(考え方が古い)男尊女卑の考え方など男女共に助け合う気持ちが必要だと思う思いやりの気持ちが必要だと思う

年齢	性別	自由回答意見
50歳～54歳	女性	男女共同参画を意識しすぎて、数を合わせるためや増やすだけのための女性の管理職や役員選出は良くない。選考は正しく行われ、ふさわしい方が選ばれるべき。妊娠出産において、やはり女性のリスク体力的負担は大きく、働き方など選べる環境づくりを、行政をはじめ企業は努力しなければ変わらないと思います。誰においても平等で公平な社会が望ましいが、今は弱者が社会保障過度に保護されすぎているようにも思う。母子家庭の医療費、学校支援等、生活保護など
50歳～54歳	女性	私は、結婚するまで、いじめや差別をずっと受けて来たので、人と関わる事が、少しこわいので、地域活動、参加することがすごく苦手です。でもいろいろな事には(多少) 関心があるので、テレビ、新聞、市民だよりは、目にします。家庭、学校、会社、社会で話し合いをする事がまず、大事だと思います。私をいじめてきた人や差別した人は、ほぼ家庭がうまくいっていない人でした。子どもの頃、いじめてきた子は、すべて親が離婚していました。社会に出た時の人は、夫婦仲が悪いとか家族に相手にされていないとか聞いています。中には、離婚している人もいました。いじめやいやがらせなどの差別をされている時でも、私を助けてくれる人もいました。その人たちは、やっぱりみんな家庭中が良い人たちでした
50歳～54歳	女性	平等と言っても、男性の役割、女性の役割は必ずあると思う。女性は子どもを生んで人口を増やすことに重大性を感じてほしい。女性が男性化しつつある今の世の中だと思う。逆DV、セクハラも。男性らしい男性、女性らしい女性は、失ってほしくない。自分の生活レベルを落とすことができなくて、結婚しない、子どもをつくらない、介護をしない、という考えがある人もいて、自分を中心に考えてしまうところがあると思う。わがままが増えてきたと思う。がまんもないと思う。今、世の中が、便利な生活ができたり、遊びがあったりと、昔の考え方、生活のし方もよかったと思う。いろんな事ができる世の中が”家族” というものをつくらなくなってきたと思う
50歳～54歳	女性	男女平等に働ける事が悪い事だと考えていません。しかし、今、子育てをしている親に対して思う事は、子育てから逃れるための復帰と思える人が多い気がします。古い考え方なのかもしれませんが、こういった活動が行われる事により女の人も仕事をする事が当たり前、と考えるようになると思います。それが子どもにとって良いことになるのでしょうか？だから子どもが変わってきているように思えてなりません。子育てを終えてからの仕事復帰が子どもにとっても望ましい気がします
50歳～54歳	女性	男女共同参画という言葉が、もっともっと世の中に浸透していくといいと思います

年齢	性別	自由回答意見
50歳～54歳	女性	刈谷市で働く人の男女比、管理職の割合、パートで働く人（図書館など）も含めて公表して欲しい。市民だよりなどその割合も目にふれやすく。市が率先して女性の採用、雇用促進、管理職登用をすすめて欲しい。（パートだけでなど）女の子が目標とできるような働き方をしている人を紹介して欲しい。婦人会はなくして欲しい。女性が外に出るためにこういうものが必要な時代でもなくなり周囲でも負担感の方が多い。お金をかける先を老人から子どもにもっとシフトして欲しい。病児保育や夜間診療の小児科も必要。現状では子どもが仕事や社会の“お荷物”扱いでこれでは増えない。数が減ると社会が更に子どもに不寛容になる。子育て中の女性に対しても同様のことが言える。夫婦二人で子育てできるようにしないと、女性はなかなか働けず収入をきちんと得ることや責任を持った仕事がしづらい。同じ仕事をしているなら、パートの時給を上げるか、正規の雇用にシフトして欲しい。ワーキングプアの存在はおかしい
55歳～59歳	男性	知らなかった事が多い事に気が付きました。しかし、現実的に生活の安定を求め、仕事に集中。休みは身体を休める生活のため、理想とはかなり難しい現実があります。将来が不安の中での生活に疲れます
55歳～59歳	男性	このアンケートの集計結果は、何かの媒体方法で？市民税とか公表されると良いと思います。こういうことを議論する場を設けてはどうですか？
55歳～59歳	男性	男女共同参画という大げさな言い方でなく、もっと個人の人格を尊重したり差別のない平等な社会をいかにつくるかという基本的な部分であると思います。社会自体がコミュニケーション等を通じて、いかにそのような世の中をつくっていくかということが大事だと思います
55歳～59歳	女性	北欧の国（フィンランド、ノルウェーなど）をもっと見習って女性がもっと楽に生活していけるようになると良いと思う。年寄りが元気でいられるように公園に体をきたえる道具をつくって下さい。小垣江町の年寄り道は道路をよく歩いています
55歳～59歳	女性	あまり考えてなかった事柄なので特になし
55歳～59歳	女性	市民の声をきく場をつくる。タウンミーティングを地区別にしたらどうか？（DVに関して、男女平等に関して）まず、人々の考えを知り、何か問題かと探り、地域住民、市民力で考えて、実行に行政が力を貸す。市民中心に行動サイクルをエンパワーさせる
55歳～59歳	女性	「男女共同計画」と読んでも、何のこと？と思ったのが、正直なところです。今の若い子たちを見ていると、昔とくらべて、男性も育児に参加したり“育メン”という言葉もあるように家庭内では、男性も協力することが多くなったと思います。社会面ではまだまだ男性の方が優位ですし、女のくせに、とよく年配の方が思っているのでは、と思います。国、全体、東京の議会のように女のくせに、という意見をヤジでとばすのは男ですよ。その辺から意識を変えなければダメではないのですか？ヤジをとばすという男の人、政治家、はずかしくて、小学生にも見せられないと思いますが、男女共同計画についてももう少し勉強してみます。ちょっと、無関心だった自分がはずかしいです。すみません
55歳～59歳	女性	「男女の平等」は、女性のレベルを男子と同じところまで上げて行く事ではなく、子育て、介護などにおいてお互いが補いながら、お互いが豊になって行く事だと思います。それを基本にいろんな事業が行われるとよいと考えます

年齢	性別	自由回答意見
55歳～59歳	女性	今の女子高生のスカートの短いのを無くしてほしいです。なんとかならないですか？
55歳～59歳	女性	このアンケートを頂くまで、刈谷市が男女共同参画に取り組みを進めている事をあまり知りませんでした。今、現在の私の生活に直接影響がないからでしょうか。私は女子のお茶くみは当然の仕事の時代でしたし、家庭の中も父親中心の社会で育ちましたので「男女共同参画」とは無縁だったように思います。まさに「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」と母から教えられて育ちました。そのため結婚してからは家庭に入り、アルバイト、ボランティア等はしましたが、30年近く専業主婦として務めてきました。今は時代も変わり、男女どちらが外で働こうと自由となり私もそれで良いと思っています。ただ、どちらが働くにしても家庭を大切にしたいと思っています。子どもたちがしっかり育つ事が先の私達の生活も支えてくれる事になると思うからです。男女平等とはどういう事なのか、とも考えてしまいます。女性の管理職が増えたとか、男性と同じ仕事をするというだけでなく男性にしか出せない能力、女性にしか出せない能力を発揮できる社会であって欲しいです。男の人の中でも繊細な人もおられます。また女の人の中でも強くたくましい方もおられます。男女関係なくその人に合ったポジションで、仕事ができる社会であって欲しいです。そのためには、お互いの立場、能力、弱さ、強さを認め、尊重する事が大切だと思います。最後に「男女共同参画」に対して反対している人もいます。専業主婦の役割の尊重を廃止、就労を望まない女性を働かせようとしているという意見も聞きますので、「どうするか」という前に「男女共同参画社会」を刈谷市民の皆さんがどう思っているのか、知りたいところです。私自身は専業主婦の立場として、家庭の仕事は大切だと思っていますが、その反面、全く外で働かないというのは反対で、お互いの立場を理解するためにもボランティアであったりアルバイト等、無理のないところで社会に参加することが良いと思っています。問 35～37 に付いては考えがまとまらず、はっきりと○をつけられませんでした
60歳～64歳	男性	男女共同参画の社会の実現を目指して法の整備や意識高揚の施策を取ることは大切だと思う。ただしそれは、働く意欲のある人の後押しをするような方向でやるべきであって無理に進めるものではないと思う。例えば女性管理職を無理に登用したところでうまくいくとは思えない。女性の中にも能力的に優れた人がいることは確かだし、その人たちが正當に報われるべき（そういう制度を作る）ことは必要。しかし、全般的に見ると判断力、根気、長期的視点などで、女性は男性とは明らかに異なる（劣るということではなく）。よって、男性、女性おのおのが自分の希望がかない能力を十分に出せる機会が与えられるような、柔軟な制度づくりが大切である。決して無理にかたちだけ平等にするということではないと思う。個人的には私の妻は専業主婦の立場に満足していると思うし、私もそれによって会社での仕事も家庭の心配をせずにやってこられた。子どもたちもお陰さまで正しく成長してくれた。その点、妻に感謝している。こういう生き方をする夫婦がたくさんいることと思うし、それが自然だと思う人であれば、これも立派な男女共同参画であると思う
60歳～64歳	男性	異質な男女をすべて同列に語ることに疑問を感じる。役割分担することで協働を図るべきと思う

年齢	性別	自由回答意見
60歳～64歳	女性	<p>現在の日本の社会は、男は外で働き、女は家事、子育て、家族の介護をするという風習があって、女性が子育てしながら働いても、男性はあまり家事や子育てで介護については、ほんの一部だけ手伝うだけ。これでは圧倒的に男性優位で女性には自分の時間すらなかなかできない。男女共同参画の社会をつくるには、専業主婦の場合はまだいいと思いますが、女性が男性と同じように働いていくためには、絶対に男性も女性と同等に家事などを行えるように子どもの頃から教育し、女性に頼らなくても家事などが一人前にできる様にならなければならないと思う。</p> <p>例 私自身 34 才の時に正社員として 8 時～17 時迄働き始めました。3 年後、家を買って通勤時間に 1 時間程かかるようになり、朝 7 時に自宅を出て、18 時 15 分帰宅、買い物、洗濯物の取り入れ、夕食の支度、食事後片付け、犬の散歩、洗濯物の片づけ、入浴、その後自分の時間。自由になるのは 23 時過ぎ。夫は帰宅後はテレビを見、たまには会社の仕事について考えたりしながら、間々には新聞灰皿を取って欲しい、コーヒーを入れ、菓子や果物がほしいと言って自分は動かない。こんな日本では女性が自由に活躍できない</p>
60歳～64歳	女性	<p>私の住む所は若い方が少なく、婦人会などは 1 回、役をやれば、一生涯もうやらなくていいと若い時に引き受けましたが、今になってまた、婦人会をやらなくてはならない様になり、60 才過ぎて盆踊りなどやるのは、しんどいです。刈谷市での婦人会活動は廃止してほしいです</p>
60歳～64歳	女性	<p>職安にて、無いと申告してお金をもらっている人たちへ、市のボランティア行って報酬として職安から賃金をもらえるようにすべきと思う。いろんな補助も、申告できる人には出て、申告する事を知らない、できない人が受け取ることができないのは考え直し、見直した方が良いと思います。人は楽な方には、すぐ慣れますが、キツイ方には向かって行く気力がありません。働かざる者食うべからず！！儲ける力の無い物は始末をして生活せよ！！…他、いろいろ。昔の人は、がんばった、だから今があった。これからは、先が見えない。良い環境にすればするほど努力をしないのが、人間の普の人だと思います。世間体（プライド）など考えず、人間として考えると答えは出て来るものではないでしょうか。今がんばれる自分は、父母のおかげ、また子どもたちもがんばって生活、子育てをしています。それも幸せ。「甘え」を許さなかった結果だと 60 才を過ぎて日々思います。孫から見て、こわいおばあちゃんだと思います。水は下へ流れます。楽な方へ楽な方へと</p>
65歳～69歳	男性	<p>年に 4～5 回位は公報紙（市政等）の配布をお願いしたい</p>
65歳～69歳	男性	<p>あてはまるものにすべて○。すべて○と思われる様は大変難しい。刈谷市が実施している数々の啓蒙活動はほとんどの会社勤務者は知らないのでは？PR 方法に工夫が必要ではないでしょうか</p>
65歳～69歳	男性	<p>平成 22 年度に策定されている、「第 2 次刈谷市・・・」の具体的なかたちが見えない。知らないなので、的はずれた考えになっているかもしれません</p>
65歳～69歳	男性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 無理強いしていくのではなく、男女共同参画は当然と言う環境をまず整備していくような企画、実施を務めていく 2. 条例案のようなことを整備していくのではなく、地域（家庭から）からできることを実施させるように持っていく 3. 各個人の考え方を少しずつ変えていくための議論、討論と機会を与えて、ひとり一人の意識変革から進めていくよう導く

年齢	性別	自由回答意見
65歳～69歳	男性	トヨタグループ会社です。男女平等、賃金均等賛成です。男性は仕事をして出世して家庭を守るものと思います。(妻、子ども)女性も能力があれば、出世するのは当たり前と思います。当然だ。10人課長の枠があるとすれば、男が5人で女が5人となれば、家庭を守る男性5人が課長になれないことになる(女性2人、3人)女性課長5人は給料が良いので仕事はやめられなくなる。その女性は、定年まで働いて人生に女として後悔しないだろうか。男女平等は大賛成ですが、賃金均等で給料が良ければ女性も仕事は辞められない。男はいらない。1人でも良いと、1人の方が良いと思ったりする、それで結婚しない。それでどんどん少子化になっていく。職場では、女性が課長にすり寄ってとぐる巻いて女性は声が(しゃべる)大きい。それで男性は片隅に小さな声で話している。能力ある男性でも女性に嫌われたらもう出世はできない。嘘の事やちょっとした事で女性に泣かれたらもう能力ある男性でももう出世はできない。女性に騒がれたらもうその男性は終わりだよ。だから、女性には話もできないしゃべれない。職場ではどんどんこんな職場社会になって来ている。この先日本はどんななるんだろう。日本沈没か、それとも良くなるか。私はどんなになろうが仕方ないと思います
65歳～69歳	女性	家族の協力がなければ何も動けないと思う。特に夫の協力理解がなければ無理ですね。娘の家族を見ていて思う
65歳～69歳	女性	刈谷市のボランティア活動では、女性が中心となっている会もあり嬉しい事ですが、地区に目を向けると男性社会です。地区では女性が意見を言いにくい。女のくせにと思われている。地区では殆どが男性の役員ばかりでもう少し女性を増やして考え方を聞く場であっても良いと思う。ただ、女性は家事または家の事で時間を取られるので現状では難しい面もある
70歳以上	男性	73才。地域の活動に積極的に参加しているが、団体の長や役員はほとんど男ばかりで女性の考えが活かされていない。相当遅れている
70歳以上	男性	特になしですが少し書きます。介護に追われる場合が多いので、企画に対しては非常に良いと思っています。時代が変わって、若い世代の方を多く取り入れ推進して行ってもらいたいと思います。介護している自分自身が判断に苦しむ場合が増えて来ているので、新しい事柄を覚えて進めて行く事は、無理な様に思っています。宜しくお願い致します
70歳以上	男性	初めて知りました。男女共同参画の関係者の皆様、頑張ってください
70歳以上	女性	私は今ホームにお世話になっておりますので、全てのホームの方で面倒を見て下さり大変感謝しています。確かに男女共同参画はこれらにおいて必要と思います。しかし、女性から申し上げるのは恥ずかしいことですが、男性よりも地位が低いと思います。もっともっと女性は勉強をしなければいけないと思います。あわてなくても良いかと?
70歳以上	女性	現役を終えているのでわからない点がありました。もっと勉強しなければと痛感しました
70歳以上	女性	私は自分の住む家が欲しいですが、お金が高いので、行ける所(家)をつくって頂きたいです。老人が入る家を建ててください。老人を看ってくれる人もいた方がよいと思います。一人の老人ではなく、大勢入れる家があると良いと思います。市が無料で建てて欲しいです。マンションだと追い出されてもいいと思いますが、こういう目に合っている私はどうしたら良いのでしょうか。こんな私の願いをお聞き下さいませ

年齢	性別	自由回答意見
70 歳以上	女性	(男女共同参画に関する意見ではありません)2,000 人の方を無作為に選 びとありましたが、回答の者は現在 85 歳の高齢です。まして認知症が あり、回答ができませんでしたので、家族が元気だった時の考えを思い 出して回答いたしました。これからもこのようなアンケート調査に関し ては、選出方法を見直しして頂きたいと思います。
70 歳以上	女性	私自身が勉強でき、今、市地域で市政に関心を持って住みよいままた明る い刈谷市になるように努力して行きます

資料編(調査票)

刈谷市 男女共同参画に関する市民意識調査

ご協力をお願い

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本市では、平成 22 年度に策定した「第 2 次刈谷市男女共同参画プラン」に基づき、男女が性別にかかわらず個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現に向けて、さまざまな取組みを進めています。

今回の調査は、平成 27 年度にこのプランを見直すにあたり、市民の皆さまのお考えをお聞かせいただくため、刈谷市にお住まいの 20 歳以上の女性 1,000 人、男性 1,000 人あわせて 2,000 人の方を無作為に選び、実施するものです。

お答えは、すべて無記名で統計的に処理しますので、個人が特定されるなど、ご回答された方にご迷惑をおかけするようなことはございません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成 26 年 11 月

刈谷市長 竹中 良則

調査票にご記入いただくうえでのご注意

1. 回答は、封筒のあて名のご本人のお考えでご記入ください。
2. ご記入は黒のボールペンまたは濃い鉛筆でお願いいたします。
3. 回答は、**あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。**また、記述を必要とする箇所は、ご記入ください。
4. ご記入後は、同封の返信用封筒に入れ **11 月 25 日（火）まで**に、ご返送ください。（切手は不要です）
5. 調査内容については、この統計以外の目的に使用することはありません。

<お問い合わせ>

刈谷市 市民活動部 市民協働課 担当：清水、塚本

電話 : 0566 (95) 0002

FAX : 0566 (27) 9652

電子メール : kyodo@city.kariya.lg.jp

男女共同参画社会とは・・・

男女共同参画社会とは、男女が社会的に対等な立場で、自らの意思によって、社会のさまざまな分野の活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的な利益を受け、かつ、共に責任を担う社会のことです。

男女共同参画社会は、仕事、家庭、地域生活など、多様な活動を自らの希望に沿った形で展開でき、男女が共に夢や希望を実現できるようにするものです。

1. あなたご自身のことについておたずねします。

※平成 26 年 11 月 1 日現在の内容でご記入ください。

問1 あなたの性別は。(どちらかに○)

1. 女性

2. 男性

問2 あなたの年齢は。(○は1つだけ)

1. 20歳～24歳

5. 40歳～44歳

9. 60歳～64歳

2. 25歳～29歳

6. 45歳～49歳

10. 65歳～69歳

3. 30歳～34歳

7. 50歳～54歳

11. 70歳以上

4. 35歳～39歳

8. 55歳～59歳

問3 あなたの居住地(中学校区別)は次のどれですか。(○は1つだけ)

※中学校区がわからない場合、()内に町名をご記入ください。

1. 刈谷南中学校区

4. 雁が音中学校区

7. わからない

2. 刈谷東中学校区

5. 依佐美中学校区

町名()

3. 富士松中学校区

6. 朝日中学校区

問4 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

1. 単身世帯(1人)

4. 3世代世帯(親と子どもと孫)

2. 1世代世帯(夫婦のみ)

5. その他の世帯

3. 2世代世帯(親と子ども)

(具体的に:)

問5 あなたの職業は何ですか。(〇は1つだけ)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 会社員 | 6. パート・アルバイト |
| 2. 公務員 | 7. 専業主婦(夫) |
| 3. 自営業主 | 8. 学生 |
| 4. 自営業の家族従事者 | 9. 無職 |
| 5. 契約社員・派遣社員 | 10. その他(具体的に:) |

問6 あなたの年間収入額(年金収入等含む)はどれくらいですか。(〇は1つだけ)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 0~100万円未満 | 4. 500万円以上~700万円未満 |
| 2. 100万円以上~300万円未満 | 5. 700万円以上 |
| 3. 300万円以上~500万円未満 | |

問7 あなたは結婚していますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 結婚している | 4. 結婚していたが、死別 |
| 2. 結婚していないがパートナーと暮らしている | 5. 結婚していない |
| 3. 結婚していたが、離別 | |

<問8については、問7で「1. 結婚している」「2. 結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方におたずねします>

問8 あなたの配偶者・パートナーの職業は何ですか。(〇は1つだけ)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 会社員 | 6. パート・アルバイト |
| 2. 公務員 | 7. 専業主婦(夫) |
| 3. 自営業主 | 8. 学生 |
| 4. 自営業の家族従事者 | 9. 無職 |
| 5. 契約社員・派遣社員 | 10. その他(具体的に:) |

2. 男女の地位に関する意識についておたずねします。

問9 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(A～Hのそれぞれについて、○は1つつつ)

	男性の方が 優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 優遇されている	どちらともいえない	わからない
A 家庭生活	1	2	3	4	5	6	7
B 職場	1	2	3	4	5	6	7
C 学校教育の場	1	2	3	4	5	6	7
D 地域活動の場	1	2	3	4	5	6	7
E 政治の場	1	2	3	4	5	6	7
F 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6	7
G 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6	7
H 社会全体として	1	2	3	4	5	6	7

3. 職業・職場環境についておたずねします。

問10 あなたは女性が職業を持つことについて、どう思いますか。(○は1つだけ)

1. 女性は職業を持たないほうがよい
2. 結婚するまでは職業を持つほうがよい
3. 子どもができるまでは職業を持つほうがよい
4. 結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい
5. 子どもができたなら勤めをやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
6. その他(具体的に: _____)
7. わからない

問 11 あなたは、進路や職業を選択する際に性別を意識しましたか。(〇は1つだけ)

1. 性別をかなり意識して選択した
2. どちらかといえば性別を意識して選択した
3. どちらかといえば性別を意識せずに選択した
4. 性別をほとんど(全く)意識せずに選択した
5. わからない

問 12 女性が職業についたり、職業生活を続ける上で、障害となっているのは何だと思いますか。
(〇は2つまで)

1. 家族の協力や理解など家庭内の問題
2. 育児の問題
3. 賃金・労働時間などの労働条件の問題
4. 高齢者や病人、障害者などの介護の問題
5. 女性自らの働くことに対する意識の低さの問題
6. 上司や同僚の無理解、セクシュアル・ハラスメントなどの職場の問題
7. その他(具体的に：)
8. 特に障害はない

<問 13については、問5で「1. 会社員」「2. 公務員」「5. 契約社員・派遣社員」「6. パート・アルバイト」と答えた方におたずねします>

問 13 あなたの職場では、性別によって不平等な扱いを受けていることがありますか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. 募集や採用人数が不利である | 9. 残業の時間に性別で差がある |
| 2. 性別によって配置に偏りがある | 10. 仕事と家庭が両立できる制度が整備されていない |
| 3. 昇進・昇格が遅い、または望めない | 11. お茶くみなどの雑用を行う社員の性別に偏りがある |
| 4. 賃金・昇給の差がある | 12. その他(具体的に：) |
| 5. 社内研修、教育訓練を受ける機会が少ない | 13. 特に男女に不平等はない |
| 6. 定年の年齢に男女差がある(慣行を含む) | |
| 7. 結婚退職制、職場結婚退職制がある(慣行を含む) | |
| 8. 出産退職制がある(慣行を含む) | |

4. 家庭・地域生活についておたずねします。

問 14 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|---------------|----------|
| 1. 賛成 | 4. 反対 |
| 2. どちらかといえば賛成 | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば反対 | |

問 15 あなたが家事、育児、介護に携わる時間は、1日あたりどれくらいですか。(①平日、②休日のそれぞれについて、〇は1つずつ)

	まったく関わっていない	30分未満	～1時間未満	～3時間未満	～5時間未満	5時間以上
①平日	1	2	3	4	5	6
②休日	1	2	3	4	5	6

問 16 あなたの現在の介護の状況についておたずねします。あなたは、現在家族の誰かを介護していますか。(どちらかに〇)

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

<問 17 については、問 16 で「1. している」と答えた方におたずねします>

問 17 あなたが介護している対象はだれですか。(〇は1つだけ)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 自分の親 | 5. 配偶者の兄弟・姉妹 |
| 2. 配偶者の親 | 6. 子ども |
| 3. 配偶者 | 7. その他(具体的に：) |
| 4. 自分の兄弟・姉妹 | |

問 18 あなたの介護の理想についておたずねします。あなたがもし介護が必要な状態になった場合、主にだれに（どこで）身の回りの世話をしてもらいたいと思いますか。（〇は1つだけ）

1. 介護施設などで	7. 自宅で、娘の夫に
2. 自宅で、公共や民間のヘルパー（介護人）に	8. 自宅で、それ以外の家族（兄弟など）に
3. 自宅で、配偶者・パートナーに	9. だれにも世話をしてもらいたくない
4. 自宅で、息子に	10. その他（具体的に： ）
5. 自宅で、娘に	11. わからない
6. 自宅で、息子の妻に	

問 19 あなたの生活は、次のどれにあてはまりますか。（①実際の生活、②理想の生活のそれぞれについて、〇は1つずつ）

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
①実際の生活	1	2	3	4	5	6	7
②理想の生活	1	2	3	4	5	6	7

※この質問における用語の意味は次のとおりとします。

- 「仕事」 … 自営業主（農林漁業を含む）、家族従事者、雇用者として、週1時間以上働いていること。常勤（フルタイム）、パート・アルバイト、嘱託などは問わない。
- 「家庭生活」 … 家族と過ごすこと、家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買い物など）、育児、介護・看護など
- 「地域・個人の生活」 … 地域・社会活動（ボランティア活動、社会参加活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなど

問 20 地域・個人の生活についてお答えください。(A～F のそれぞれについて、○は1 つずつ)

	現在、参加している	現在、参加していないが、今後参加したい	現在、参加しておらず、今後も参加するつもりはない
A 自治会、公民館の活動	1	2	3
B 子ども会やPTAなどの青少年育成活動	1	2	3
C ボランティア活動（福祉や環境保全など）	1	2	3
D 趣味（スポーツ、娯楽等）のサークル活動	1	2	3
E 市民講座、教養講座などの受講	1	2	3
F その他	1	2	3

問 21 あなたが住んでいる地域では、地域活動の役割分担はどのようになっていますか。(A～D のそれぞれについて、○は1 つずつ)

	主に女性が担当	女性が多いが男性も分担	女性と男性が同程度	男性が多いが女性も分担	主に男性が担当	わからない
A 会長などの役職	1	2	3	4	5	6
B 催物の企画・決定	1	2	3	4	5	6
C 会議・集会などの運営・取仕切り	1	2	3	4	5	6
D 集会などでのお茶くみ・調理	1	2	3	4	5	6

問 22 地域の防災（災害対策）活動を推進するにあたり、あなたはどのようにお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある
2. 防災対策などに女性の視点を含める必要がある
3. 高齢者、障害者、乳幼児、妊婦、外国人などの要配慮者の視点を含める必要がある
4. 自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある
5. 行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある
6. その他（具体的に： _____）
7. わからない

問 23 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4. 夫婦の両親など、まわりの人が夫婦の役割分担等を尊重すること
5. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
6. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
7. 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
8. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
9. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
10. その他（具体的に： _____）
11. 特に必要なことはない

5. セクハラ・DVについておたずねします。

※厚生労働省は、異性間だけでなく同性間の言動も職場のセクハラに該当することを盛り込んだ男女雇用機会均等法の改正指針を平成 25 年 12 月 25 日に公布し、平成 26 年 7 月 1 日に施行されました。

<問 24 については、問 5 で「1. 会社員」「2. 公務員」「5. 契約社員・派遣社員」「6. パート・アルバイト」と答えた方におたずねします>

問 24 職場におけるセクシュアル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）の経験がありますか。（○は1つだけ）

- | | | |
|--------------|--------------|----------|
| 1. 経験したことがある | 2. 経験したことがない | 3. わからない |
|--------------|--------------|----------|

<問 25 については、問 24 で「1. 経験したことがある」と答えた方におたずねします>

問 25 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）の内容は、以下のどのようなものでしたか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 地位や権限を利用して、交際や性的な関係を迫る |
| 2. 相手が嫌がっているのに、さわる、抱きつくなど肉体的接触をする |
| 3. 性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかける |
| 4. 容姿や服装に関して繰り返し言う |
| 5. 宴席で、お酌、デュエット、ダンスなどを強要する |
| 6. 結婚予定や出産予定などをたびたび聞く |
| 7. 目につきやすい所に、ヌード写真・ポスターなどを置いておく |
| 8. その他（具体的に： _____) |

問 26 あなたは、DVに関する次のことについて知っていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--|
| 1. 配偶者・パートナーまたは恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」と呼ぶこと |
| 2. DVには、なぐる、けるなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること |
| 3. DV被害者を支援するために、法律（「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」）が制定されていること |
| 4. 公的機関において、相談や被害者の一時保護を行っていること |
| 5. DVを受けている者を発見した者は、公的機関などの相談窓口または警察に通報するよう努めなければならないこと |
| 6. その他（具体的に： _____) |
| 7. すべて知らない |

問 27 配偶者・パートナーまたは恋人との間において、DVの経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------------|-------------|----------|
| 1. 被害の経験がある | 2. 加害の経験がある | 3. 経験はない |
|-------------|-------------|----------|

<問 28 については、問 27 で「1. 被害の経験がある」「2. 加害の経験がある」と答えた方におたずねします>

問 28 その暴力はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1. 身体的な暴力（なぐる、ける等） |
| 2. 精神的な暴力（おどす、ののしる、無視する等） |
| 3. 性的な暴力（セックスを強要する、避妊に協力しない、ポルノビデオや雑誌を無理やり見せる等） |
| 4. 経済的な暴力（生活費を入れない等） |
| 5. 社会的な暴力（友人と会うことや実家などへの外出を制限する等） |
| 6. その他（具体的に： _____) |

<問 29 については、問 27 で「1. 被害の経験がある」「2. 加害の経験がある」と答えた方におたずねします>

問 29 あなたは DV を経験した時、だれかに打ち明けたり相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 相談しようとは思わなかった | 5. 弁護士・医師・カウンセラーなどに相談した |
| 2. 相談したかったが、相談しなかった | 6. 家族・友人・先生などに相談した |
| 3. 公的な相談機関に相談した | 7. その他 |
| 4. 民間の相談機関に相談した | (具体的に： _____) |

問 30 あなたは、DVについて相談できる窓口があることを知っていますか。(どちらかに○)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

<問 31 については、問 30 で「1. 知っている」と答えた方におたずねします>

問 31 相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1. 配偶者暴力相談支援センター
(愛知県女性相談センター) | 5. 民間の団体や機関
(民間シェルター、弁護士会など) |
| 2. ウィルあいち(愛知県女性総合センター) | 6. 法務局(人権擁護委員)、法テラス |
| 3. 刈谷市の相談窓口(市民安全課など) | 7. その他 |
| 4. 警察署 | (具体的に:) |

問 32 あなたは、DVを防止するために何が重要だと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|---|
| 1. 法律・制度の面で見直しを行う(罰則の強化など) |
| 2. DVの取り締まりを強化する |
| 3. 捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする |
| 4. メディア(放送、出版、新聞など)を活用して、広報・啓発活動を積極的に行う |
| 5. 被害者のための相談窓口や保護施設を整備する |
| 6. 家庭や学校において、男女平等や性についての教育を充実させる |
| 7. 加害者に対するカウンセリングや更生を促すプログラムを実施する |
| 8. その他(具体的に:) |
| 9. わからない |

6. 男女共同参画全般についておたずねします。

問 33 あなたは、次にあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 男女共同参画社会基本法 | 5. 男女雇用機会均等法 |
| 2. 女子差別撤廃条約 | 6. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和) |
| 3. ポジティブ・アクション(積極的改善措置) | 7. すべて知らない |
| 4. ジェンダー(社会的性別) | |

問 34 あなたは、次のような刈谷市の男女共同参画に関する取組みについてどのように感じていますか。(A～L のそれぞれについて、○は 1 つずつ)

	十分	まあ十分	ふつう	やや不十分	不十分	取組み自体を知らない
A 男女共同参画に関する意識啓発活動の推進（イベント・広報など）	1	2	3	4	5	6
B 子どもと保護者に対する男女共同参画意識の啓発（家庭、学校における教育・啓発など）	1	2	3	4	5	6
C 市職員への男女共同参画意識の定着（研修の実施など）	1	2	3	4	5	6
D 政策・方針決定過程への女性の参画促進（審議会や委員会への女性の登用など）	1	2	3	4	5	6
E 女性の就労とライフプランニングへの支援の充実（女性の就業機会の拡大・再就職の支援など）	1	2	3	4	5	6
F 地域における男女共同参画の推進（地域活動へ参加できる環境づくり、団体への支援など）	1	2	3	4	5	6
G 事業所と連携したワーク・ライフ・バランスの推進（働きやすい職場づくりなど）	1	2	3	4	5	6
H 男性の家事・育児・介護への参加促進（広報や講座による啓発など）	1	2	3	4	5	6
I 子育て、介護をする家庭への支援の充実（保育・介護サービスの充実など）	1	2	3	4	5	6
J DVをはじめとするあらゆる暴力の防止（DV防止の啓発、相談体制の充実など）	1	2	3	4	5	6
K 生涯を通じた健康づくりへの支援（母子保健・老人保健の充実、心の健康づくりなど）	1	2	3	4	5	6
L さまざまな困難を抱える市民への支援の充実（ひとり親家庭、外国人市民、障害のある男女への支援など）	1	2	3	4	5	6

問 35 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市民として何をすべきだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 男女共同参画に関する講座に参加するなど、自己啓発に努める
2. 生活の中の習慣、しきたりなどを見直す
3. 家庭において、子どもに対し男女平等を基本とする教育を行う
4. 家事や育児に積極的に関わる
5. 高齢者や病人の介護に積極的に関わる
6. 仕事をすることに對する意識を高める
7. 職業生活と家庭や地域での生活との両立をするために努力する
8. ボランティア活動や地域活動に積極的に参加する
9. 市政に対する関心を深め、参加意識を持つ
10. その他(具体的に：)
11. わからない

問 36 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事と家庭を両立するための制度(育児休業制度・介護休業制度など)を整備・充実する
2. 仕事と家庭を両立するための制度(育児休業制度・介護休業制度など)を利用しやすい職場環境をつくる
3. 在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる
4. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職をすすめる
5. 管理職に女性を積極的に登用する
6. 賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす
7. 研修や能力開発の機会を充実する
8. 男女共同参画に関する意識向上のための研修を実施する
9. 事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する
10. その他(具体的に：)
11. わからない

問 37 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、刈谷市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 男女共同参画条例を制定する
2. 審議会や各種委員会に女性を積極的に登用する
3. 刈谷市の管理職に女性を積極的に登用する
4. 男女共同参画社会の推進について、市民に意見を聞く機会を設ける
5. 男女共同参画社会を推進するための情報提供や催しを充実する
6. 男女共同参画のための活動拠点を充実する
7. 一人ひとりの意識改革を目的とした講座を充実する
8. 地域で活躍する女性の人材育成をする
9. 専門の相談機関を充実する
10. 保育施設や保育サービスなどの子育て支援を充実する
11. 介護施設や介護サービスなどの福祉施策を充実する
12. 働く女性の能力開発、職業意識の向上を目的とした講座を充実する
13. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援するための講座を充実する
14. 学校教育において男女平等教育を浸透させる
15. 男女共同参画に取り組む民間の企業などに対し、表彰や優遇措置等を行う
16. DV やセクハラなど男女間の人権侵害行為を防止する
17. 防災における男女共同参画をすすめる
18. その他（具体的に _____ ）
19. わからない

刈谷市 男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

平成 27 年3月

発行 刈谷市
編集 市民活動部市民協働課
〒448-8501 愛知県刈谷市東陽町一丁目 1 番地
TEL 0566-95-0002
URL <http://www.city.kariya.lg.jp/>
